

令和4年度教育改善報告書

— 効果的かつ効率的な教育活動を目指した点検評価 —

令和5年5月

長野工業高等専門学校
教育改善委員会

令和4年度教育改善報告書目次

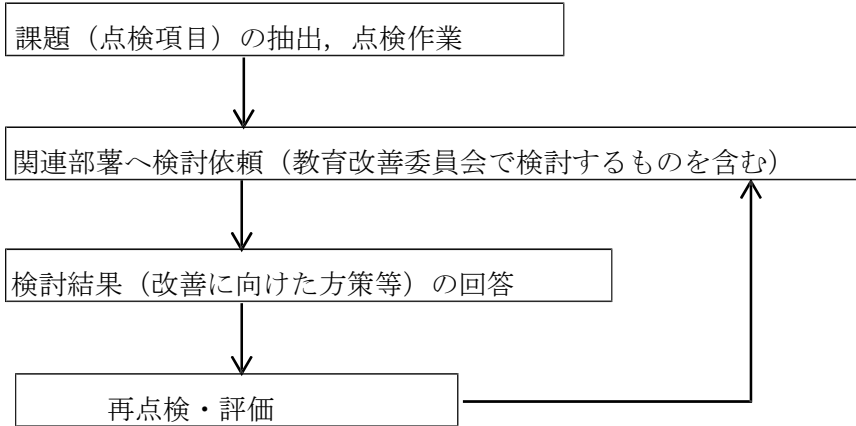
1. 令和4年度教育改善委員会の活動方針1
1-1 目標	
1-2 点検業務の流れ	
1-3 課題の分類、改善提案	
1-4 今年度の主な活動内容	
2. 令和4年度 各種委員会の活動状況の点検結果4
2-1 教務委員会	
2-2 学生支援委員会	
2-3 寮務委員会	
2-4 専攻科運営委員会	
2-5 図書館	
2-6 広報企画室	
2-7 教育支援センター	
2-8 グローバル教育推進センター	
2-9 男女共同参画推進室	
2-10 進路支援室	
2-11 教育改善委員会	
3. 令和4年度における各種点検報告45
3-1 学習・教育目標の達成度に関する調査報告書の点検	
3-2 学生との意見交換会に関する点検	
3-3 令和4年度参与会で出された改善点の整理	
3-4 実施済研修会の効果の点検およびその改善	
4. 令和4年度 FD 研修会実施報告53
4-1 第1回 FD 研修会 「本校における学生相談の実態と対策」 (11月9日)	
4-2 第2回 FD 研修会 「質保証重点項目について」 (3月14日)	
4-3 第3回 FD 研修会 「質保証重点項目について」 (3月29日)	
5. 令和5年度の活動に向けた各種委員会等への提言56
付録58
付録1 令和4年度専攻科学習・教育目標の達成度評価の確認報告	
付録2 令和4年度学習・教育目標の学生の自己達成度に関する調査報告書	
付録3 令和4年度学生との意見交換会 議事録	
付録4 令和4年度学生の満足度に関するアンケート調査実施結果	
付録5 第16回長野工業高等専門学校参与会概要	
付録6 令和4年度教育改善委員会議事概要	

1. 令和4年度 教育改善委員会の活動内容

1-1 目的

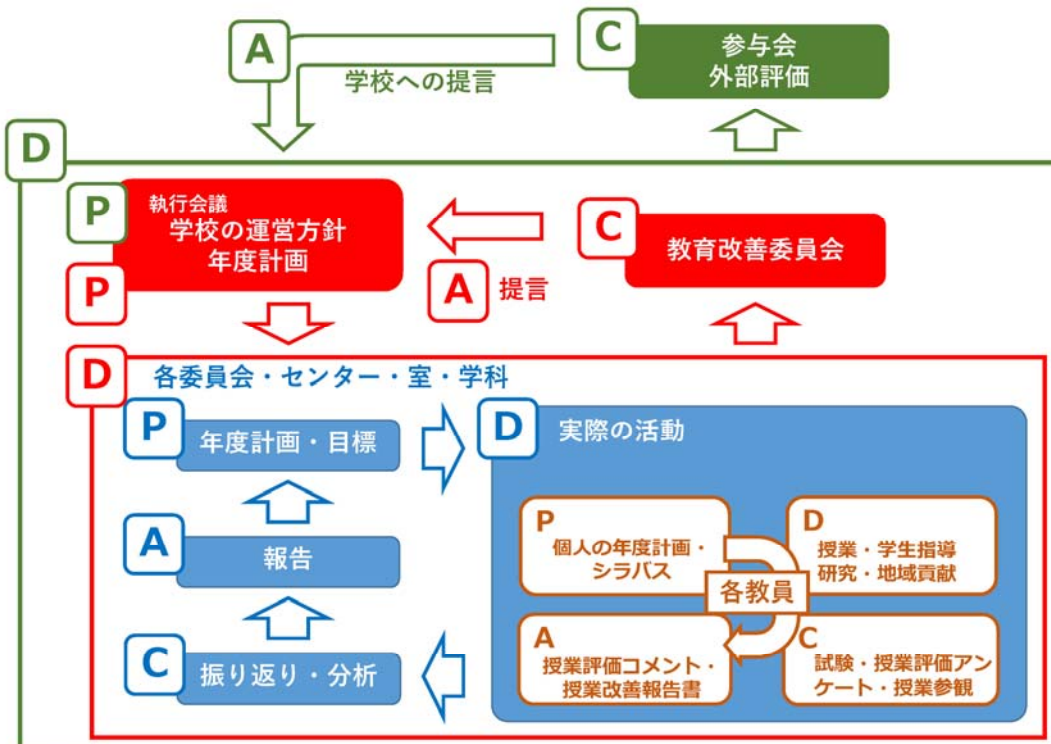
本校の教育システムを点検評価し、教育技術を向上させるための取り組み（FD）を推進し、本校の教育改善に努める。特にPDCAサイクルのA（Action）を重視し、教育改善として次のサイクルにつながる活動を推進する。

1-2 点検業務の流れ（Check）



1-3 課題の分類, 改善提案 (Action) -> (Next Plan)

- (1) 各種委員会等の活動状況を点検した後に整理された課題
- (2) FD研修会での結果を分析した後に整理された課題
- (3) 重点項目として教育改善委員会で取り上げた課題
- (4) アンケート調査の分析から得られた課題
- (5) 外部評価で指摘された課題
- (6) 教員, 学生, 保護者等から指摘された課題



1-4 今年度の主な活動内容

(1) 2022年度各種委員会の活動状況の点検

【各種委員会は、教務、学生支援、寮務、専攻科、図書館、広報企画、教育支援センター、グローバル教育推進センター、男女共同参画推進室、進路支援室、教育改善の11委員会とする。】

- ・2021年度教育改善委員会より提言した課題の検討・改善状況を点検する。
(令和3年度教育改善報告書を参照)
- ・2022年度当初に提示された計画に基づいて行った活動内容を点検する。
- ・2023年度の活動に向けた課題を整理し提言する。

(2) 授業改善システムの実施と評価・点検

- ・授業改善用チェック・提言シートに基づいて実施する。
- ・当システムの評価・点検を行う。

(3) 学習・教育目標の達成度（本科5年）に関する調査の点検および

自己評価シート（学年別 学習・教育目標の達成度）に関する改善方法の点検

(4) 学生との意見交換会に関する点検

- ・2021年度開催の意見交換会について点検および評価を行う。

(5) 2022年度参与会で出された意見に基づいた改善点の整理

- ・2022年度の参与会（2月開催）の点検と提言

(6) 卒業生・企業向けアンケート調査結果からの改善点を検討・評価し各部署へ改善点を依頼 教育改善に向けた作業計画（申し合わせ事項）【（ ）は前回の年度】

1年目（令和2（H27）年度）：改善内容の検討と各部署への依頼

2年目（令和3（H28）年度）：改善内容の実施

3年目（令和4（H29）年度）：改善内容の実施

4年目（令和5（H30）年度）：改善内容を含めた教育システムの評価

5年目（令和6（R1）年度）：卒業生・企業向けアンケート調査の実施

6年目（令和7（R2）年度）：改善内容の検討と各部署への依頼

(7) 実施済FD研修会の効果の点検およびその改善

- ・アンケートをタイムリーに実施し、FD研修会の効果を確認する。

(8) FD研修会の企画・開催および報告書の作成

第1回FD：（7月）

第2回FD：（9月）

第3回FD：（11月）

第4回FD：（1月）

教務委員会、男女共同参画推進室等
と連携する

(9) エビデンス収集・保管と方法の検討

- ・COVID-19の影響で実施された遠隔授業等を考慮して、柔軟に対応する。
- ・教育改善委員会ワーキンググループ（チーフ：委員長）が担当する。

(10) 試験問題レベルの保証確認 → 結果は学生課で保管

- ・年2回実施（前期10月、後期3月）
- ・各学科の保証確認作業は各学科の教育改善委員会委員が行う。

(11) 各部署への検討依頼，回答の集約

(12) メール目安箱への対応

(13) 2022年度版教育改善報告書の編集・発行

(14) COVID-19の影響の検証を行う。

1-5 教育改善委員会開催

- 第1回 5/26 : 方針, 業務分担, エビデンス収集
卒業生アンケート調査結果からの教育システムの評価
- 第2回 7/28 : FD計画, エビデンス収集
授業改善システム(2022年)の実施の依頼
- 第3回 9/30 : 授業改善システムの実施報告
教育の実施状況の確認, 試験問題レベル保証の確認(前期分)
- 第4回 11/17 : 各種点検の報告
FD,SD活動状況
- 第5回 1/27 : 教育改善報告書作成依頼, 各種点検の報告
- 第6回 3/24 : 教育改善報告書のまとめ
(委員会の活動状況点検, 学生との意見交換会を含む),
試験問題レベル保証の確認(後期分)
- その他 電子メール : FD研修会の実施について
: エビデンス収集作業依頼
: 試験問題レベルの保証(作業依頼)

2. 令和4年度 各種委員会の活動状況の点検結果

2-1 教務委員会

令和4年度 各委員会の重点項目への活動計画

委員会	担当	重点項目
教務委員会	教務主事	1. 学力の向上と質保証 2. 学科改組に伴う対応 3. 教員間の連携と協働教育の推進 4. 新型コロナウイルス対策

1. 学力の向上と質保証
 - ・「主体的、対話的で深い学び」の推進
 - ・校内学習塾等を活用した学力向上対策
 - ・授業公開やアンケート、FD研修会等の活性化
 - ・ポートフォリオ教育、分野横断的能力育成の実施
2. 学科改組に伴う対応
 - ・工学科新設科目の詳細計画と実施
 - ・系の選択方法の整備
 - ・人間力UP教育の検証
3. 教員間の連携と協働教育の推進
 - ・学科間連携、専攻科との連携の強化
 - ・モデルコアカリキュラムへの対応
 - ・Webシラバスの整備
 - ・他高専、他大学との連携推進
4. 新型コロナウイルス対策
 - ・学事暦の弾力的な運用や改訂
 - ・感染予防対策の継続
 - ・リモート授業の準備と対応

令和4年度 各委員会の重点項目への取組結果報告

委員会	担当	重点項目
教務委員会	教務主事	1. 学力の向上と質保証 2. 学科改組に伴う対応 3. 教員間の連携と協働教育の推進 4. 新型コロナウイルス対策

1. 学力の向上と質保証

- ・「主体的、対話的で深い学び」の推進
ポートフォリオ教育の検討とあわせて実施
- ・校内学習塾等を活用した学力向上対策
校内学習塾の実施を継続
- ・授業公開やアンケート、FD研修会等の活性化
授業公開およびフォームを用いたアンケートの実施
質保証に関するFD研修会の実施
- ・ポートフォリオ教育、分野横断的能力育成の実施
工学科1年生のZukudaseゼミにおける授業の振り返りシートの活用
1年生と4年生に対する分野横断的能力セルフチェックの実施

2. 学科改組に伴う対応

- ・工学科新設科目の詳細計画と実施
ものづくり基礎工学・実験の実施内容に関する改善を要する点の確認
エンジニアリングデザイン入門・実践の内容確認
工学科2年生の実習科目の実施計画
- ・系の選択方法の整備
希望調査2回の結果を踏まえ、受入可能人数確認等の本調査の対応検討
系選択の決定手順の整備
- ・人間力UP教育の検証
1年生と4年生に対する分野横断的能力セルフチェックの実施（再掲）

3. 教員間の連携と協働教育の推進

- ・学科間連携、専攻科との連携の強化
新カリキュラムへの対応に関する学科・科目関連携会議の開催
学事暦および時間割作成における専攻科との連携
- ・モデルコアカリキュラムへの対応
改訂版MCCの確認
分野横断的能力測定に関する新カリキュラムでの試行的対応
- ・Webシラバスの整備
Webシラバスの記入依頼と確認作業の実施
- ・他高専、他大学との連携推進
高専間提供科目の履修開始
他高専に向けて2科目開講

4. 新型コロナウイルス対策

- ・学事暦の弾力的な運用や改訂
追試験期間の確保
授業公開期間の延期での対応
- ・感染予防対策の継続
換気やマスクの着用、手指消毒、体調セルフチェックの継続
- ・リモート授業の準備と対応
グループウェアを利用した情報共有によるリモート対応の依頼

令和4年度 教務委員会の重点項目への取組結果の点検

教務委員会において提出された重点項目への取り組み結果報告を基に点検・評価を行い、次年度への提言を示す。評価は、◎、○、△、×の4段階で行う。

(1) 取組結果報告に基づく評価

重点項目	活動等計画	評価	根拠・確認事項
1. 学力の向上と質保証	「主体的、対話的で深い学び」の推進	○	・ポートフォリオ教育活用を検討している。
	校内学習塾等を活用した学力向上対策	○	・計画に従った実施がされている。 ある一定の効果があるものの、特定学生においては、欠席率が56%と多く、本来対策を必要としている学生に対して有効であると言い切れないため、改善が必要と思われる。 (例えば、学生間の学び合いを絡め「TAによるメンター制度」を成績不振の学生に対して行うことで、遅延なく理解できる体制にする等)
	授業公開やアンケート、FD研修会等の活性化	◎	・計画に沿って実施されている。 参加教員が少ない真の原因を究明し、実施方法の見直しが必要と思われる。
	ポートフォリオ教育、分野横断的能力育成の実施	○	・計画に沿って活動がされている。教育への活用を目指しFD研修(キャリアパスポート)を絡めるなど工夫をした活動をしている。 ポートフォリオは(パーソナルポートフォリオ)をしており、学習状況やキャリア形成を見通したり振り返ったりしながら、学生の変容や成長を自己評価できるよう工夫されたポートフォリオのことをキャリアパスポートとされている。この記録をもとに教員が対話的にかかわることによって、学生の成長を促し個性を伸ばす指導へ繋げていく必要があると思われる。
2. 学科改組に伴う対応	工学科新設科目の詳細計画と実施	◎	・計画通りに実行されている、 委員会会議議事録により、詳細計画の検討が確認され、その取り組みを確認した。 ものづくり基礎工学と実験、エンジニアリング入門と実践、工学科2年生の実習科目の実践計画の報告がされている。
	系の選択方法の整備	◎	・計画に基づき実施されている。 主専攻選択において1年生のものづくり基礎工学と基礎実験が参考になっている82.1%と加えて、交流会64.2%と数値で把握する取り組みができています。 希望する系以外となった学生の追跡調査を行い、十分なフォローを検討いただきたい。同時に、副専攻の選択で再びチャンスがあることも十分に伝達していくことも必要である。

	人間力UP教育の検証	○	・3月2日の委員会で報告を確認。 アンケート結果の改善フィードバックが欲しい。
3. 教員間の連携と協働教育の推進	学科間連携、専攻科との連携の強化	○	・改組による教育課程の変更にあたり、学科及び科目間連携会議が開催され、情報共有が図られている。専攻科との連携は、学校行事として連携できるところを行っている（インターンシップ報告会と企業書生など）。連携にもいろいろな連携があるため、具体的な連携の在り方を定義して頂きたい。
	モデルコアカリキュラムへの対応	◎	・計画に沿った活動がされている。 新学科の科目についても、MCC、学習教育目標との対応を確認した。
	Web シラバスの整備	◎	・計画に沿った取り組みがされている。 Web シラバスのチェックをどうするか検討する必要がある。
	他高専、他大学との連携推進	◎	・計画に沿った取り組みがされている。 高専間提供科目の検討に取り組みがなされている、長岡・豊橋技大との連携も例年通りの取り組みをされている。
4. 対策 新型コロナウイルス	・学事暦の弾力的な運用や改訂 ・感染予防対策の継続 ・リモート授業の準備と対応	◎	・社会状況に応じた運用及び対応がなされている。 新型コロナウイルス感染拡大は、中国の武漢からはじまり今年で4年目になる。感染拡大初期に比べ、今まで試行錯誤しながら対応を進め、授業のデジタル化は大幅に進展した状況にある。教務委員会が主導し、取り組みを行った成果であるといえる。

(2) 次年度への提言

- ・校内学習塾
ある一定の効果があるものの、特定学生においては、欠席率が56%と多く、本来対策を必要としている学生に対して有効であると言い切れないため、改善が必要と思われる。(例えば、学生間の学び合いを絡め「TAによるメンター制度」を成績不振の学生に対して行うことで、遅延なく理解できる体制にする等)
- ・授業公開アンケート
参加教員が少ない真の原因を究明し、実施方法の見直しが必要と思われる。
- ・ポートフォリオ教育
ポートフォリオは学習状況やキャリア形成を見通したり振り返ったりしながら、学生の変容や成長を自己評価できるよう工夫されたキャリアパスポートである。この記録をもとに教員が対話的にかかわることによって、学生の成長を促し、個性を伸ばすなどの指導へ繋げていただきたい。
- ・系の選択方法の整備
希望する系以外となった学生の追跡調査を行い、十分なフォローを検討いただきたい。同時に、副専攻の選択で再びチャンスがあることも十分に伝達していくこともお願いしたい。
- ・人間力UP教育の検証
1年生と4年生に対する分野横断的能力セルフチェック結果を確認することはなされているが、改善に向けたフィードバックの仕方を考えていく必要がある。
- ・学科間連携、専攻科との連携の強化
連携にもいろいろな連携があるため、具体的な連携の在り方を定義して頂きたい。

2-2 学生支援委員会

令和4年度 各委員会の重点項目への活動計画

委員会	担当	重点項目
学生支援委員会	学生主事	1. 問題行動の未然防止 2. 学生会活動の支援、 地域住民との信頼関係の構築

1. 問題行動の未然防止

- ・交通事故防止に向けた取り組み
- ・寮務委員会と連携した学生対応
- ・各種講習会を通じた問題行動防止への意識付け
- ・学生会と連携した問題行動防止への意識付け
- ・教員の連携による的確な学生の捉え、学生指導の徹底

2. 学生会活動の支援、地域住民との信頼関係の構築

- ・課外活動の支援
- ・工嶺祭の支援
- ・ボランティア活動や構外美化活動等を通じた地域住民との信頼関係の構築
- ・交通マナー向上による地域住民との信頼関係の構築
- ・新型コロナウイルス感染への対応

令和4年度 各委員会の重点項目に関する取組結果報告

委員会	担当	重点項目
学生支援委員会	学生主事	1. 問題行動の未然防止 2. 学生会活動の支援、 地域住民との信頼関係の構築

1. 問題行動の未然防止

- (1) 全学年に対して SNS 講習を行った。実施日時は1学年が4月25日、2学年が4月22日、4学年は各クラスで6月中に実施、3、5学年は8月から12月の間に各クラスで実施した。1、2、4年生に対して交通安全講習会を SNS 講習会と同日に行った。2学年は同日に消費者被害未然防止講習会を行った。また、11月の特活時に1学年は薬物乱用防止講習会を、3学年は生と性の講習会を行った。SNSの講習は、今後も重要になると考えられる。ラインやツイッターを長時間やり続けることの弊害、スマートフォンの管理、誹謗中傷行為は法的な処罰対象となることなど、十分指導していく必要がある。なお、今年度も新型コロナウイルス感染拡大の影響、また100番教室の改修（J棟の改修）のため、学年全員を集めての講演会・講習会を開催することが困難となり、クラス単位で動画コンテンツ利用などを利用し講演会、講習会を開催することができた。
- (2) 例年実施している夏と秋の交通安全指導（市立長野高校と合同）を7月11、12、13、14、15日、10月31日、11月1、2、4日に行った。前年度と同様に学生会役員が参加してくれた。学生が積極的に参加してくれて雰囲気良かった。交通ルール遵守及びマナー向上の効果だけでなく、市立長野高校との協力関係が向上した。
- (3) 「(2)」とは別に、7回（4、5、6、7、11、12月に1回ずつ）の交通安全指導を行った。特に2021年度に苦情があった2か所（①第一体育館西側T字路、②デイリーストア高専間の歩道）を重点的に指導した。①については「一時停止」のプラカードを持ち、安全確認の注意喚起、②については「自転車は降りて」のプラカードを持ち、危険走行の注意喚起を行った。11月末から12月にかけて学生の交通事故が2回起きたため全学生向けに注意喚起のメールを配信した。
- (4) 喫煙及び車両に関する巡回指導は8回行った。
- (5) バイクでの通学許可申請を年度末に行えるように改善した（※昨年度は新年度に本申請を行っていたため、申請期間中（4月上旬）は無許可でのバイク通学となっていた）。

2. 学生会活動の支援、地域住民との信頼関係の構築

I 学生会活動の支援

- (1) 学友誌「翠嶺」について、一部再提出してもらった学生もいたが、予定通り終業式で配布することができた。
- (2) クラスマッチは午前午後の2部制として、入場規制、入退場時の消毒、一方通行の徹底、拍手での応援、試合毎の消毒、種目の変更（ソフトボール、バドミントン、バレーボール、コロナ対応リレー、ボッチャ、大縄跳び）などの対応をして実施した。
- (3) 次の企画をオンラインで行った。学生総会（teams 配信）、学生会選挙（google フォーム）、クイズ企画（メール）、e-sports 企画（teams 配信）、5年生を送る会。
- (4) 学生会選挙は昨年同様オンライン実施となった。オンラインではあるが、選挙に関する原則を崩さないように行うことができた。投票率の悪さは少しだけ改善したが、もう少し工夫して投票を呼び掛けたい。総投票数 574 票。集計が容易であるので、可能な限りオンラインでの実施を継続していきたい。
- (5) 市立長野高校生徒会と連携しての挨拶運動及び交通安全の呼びかけを7月と11月に行った。朝8時00分～8時40分まで通学量の多い場所に立ち、挨拶をしながらイヤホン着用や自転車マナーに関する声掛けを行った。
- (6) 関東信越地区高専夏季交流会を実施した。今年度は長野開催（主管）であった。当初は8月末に行う予定であったが、感染状況をふまえ、10月1日、2日に延期し、対面とオンラインのハイブリッドで実施した。
- (7) 電子決済「Shachihata Cloud」を活用し、企画書等の文書の確認、承認および印鑑の捺印をオンライン上で行うシステムを導入した。大きなトラブルもなく快適に使用できているので継続していきたい。
- (8) 昨年度対面での実施ができなかった学校との意見交換会を新年度、4月に実施した。今年度分の学校との意見交換会は1月に実施できた。
- (9) ここ数年できていなかった、リーダーズ研修会として日本赤十字社長野県支部の基礎講習を受講

した。4時間コースを32名で受講し、全員合格した。

- (10) キャンパス創造プロジェクトとして、学生会主導で学生が利用しやすい中庭の整備を行った。
- (11) 12月にクリスマス企画として、イルミネーションを前庭で実施した。

II 部長会活動の支援

- (1) 部・同好会の継続審査を行った。審査は「部同好会活動の継続許可基準」に基づき、実施された。
- (2) 課外活動は感染対策を行ったうえで、実施した。昨年と比較して多くの大会やコンテストが開催され、参加することができた。
- (3) 今年度より、課外活動指導員を7名に増やしていただき、平日17時-19時の課外活動の見回り等も行っていただいた。また、昨年度からの継続で休日活動の構内見回りや大会の引率をしていた。特に休日活動では、参加者の把握等を行っていただき、教員の業務負担軽減になった。
- (4) 課外活動の指導教員に関しては、2018年度末に、5年に1度の大幅な見直しを実施しているのので、今年度末に関しては、退職等異動のあった教員(団体)に対する補充にとどめた。ただし、教員の業務負担軽減の観点から一教員あたりの指導団体数の上限を3団体、主顧問を1団体にすよう年度末に調整した。
- (5) 感染状況に合わせて課外活動への制限や提出物の連絡等を極力迅速に行った。

III 工嶺祭の支援

- (1) 新型コロナウイルス対応

新型コロナウイルス対感染拡大の影響が徐々に小さくなり、今年度から外部からの来場者数を制限して迎え入れることになった。ただし、本校学生を午前・午後で入れ替える代わりに、外部からの来場者、午前500名、午後500名を受け入れることにした。つまり、学内の実質の上での人の増減を±0とした。結果としては、10月後半は感染の谷間に相当する時期であり、工嶺祭に起因するクラスターの報告はなかった。

外部からの来場者を募る方法には、Google formを使用したが、募集開始30分程度でアクセス集中のためformが使用できなくなった。その後、2日後に復旧したものの、ごく短時間で定員に達した。これについて、特にクレームは届いていないが、多くの人に不満があったことと推察する。

屋台は、手配の都合上、8月上旬に実施の可否を判断しなければならないが、この8月上旬はコロナの感染が拡大する時期である。このため、屋台を中止すると判断せざるを得なかった。

体育館での夜のステージ(夜祭)は、人数を100人に絞って、椅子を千鳥状に配置して、ソーシャルディスタンスを確保した。2日間で述べ200人の人数は、ちょうど夜祭に参加を希望する学生数とほぼ同じであった。

- (2) 駐車場

J科棟改修のため、J科棟前の駐車場が1/3ほど使用できず、外部の駐車場を借用した。今年度は、アイテクノ矢嶋(45/80)、ながのコロニー(65)、市立高校(50)、仮設住宅跡地(50)、ケーアイ(40)、いでうら(35)、りんどう(18)の駐車場を借用した(カッコ内の数字は車の収容台数)。J科棟前の駐車場は出勤する教員数が予測しづらいため、予備とした。今年の工嶺祭は、午前・午後に入れ替え制のため、午前の来場者が駐車場を退出しないと、午後の来場者が駐車場を利用できないというリスクがあった。このため、可能な限り入れ替えが少なくても収容できるよう駐車場の割り当てを決めた。アイテクノ・コロニー周辺の道路は狭いため、ある程度の渋滞が生じたようだが、総じて大きな混乱なく運用することができた。

- (3) 各クラスならびに団体企画

低学年で教室使用のルール等を守れていないクラスが見られた。もちろん各クラスへ禁止事項は知らせてはいたが、経験不足と思われる。使用音源や映像などの著作権等については、以前よりの指導により、工嶺祭役員の意識が非常に高く、各クラスへの指導が行き届いたため、特に問題が報告されなかった。

- (4) 企業展について

近年、企業のポスター展示から、企業がクラスと連携してクラス展を創り上げる形に改められた。工嶺祭をさらに盛り上げ、企業と学生をつなげる接点となっている。ところが、5Mでは、9月末ごろに、学生のニーズと企業の得意分野とのミスマッチが報告された。今年のワークフローでは、主事補や工嶺祭の指導教員に企業展の進捗が直接入ってくることがない。主事補や工嶺祭の指導教員がコーディネータとなって、企業とクラスの間に入る必要がある。

(5) インターネット配信

今年から夜ステージは有観客になったものの人数制限もあるため、インターネット配信を行った。教室で夜ステージを視聴しているクラスを見かけたりして利便性は向上したが、これも、負担とのバランスを考慮しなければならない。

(6) 執行部と建設係について

執行部と建設係との軋轢が非常に目立った。建設係が企画審査会に来ないだけでなく、1つ1つの考え方が執行部と合致しない。他にも、工嶺祭指導教員に大変非礼な文書を出していたりもする。そして、同じような考え方をを持った学生が毎年建設係に集まるので、建設係の“カラー”が引き継がれていく。主事補として建設係と執行部の間に立って双方を理解するよう努めた。が、解決の糸口は全く見つけられない。

3. 総括

- (1) 新型コロナウイルス感染症の影響で、昨年につき学生には我慢をお願いすることが多かったが、5月中旬からは5類に変更される見通しであるとの報道がされるようになり、ようやく明るい兆しが見えてきた。来年度は、以前のように明るい気持ちで生活することができるよう、学生や保護者の気持ちに寄り添いながら学生の生活を支援していきたい。
- (2) 令和2年の秋から、課外活動指導員（非常勤職員）を2名雇用していただいたお陰で、休日に構内で行われる課外活動に関しては、常勤教員の対応が原則不要になった。また、昨年度は平日の放課後（17:00～19:00）に関しても課外活動指導員対応となり、複雑な変形労働カレンダー（人事係）が不要となった。
- (3) 一時不停止、自転車の歩道走行や右側通行などに関する近隣住民からの苦情も寄せられている。警察にも協力を依頼しつつ、市立長野高校とも連携し、交通安全指導を継続して行っていく。
- (4) 来年度も学生生活の安心と安全が守られるよう、教務委員をはじめ他の委員会とも連携し、教員及び職員が一枚岩となった学生指導・学生支援を目指す。

令和4年度 各委員会の重点項目への取組結果の点検

学生支援委員会において提出された重点項目への取組結果報告を基に点検を行い評価し、次年度への提言を示す。評価は、◎、○、△、×の4段階で行う。

(1) 取組結果報告に基づく評価

重点項目	活動等計画	評価	根拠・確認事項
1. 問題行動の未然防止	交通事故防止に向けた取り組み	◎	第6回会議-報告4等で審議確認。 ・喫煙・車両違反等の巡視
	寮務委員会と連携した学生対応	○	第2回会議-議題1等で審議確認 ・通学生の寮立ち入りに関する指導の実施
	各種講習会を通じた問題行動防止への意識付け	◎	第4回会議-議題3等で審議確認 ・薬物乱用防止講習会(1年生) ・生と性の講習会(3年生) ・SNS・成年年齢引き下げ講習会の実施(3・5年)
	学生会と連携した問題行動防止への意識付け	○	第2回会議-報告6等で審議確認
	教員の連携による的確な学生の捉え、学生指導の徹底	○	第2回会議-報告6等で審議確認
2. 学生会活動の支援、地域住民との信頼関係の構築	課外活動の支援	◎	第7回会議-報告3等で審議確認
	工嶺祭の支援	◎	第6回会議-報告2等で審議確認 ・
	ボランティア活動や構外美化活動等を通じた地域住民との信頼関係の構築	◎	第3回会議-報告2等で審議確認
	交通マナー向上による地域住民との信頼関係の構築	◎	第3回会議-報告2等で審議確認
	新型コロナウイルス感染への対応	◎	第2回会議-議題3等で継続審議確認

(2) 次年度への提言

- ・問題行動の発生は皆無ではないため、問題行動の未然防止は、継続して未然に防止するための活動を、試行錯誤して行っていく必要がある。
- ・新型コロナ感染症の対応では、都度できる限りの対策を行ってきたと思われる。来年度からはいろいろな規制も緩和・廃止される方向であるが、有益と思われた対策等はマニュアル化し、次の感染症に備えることが必要と思われる。

2-3 寮務委員会

令和4年度 各委員会の重点項目への活動計画

委員会	担当	重点項目
寮務委員会	寮務主事	1. 自立性・協調性をもった コミュニティ作り 2. 指導・表彰などの体制作り 3. システムの構築・見直し、 および施設面の充実

1. 自立性・協調性をもったコミュニティ作り
 - ・寮生の寮生活支援のための施策検討
 - ・アンケートによる環境調査
2. 指導・表彰などの体制作り
 - ・指導体制作りの実施
 - ・表彰体制作りの実施
 - ・表彰の案内
3. システムの構築・見直し、および施設面の充実
 - ・システムの構築・見直しの準備
 - ・施設面の充実の準備

令和4年度 各委員会の重点項目への取組結果報告

委員会	担当	重点項目
寮務委員会	寮務主事	1. 自立性・協調性をもった コミュニティ作り 2. 指導・表彰などの体制作り 3. システムの構築・見直し、 および施設面の充実

1. 自立性・協調性をもったコミュニティ作り
 - ・寮生の寮生活支援のための施策検討
 - ・アンケートによる環境調査

2. 指導・表彰などの体制作り
 - ・指導体制作りの実施
 - 寮担からの学生への直接の指導体制の構築
 - 担任から保護者への連絡体制の構築
 - 年2回の違反状況の郵送通知の実施
 - 違反システムの見直しの実施

 - ・表彰体制作りの実施
 - 寮生努力賞および功労賞の選考および発表の実施

 - ・表彰の案内
 - 寮生努力賞および功労賞の通知および表彰の実施

3. システムの構築・見直し、および施設面の充実
 - ・システムの構築・見直しの準備
 - コロナ下におけるシステムの再構築の実施

 - ・施設面の充実の準備
 - コロナ対策としての食堂つい立の交換を実施
 - 女子寮入口のカードキー化の実施
 - ネットワークの切り替えの実施
 - Wifiスポットの設置

令和4年度 各委員会の重点項目への取組結果の点検

寮務委員会において提出された重点項目への取組結果報告を基に点検を行い評価し、次年度への提言を示す。評価は、◎、○、△、×の4段階で行う。

1. 寮務委員会

(1) 取組結果報告に基づく評価

重点項目	活動等計画	評価	根拠・確認事項
1. 自立性・協調性をもったコミュニティ作り	・寮生の寮生活支援のための施策検討	○	第2回【資料2】 第4回【資料4】 第11回【資料4】
	・アンケートによる環境調査	○	第7回【資料4】 第8回報告2 第9回報告2
2. 指導・表彰などの体制作り	・指導体制作りの実施	◎	第2回【資料3】 第6回【資料4】 第8回議題12 第11回【資料3】 第11回議題10
	・表彰体制作りの実施	◎	「寮生努力賞」「功労賞」の導入 第4回【資料p53,54】 第10回【資料3】
	・表彰の案内	○	第4回【資料p53,54】
3. システムの構築・見直し、および施設面の充実	・システムの構築・見直しの準備	◎	第1回【資料15-1】 第5回議題7 第11回【資料4】
	・施設面の充実の準備	◎	第2回【資料2-2】 第4回議題9 第4回報告事項1 第7回【資料7-5】 第11回【資料4】

(2) 次年度への提言

- ・ コロナ対応で縮小した寮生活動を次年度以降どのような元に戻すか準備が重要と思われる。
- ・ コロナ対応の個室化が寮生活態度の悪化への影響があると思われる。寮務委員会と寮生会による教育寮としての取り組みが今後の対応が重要と考える。
- ・ 桜風寮の国際交流などによる有効活用と学外への発信が重要となる。

2-4 専攻科運営委員会

令和4年度 各委員会の重点項目への活動計画

委員会	担当	重点項目
専攻科運営委員会	専攻科長	1. 入学者数の確保 2. 学士の取得支援 3. 特例適用専攻科における「教育の実施状況等の審査」への対応 4. 学修総まとめ科目担当教員の増加

1. 入学者数の確保
 - ・進学講演会等での説明（連携教育プログラムの説明を含む）
 - ・専攻科運営委員による各科への呼びかけ
2. 学士の取得支援
 - ・学士申請説明会の開催
 - ・学修総まとめ科目履修計画書および成果の要旨の作成支援
3. 特例適用専攻科における「教育の実施状況等の審査」への対応
 - ・教員が作成する講義要目，個人調書等の作成支援
 - ・審査書類の編集および提出，補正審査への対応
4. 特別研究担当教員の増加
 - ・教員への研究業績積上げの依頼
 - ・個表増加を目的とした教員への働きかけ
 - ・准教授以上への昇任教員への個表申請の働きかけ
 - ・連携教育プログラムにおける研究マッチング数の増加

令和4年度 各委員会の重点項目への取組結果報告

委員会	担当	重点項目
専攻科運営委員会	専攻科長	1. 入学者数の確保 2. 学士の取得支援 3. 特例適用専攻科における「教育の実施状況等の審査」への対応 4. 学修総まとめ科目担当教員の増加

1. 入学者数の確保

- ・進学講演会等での説明（連携教育プログラムの説明を含む）
 【実施内容】12月21日(水)の進学講演会にて実施
- ・専攻科運営委員による各科への呼びかけ
 【実施内容】委員を通じた本科学生へのPRの実施

2. 学士の取得支援

- ・学士申請説明会の開催
 【実施内容】7/20(水)「履修計画書」、12/7(水)「成果の要旨」作成説明会を開催
- ・学修総まとめ科目履修計画書および成果の要旨の作成支援
 【実施内容】9/8(木)～21(水)「履修計画書」のチェック作業を実施
 1/11(水)～31(火)「成果の要旨」のチェック作業を実施

3. 特例適用専攻科における「教育の実施状況等の審査」への対応

- ・教員が作成する講義要目、個人調書等の作成支援
 【実施内容】審査対象教員56名に対して専攻科長と学生課長補佐が書類作成を支援
- ・審査書類の編集および提出、補正審査への対応
 【実施内容】専攻科長と学生課長補佐による校正作業、教員2名に対する補正対応

4. 特別研究担当教員の増加

- ・教員への研究業績積上げの依頼
 【実施内容】委員を通じた依頼、教員会議での依頼
- ・個表増加を目的とした教員への働きかけ
 【実施内容】審査情報の周知、可能性のある教員への依頼
- ・准教授以上への昇任教員への個表申請の働きかけ
 【実施内容】審査情報の周知、可能性のある講師への依頼
- ・連携教育プログラムにおける研究マッチング数の増加
 【具体的な実施内容】委員を通じて審査情報を周知したが、マッチング希望なし

令和4年度 各委員会の重点項目への取組結果の点検

専攻科運営委員会において提出された重点項目への取組結果報告を基に点検を行い評価し、次年度への提言を示す。評価は、◎、○、△、×の4段階で行う。

(1) 取組結果報告に基づく評価

重点項目	活動等計画	評価	根拠・確認事項
1. 入学者数の確保	・進学講演会等での説明（連携教育プログラムの説明を含む）	○	・第1回進路支援室会議議題4「学事暦」資料4-1-5
	・専攻科運営委員による各科への呼びかけ	○	・第11回報告2「専攻科志望状況について」資料7 ・専攻科運営委員を通じて各学科へ依頼
2. 学士の取得支援	・学士申請説明会の開催	◎	・第4回報告4「7/20 学士申請説明会」で履修計画書の作成法を説明 ・第9回報告4「12/7 学士申請説明会」で成果の要旨の作成法を説明
	・学修総まとめ科目履修計画書および成果の要旨の作成支援	◎	・第6回議題3「学位申請チェック作業について」資料3（履修計画書ドラフト版の確認と電子申請システムの入力内容の確認） ・第11回議題6「令和4年度専攻科運営委員会後期活動概要（案）について」成果の要旨ドラフト版の確認と単位修得状況申告書の確認
3. 特例適用専攻科における「教育の実施状況等の審査」への対応	・教員が作成する講義要目、個人調書等の作成支援	◎	・第1回教員会議報告4 専攻科報告「講義要目等の作成依頼」 ・第3回教員会議報告4 専攻科報告「個人調書の作成依頼」
	・審査書類の編集および提出、補正審査への対応	◎	・第4回運営会議報告4 専攻科・進路支援室報告「個人調書校正中」 ・第7回運営会議報告4 専攻科・進路支援室報告「56名分提出」 ・第10回運営会議報告4 専攻科・進路支援室報告「審査結果」 ・第12回運営会議報告3 専攻科・進路支援室報告「審査結果」
4. 特別研究担当教員の増加	・教員への研究業績積上げ依頼	△	・第9回報告1「特例適用専攻科における教育

			の実施状況等の審査の補正対応について」 ・第13回教員会議報告1「専攻科報告」
	・個表増加を目的とした教員への働きかけ	△	・第4回議題3「特例適用認定の変更審査調査について」資料2
	・准教授以上への昇任教員への個表申請の働きかけ	△	・第4回議題3「特例適用認定の変更審査調査について」資料2 ・現在指導補助教員で准教授に昇任した教員と、業績が良好な講師に対して申請を依頼
	・連携教育プログラムにおける研究マッチング数の増加	○	・第9回報告3「連携教育プログラム協議会について」資料7 ・専攻科運営委員を通じて各学科へ依頼したが、希望者なし

(2) 次年度への提言

- ・年度初めに提示された重点項目4つのうち、3項目については精力的に働きかけられていた。入学者数の確保、学士の取得支援および特例適用専攻科における「教育の実施状況等の審査」への対応は丁寧に進められていた。特別研究担当教員の増加については、学科改組絡みで電気情報システム専攻の特別研究担当教員が、形式上増加している。しかし、教員への研究業績積上げ依頼は毎年行われているにも関わらず、個表の総数は大きく変化していない。個表の総数を増やすためには、研究業績の積上げが不可欠であり、研究業績の積み上げの支援や研究主事と連携をするなど、抜本的な改善が必要である。個表増加を目的とした教員への働きかけ、准教授以上への昇任教員への個表申請の働きかけも、研究業績の積上げがベースになるもので、教員への研究業績の積上げ依頼とセットで抜本的に見直す必要がある。

2-5 図書館

令和4年度 各委員会の重点項目への活動計画

委員会	担当	重点項目
図書館	図書館長	コロナ後を見据えた図書館運営 1. 図書館利用の促進 2. 各種イベントの検討と実施

1. 図書館利用の促進

- ・感染症対策を実施したうえでの図書館の通常時間運営への移行
- ・新入生に対する授業及びオリエンテーションでの利用方法の説明
- ・授業・学習・研究での図書館利用のサポート
- ・電子ジャーナル・データベースの教員および学生への周知と利用の活性化

2. 各種イベントの検討と実施

- ・ブックハンティング、ブブリオバトル、図書館講演会の再開を計画し、本年度実施できなかったものについても次年度へ向けて計画をはかる

令和4年度の各委員会の重点項目

委員会	担当	重点項目
図書館	図書館長	1. 図書館利用の促進 2. 図書館購読雑誌について検討 3. 電子ジャーナル・データベースの利用促進

1. 図書館利用の促進

- ・感染症対策を実施したうえで図書館の通常時間運営に移行を行った。
- ・親友性に対する授業およびオリエンテーションでの利用方法の説明を行った。
- ・授業、学習、研究での図書館利用のサポートを行った。
- ・図書館講演会、ブックハンティング、ビブリオバトルの再開を計画し、本年度実施できなかったものについても次年度に向けて計画を図る。

2. 図書館購読雑誌について検討

- ・図書館購読雑誌、図書館利用等アンケートを実施した。

3. 電子ジャーナル・データベースの利用促進

- ・授業・卒研・特別研究等での利用促進とサポート体制を整え、購読確認を行った。

令和4年度 各委員会の重点項目への取組結果の点検

図書館において提出された重点項目への取組結果報告を基に点検を行い評価し、次年度への提言を示す。評価は、◎、○、△、×の4段階で行う。

(1) 取組結果報告に基づく評価

重点項目	活動等計画	評価	根拠・確認事項
1. 図書館利用の促進	授業、学習、研究での利用方法の研究、サポートを充実する。	◎	・1年生への図書館紹介実施について第1回議事録で確認。
	図書館講演会、ブックハンティング、ビブリオバトルを例年企画し実施している。	×	・実施に関する議事録は確認できない。
2. 図書館購読雑誌について検討	図書館購読雑誌、図書館利用等アンケートを実施する。	◎	・アンケート実施及び結果(2021年度)を第1回議事録で確認。
3. 電子ジャーナル・データベースの利用促進	授業・卒研・特別研究等での利用促進とサポート体制を整え、そのことについて教員および学生に周知し活性化を図る。	△	・教員への電子ジャーナル購読確認

(2) 次年度への提言

- ・ブックハンティングやビブリオバトルの実施について議事録等記録を残し、改善に資することが求められる。
- ・図書館の紹介や利用方法については新入生に対し、図書館主導で時間を取り説明することが良いと思われる。
- ・学生向けの授業や卒研での電子ジャーナル利用促進や周知が求められる。

2-6 広報企画室

令和4年度 各委員会の重点項目への活動計画

委員会	担当	重点項目
広報企画室	委員長	1. 小中学生へのPR 2. 地域、地域企業へのPR 3. 学生、保護者、卒業生への情報発信

3つの重点項目について、各部門において以下のように活動する。

1. 公開企画部門

今年度の目標

- ・長野県下の小中学校における教育を側面から支援し、地域への貢献・地域との連携をより一層推進すること。また、理系の面白さを伝えることに加え、長野高専のPR、入試倍率確保への戦略を考える。そのために、地域で開催されるイベントに、積極的に参加する。

今年度の活動計画

- ・サイエンスツアー（出前授業）およびサイエンス・ライブ（公開講座）は、5/9 締切りで募集する。サイエンスツアーの学生サポートは当面の間、依頼しない。サイエンス・ライブ（公開講座）は、オンライン開催のみをする。
- ・各種科学イベント（まつもと広域ものづくりフェア、体験と学びの環境博ー信州環境フェア2022ー、産業フェア in 信州 2022、長野高専キッズサイエンス 2022）は、実施に向けて準備を行う。
- ・産業フェア（長野しんきんビジネスフェア 2022、ぞっこんさく市、諏訪圏工業メッセ 2022、産業フェア in 信州 2022、上田地域産業展 2022）は、参加に向けて準備を行う。

2. 刊行物部門

今年度の目標

- ・小中学生、地域・企業、学生、保護者、卒業生にPR・情報発信するために、「学園だより」の発行、オリジナルグッズ配付などを行う。
- ・新学科工学科スタートに伴い、Web ページの文面の見直し、「学校案内」のリニューアル、「学校便覧」の修正を行う。
- ・今後、「学校便覧」の紙ベースでの出版の見直し作業を行う。

今年度の活動計画

- ・「学園だより」を3回発行する。春号は500部、体験入学に夏号と合わせて配付する。
- ・消しゴム、定規、エコバッグ、クリアファイルにオリジナルグッズを限定して作成し、各所で配付する。
- ・「学校案内」の工学科改組に伴うリニューアル作業をする。
- ・「学校便覧」の工学科改組に伴う修正作業、および今後の紙ベースでの発行についての見直しをする。

3. 情報発信部門

今年度の目標

- ・小中学生、地域・企業、学生、保護者、卒業生に対して、新しい情報をタイムリーで分かりやすくPR・情報発信する。

今年度の活動計画

- ・新学科工学科スタートに伴うHPの部分リニューアルや新既コンテンツを追加する。
- ・古い情報の整理をするとともに、トップページからコンテンツへにたどりつくためのルートを整理する。
- ・HPの全面リニューアルの検討、HPの管理・運営体制の検討する
- ・メンテナンスを依頼し、年次作業についても、外部に依頼できる体制を検討する。
- ・ホームページのサイトメンテナンスや保守業務などを行い、ホームページの維持に努める。

令和4年度 各委員会の重点項目への取組結果報告

委員 会	担当	重 点 項 目
広報企画室	委員長	1. 小中学生へのPR 2. 地域、地域企業へのPR 3. 学生、保護者、卒業生への 情報発信

3つの重点項目について、各部門において以下のように活動を実施した。

1. 公開企画部門

- ・科学イベント関係では、青少年のための科学の祭典 2022 長野大会に 3 テーマ教員 4 人が参加、2022 まつもと広域ものづくりフェアに 2 テーマ教員 3 人が参加、産業フェア in 信州 2022 キッズものづくりランド 1 テーマ教員 1 人が参加、長野高専キッズサイエンス 2022 in トイゴに 5 テーマ教員 5 人が参加した。長野高専キッズサイエンス 2022 は中止のため参加しなかった。
- ・サイエンスツアーは、公開テーマ 13 件、別テーマ 6 件、実施件数：合計 30 件、参加者 874 名であった。昨年度より実施件数は 9 件、参加者数は 81 名増えた。
- ・サイエンスライブは、実施テーマ 2 件であった。
- ・産業フェア関連は、しんきんビジネスフェアに 1 ブース、SAKU メッセに 1 ブース、諏訪圏工業メッセに 1 ブース (2 コマ利用)、産業フェア in 信州 2022 に 1 ブース (3 コマ利用)、上田地域産業展にリアル開催として 1 ブース (2 コマ利用) とオンラインブースとして 1 ブースを出展した。昨年度はリアル開催が 1 件のみであったが本年度はコロナ禍前と同じに復調した。
- ・NAGANO SDGs PROJECT の出前授業として 2 件参加した。

2. 刊行物部門

- ・「学園だより」は 185 号 (春号)、186 号 (夏号：学生会特別号)、187 号 (冬号) を作成、発行した。来年度の 188 号 (春号) は現在作成中である。
- ・2023 年度 (R4 年度)「学校要覧」については、新一年生が「工学科」となったことに伴い、2~5 年生とは別に工学科のコンテンツを作成した。また 2 年以降の内容についても、内容を厳選しスリム化を図った。
- ・2024 年度 (R5 年度)「学校要覧」については業者を変更し (プラルトからキャロット)、新たなデザインを作成中である。
- ・「R5 年度 入学案内パンフレット」および「入学案内ポスター」は改組後の新たな内容で刷新し、表紙および中身のデザインも中学生に魅力的に映るものに作り替えた。
- ・現在作成中の「R6 年度 入学案内パンフレット」についても、新一年生から 4 名のモデルに協力してもらい、図書館などで撮影した画像を使用し、更なるデザインの変更・修正を行っている。
- ・シャープペンシル、消しゴムのオリジナルグッズの追加発注をし、出前授業等で配布した。消しゴムについてはカバーの色を変更した。

3. 情報発信部門

- ・ウェブページ更新作業、更新サポート、ウェブシステム保守・管理を行った。
- ・工学科改組に対応した Web サイトの部分改修を行った。
- ・工学科紹介特集ページの公開 中学校へ配布した学校案内からアクセスできるよう (QR コード掲載)、基本部分のみを 6 月までに仕上げた特集ページを先行公開した。体験入学当日のタイミングに合わせて、系・院・授業内容の紹介も追加した完成版を本公開し、トップページのジャイアントバナーにて展開した。
- ・学生・卒業生、女子、教員の活躍記事の依頼・掲載を行い、5 件のインタビュー記事を掲載した。
- ・コンテンツの作成・整理を行った。具体的には、Gear5.0 や新規事業である数理・データサイエンス・AI 教育プログラム、高専体育大会情報などのページである。また、古くなった刊行物、現在所属していない教員のインタビュー記事などを削除・整理し、教員個人のページも長期間更新されていないページをリンクから外した。現在、工学科改組にともなう英語ページの修正更新を行っている
- ・60 周年記念事業の一として Web サイトを全面リニューアルするはこびとなった (令和 6 年 4 月公開予定)。

令和4年度 各委員会の重点項目への取組結果の点検

広報企画室において提出された重点項目への取組結果報告を基に点検を行い評価し、次年度への提言を示す。評価は、◎、○、△、×の4段階で行う。

1. 広報企画室

(1) 取組結果報告に基づく評価

3つの重点項目に対して各部門で活動した結果を以下のように評価する。

重点項目	活動等計画	評価	根拠・確認事項
1. 公開企画部門	・サイエンスツアー（出前授業）およびサイエンス・ライブ（公開講座）は、5/9 締切りで募集する。サイエンスツアーの学生サポートは当面の間、依頼しない。サイエンス・ライブ（公開講座）は、オンライン開催のみをする。	◎	・昨年度よりサイエンスツアーの実施件数が7件増 ・サイエンスライブ2件のうち1件は体験で実施 ・第2回委員会報告
	・各種科学イベントは、実施に向けて準備を行う。	◎	・4件参加、1件中止 ・第2回委員会報告
	・産業フェアの参加に向けて準備を行う。	◎	・5件参加 ・第2回委員会報告
2. 刊行物部門	・「学園だより」を3回発行する。春号は500部、体験入学に夏号と合わせて配付する。	◎	・3回発行 ・第2回委員会報告
	・消しゴム、定規、エコバッグ、クリアファイルにオリジナルグッズを限定して作成し、各所で配付する。	◎	・2種のグッズを追加発注、出前授業等で配布 ・第2回委員会報告
	・「学校案内」の工学科改組に伴うリニューアル作業をする。	◎	・リニューアルをして発行済み ・第2回委員会報告
	・「学校便覧」の工学科改組に伴う修正作業、および今後の紙ベースでの発行についての見直しをする。	○	・工学科改組に伴う修正を行った ・紙ベースの発行の見直しができなかった ・第2回委員会報告
3. 情報発信部門	・新学科工学科スタートに伴うHPの部分リニューアルや新既コンテンツを追加する。	◎	・部分リニューアルや新既コンテンツを追加した ・第2回委員会報告
	・古い情報の整理をするとともに、トップページからコンテンツにたどりつくためのルートを整理する。	○	・整理を行った ・第2回委員会報告
	・HPの全面リニューアルの検討、HPの管理・運営体制の検討する	◎	・来年度のWebの全面リニューアルへの道筋が分かった ・第2回委員会報告
	・メンテナンスを依頼し、年次作業についても、外部に依頼できる体制を検討する。	×	・第2回委員会報告
	・ホームページのサイトメンテナンスや保守業務などを行い、ホームページの維持に努める。	◎	・第2回委員会報告

(2) 次年度への提言

- ・ 部門の活動が高専 PR・入試倍率の維持・学生の確保につなげる方法の検討が必要である。
- ・ CMS の入れ替えおよび Web サイトのリニューアルが急務である。

2-7 教育支援センター

令和4年度 各委員会の重点項目への活動計画

委員会	担当	重点項目
教育支援センター	総務主事	1. 学力向上への教育支援 2. 教員間の連携と協働教育の推進 3. 学科改組への対応 4. 高専統一ネットワーク更新への対応 5. 安全性の向上

1. 学力向上への教育支援
 - ・ BYOD PC の活用（情報教育センター）
 - ・ 実験・実習系授業の支援（技術教育センター）
 - ・ 物作り系課外活動等の支援（技術教育センター）
2. 教員間の連携と協働教育の推進
 - ・ Microsoft365、Google の利活用による各種グループ作業、授業等の推進および効率化(情報教育センター)
 - ・ 製作依頼及び技術指導依頼への対応（技術教育センター）
 - ・ 卒業研究、特別研究の装置製作等の支援（技術教育センター）
3. 学科改組への対応(情報教育センター)
 - ・ 新学科・旧学科への対応
4. 高専統一ネットワーク更新への対応（情報教育センター）
 - ・ 更新に伴う校内ネットワーク環境整備
5. 安全性の向上（技術教育センター）
 - ・ 機器及び工具等の破損における原因究明と対策
 - ・ 利用する学生の利用規則及び注意事項の見直し
 - ・ 安全基本作業講習会及び機械加工基礎実習の実施
 - ・ 技術職員の技能向上（技能検定の受検）
 - ・ 設備の更新・保守・点検

令和4年度 各委員会の重点項目への取組結果報告

委 員 会	担 当	重 点 項 目
教育支援センター	総務主事	1. 学力向上への教育支援 2. 教員間の連携と協働教育の推進 3. 学科改組への対応 4. 高専統一ネットワーク更新への対応 5. 安全性の向上

1. 学力向上への教育支援

- ・ BYOD PC の活用（情報教育センター）
 - R4年度1年生が BYOD PC を購入
 - 保護者からの質問に回答するフォームを設置
 - ネットワーク利用の講習・アカウント設定等安定的な運用
 - R4年度1, 2年生に対する導入後のアンケート実施（12月）
 - R5年度1年生向け購入案内と質問対応
- ・ 実験・実習系授業の支援（技術教育センター）
 - 安全基本作業講習会、機械加工基礎実習の実施
 - 機械工学科2年、3年、4年と電子制御工学科3年、4年の支援を実施
- ・ 物作り系課外活動等の支援（技術教育センター）
 - ロボコン、航空・ロボット製作部、ソーラーカー研究部、エコノパワー部の支援
 - 技能五輪同好会の技能検定の練習及び受検の支援
 - 工嶺祭のクラス企画等における物作りの支援

2. 教員間の連携と協働教育の推進

- ・ Microsoft365、Google の利活用による各種グループ作業、授業等の推進および効率化(情報教育センター)
 - 利活用のためにグループおよびメーリングリストの作成
 - Teams や Google によるグループ作業や授業への利活用が活発に行われた
 - Google Drive の共有ドライブのファイルの棚卸
- ・ 製作依頼及び技術指導依頼への対応（技術教育センター）
 - 教員等からの製作依頼への対応
- ・ 卒業研究、特別研究の装置製作等の支援（技術教育センター）
 - 卒業研究、特別研究の学生に対する安全指導、機器や道具の使い方指導等を実施

3. 学科改組への対応(情報教育センター)

- ・ 新学科・旧学科への対応
 - アカウント・メーリングリストを新学科および旧学科の双方に対応

4. 高専統一ネットワーク更新への対応（情報教育センター）

- ・ 更新に伴う校内ネットワーク環境整備
 - 高専統一ネットワークシステム更新に伴い認証方式を IEEE802.X に変更

5. 安全性の向上（技術教育センター）

- ・ 機器及び工具等の破損における原因究明と対策
 - 機器及び工具破損による原因対策報告
- ・ 利用する学生の利用規則及び注意事項の見直し
 - 見直しの必要性がばいため R4 年度の改定はなし

- ・安全基本作業講習会及び機械加工基礎実習の実施
安全基本作業講習会、機械加工基礎実習の実施
- ・技術職員の技能向上（技能検定の受検）
技術職員 1 名が技能検定 2 級（機械加工フライス盤作業）に合格
- ・設備の更新・保守・点検
NC フライス盤の修理
レーザー加工機の修理
溶接ロボット・ティーチングペンダントの修理
NC フライス盤の更新

令和4年度 各委員会の重点項目への取組結果の点検

教育支援センターにおいて提出された重点項目への取り組み結果報告を基に点検・評価を行い、次年度への提言を示す。評価は、◎、○、△、×の4段階で行う。

(1) 取組結果報告に基づく評価

重点項目	活動等計画	評価	根拠・確認事項
1. 学力向上への教育支援	BYOD PC の活用（情報教育センター）	◎	・計画に沿った活動ができている。 会議議事録2月、10月において、組織体制に関する効率も検討されている。不具合対応もされていることも確認した議事録4月あり。 セキュリティも検討されていることを確認。
	実験・実習系授業の支援（技術教育センター）	◎	・計画に沿った活動ができている。 会議議事録3月28日において、効果の確認がなされており、次年度を見越した活動になっていることを確認した
	物作り系課外活動等の支援（技術教育センター）	◎	・計画に沿った活動ができている。 会議資料3月28日の令和4年度の報告にて、取組が確認された。
2. 教員間の連携と協働教育の推進	Microsoft365、Google の利活用による各種グループ作業、授業等の推進および効率化(情報教育センター)	◎	・計画に沿った活動ができている。 会議議事録4月、2023年2月の議事録などにより確認。授業対応において、USBメモリの使用は禁止であるが、USBメモリをBitlockerで初期化して、パスワードをかけて運用するなど効率化の取り組みがされている。
	製作依頼及び技術指導依頼への対応（技術教育センター）	◎	製作依頼に対する対応状況は、18件（156時間）であり、ほぼ例年並みの対応レベルであることを確認した。安全作業演習会 5/18～6/29、機械加工基礎講習会 10/5～12/7 にて対応している。
	卒業研究、特別研究の装置製作等の支援（技術教育センター）	◎	電気電子工学科2件、電子情報工学科6件、環境都市工学科4件、一般科6件、合計18件の製作依頼に対して対応をしていることを確認した。会議資料3月議事録3月
3. 学科改組への対応(情報教育センター)	新学科・旧学科への対応	◎	校内無線LAN(MACアドレス)登録を1年生は申請なしに接続できる期間を設定し、2年生以上の学生については、4/4にGmailで登録用フォームより申請するように通知するなど、学年ごとの対応がなされている。・卒業生および退職者等のMACアドレスの登録削除を5月末に設定し、これに伴い、該当者のPCは、有線、無線、問わず6/1以降から、使用できなくするなど対応がされている。また、研究生や非常勤などになり、特別な事情で継続して利用する場合には、別途対応をするなど、対称毎の処置が行っていることを確認した。4月議事録、
4. 高専統一ネットワーク更新への	更新に伴う校内ネットワーク環境整備	◎	5月に次期統一ネットワークシステムの打ち合わせを実施、作業候補日を設定されていることを確認した。議事録5月。 セグメントの設定に関する議論もされていることを確認した。議事録7月 セグメントの運用について、4種類の設定をすることをまとめたことを確認した。議事録8月

			<p>また、高専統一認証システムのユーザーデータ移行についても、検討されていることを確認した。Unified-OneからAxioleへの移行において、パスワードが暗号化したものではなく、生パスワードのみ移行可能で、生パスワードのデータがないことと、生パスワードのデータの扱いはセキュリティリスクがあることから、今回の更新ではAxiole用に仮パスワードを作成して配布することに決定したことを確認した。</p> <p>議事録 8月</p>
5. 安全性の向上 (技術教育センター)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 機器及び工具等の破損における原因究明と対策 ・ 利用する学生の利用規則及び注意事項の見直し ・ 安全基本作業講習会及び機械加工基礎実習の実施 ・ 技術職員の技能向上 (技能検定の受検) ・ 設備の更新・保守・点検 	◎	<p>ボール盤前に注意喚起のための掲示を行った効果が出たと思われる破損が1件と少ない状況であることを確認した。</p> <p>安全性向上に向けた、安全基本作業講習会は5月から開催しており、機械加工基礎実習は、7月から開催されている。</p> <p>利用される学生への注意喚起も教育工程を変更するなどの工夫もされていることを確認した。</p> <p>業務分担が明確にされ、計画通りに実施されていることを確認した。</p> <p>R4年運営報告 議事録 3月</p>

(2) 次年度への提言

- ・ 教育支援センターが、情報教育センターと技術教育センターそれぞれに戻る体制になるとのことであるが、本年度の情報も含めた引継ぎをお願いします。

2-8 グローバル教育推進センター

令和4年度 各委員会の重点項目への活動計画

委員会	担当	重点項目
グローバル教育推進センター	センター長	1. 国際交流センター コロナ後に向けた学内・学外での国際交流の継続と準備 2. タイ協働センター プレミアムコース自立化・現地化の推進 3. グローバルエンジニア育成センター 学生の学習意識向上と自主的学習のサポート

1. 国際交流センター重点項目

コロナ後に向けた学内・学外での国際交流の継続と準備

- ① 協定校とのインターネット交流のプログラム作成と交流の機会の提供
- ② 世界情勢の調査と海外研修等のプログラム作成および機会の提供
- ③ 学生会、後援会、国際交流団体、企業と連携した社会活動機会の提供
- ④ 国際寮を活用した国際交流イベントの企画開催
- ⑤ 留学生の学習・生活支援

2. タイ協働センター重点項目

プレミアムコース自立化・現地化の推進

- ① 現地化・自立化の支援
- ② 教員のレベル向上支援
- ③ キャリア教育・就職支援

3. グローバルエンジニア育成センター重点項目

学生の学習意識向上と自主的学習のサポート

- ① 学生の英語学習ウェブサイトの提供と運営
- ② オンライン交流などのイベントを通じた学生の学習意欲向上へのとりくみ

令和4年度 各委員会の重点項目への取組結果報告

委員会	担当	重点項目
グローバル教育推進センター	センター長	1. 国際交流センター コロナ後に向けた学内・学外での国際交流の継続と準備 2. タイ協働センター プレミアムコース自立化・現地化の推進 3. グローバルエンジニア育成センター 学生の学習意識向上と自主的学習のサポート

1. 国際交流センター重点項目

コロナ後に向けた学内・学外での国際交流の継続と準備

- ① 協定校とのインターネット交流のプログラム作成と交流の機会の提供
タイ(4校)、香港(2校)の協定校とのインターネット交流(文化交流、プロジェクト)を実施した。年間36名の学生が参加した。プログラムは両校の教員の合意のもと決定された。
- ② 世界情勢の調査と海外研修等のプログラム作成および機会の提供
世界情勢、特に協定校のある国のコロナウイルス感染や対応の状況について調査を継続的に実施し、3年ぶりに海外研修への学生派遣と学生受入を実施した。また、コロナ後の国際交流の活性化を目的として、カナダの Northern Alberta Institute of Technology(NAIT)と協定を締結した。
- ③ 学生会、後援会、国際交流団体、企業と連携した社会活動機会の提供
長野市主催の国際交流イベント「ワールドフェスタ(11月3日開催)」での社会活動機会が合ったものの授業日と重なり不参加となった。
- ④ 国際寮を活用した国際交流イベントの企画開催
9月に English Boot Camp の開催を予定し参加者も決定したものの、感染症のリスクの観点から実施の延期が決定された。
- ⑤ 留学生の学習・生活支援
例年と同様に3年生と4年生の留学生に対しチューターを決定し、年間を通じ留学生の学習と生活のサポートを実施した。

2. タイ協働センター重点項目

プレミアムコース自立化・現地化の推進

- ① 現地化・自立化の支援
前期中間・期末・後期中間・期末の各アセスメントにおいて、5年生の問題作成を高専教員が担当、3~4年生はタイ教員作成の問題を高専教員が確認し、2年生まではタイ教員のみで対応する形で実施した。
現地において本校教員の試験への立ち合い、一部採点を行った。
現地でのフォローアップ会議への出席や、授業視察・進捗確認を行った。
- ② 教員のレベル向上支援
タイ教員・学生を対象とした高専教員による研修を実施した。
物理実験 7月13日(水)~15日(金) (バンコク)
機械製図 8月30日(火)~9月1日(木) (チョンブリ)
- ③ キャリア教育・就職支援
OVEC とのフォローアップ会議等で、インターンシップ・キャリア教育支援、第1期生卒業後の支援について検討した。

3. グローバルエンジニア育成センター重点項目

学生の学習意識向上と自主的学習のサポート

- ① 学生の英語学習ウェブサイトの提供と運営
英語自主学習用の Podcast をアップデートし充実を図った。
- ② オンライン交流などのイベントを通じた学生の学習意欲向上へのとりくみ
新型コロナウイルス感染症が落ち着いた時期にカンボジア国環境省の方に来校していただき、環境都市工学科3年生対象に英語による対面形式の講演会を実施した。
2学年全員を対象に、本校留学生との交流会を実施した。

令和4年度 各委員会の重点項目への取組結果の点検

グローバル教育推進センターにおいて提出された重点項目への取組結果報告を基に点検を行い評価し、次年度への提言を示す。評価は、◎、○、△、×の4段階で行う。

(1) 取組結果報告に基づく評価

重点項目	活動等計画	評価	根拠・確認事項
1. 国際交流センター コロナ後に向けた学内・学外での国際交流の継続と準備	・協定校とのインターネット交流のプログラム作成と交流の機会の提供	◎	第12回センター会議で年間の活動状況について報告
	・世界情勢の調査と海外研修等のプログラム作成および機会の提供	◎	第4回センター会議で海外研修への学生派遣と学生受入を報告
	・学生会、後援会、国際交流団体、企業と連携した社会活動機会の提供	◎	第12回センター会議で年間の活動状況について報告
	・国際寮を活用した国際交流イベントの企画開催	△	第6回センター会議で実施中止の報告
	・留学生の学習・生活支援	◎	年間を通してセンター会議で留学生の状況を報告
2. タイ協働センター プレミアムコース自立化・現地化の推進	・現地化・自立化の支援	◎	年間を通してセンター会議で状況を報告
	・教員のレベル向上支援	◎	第3回および第4回センター会議で報告
	・キャリア教育・就職支援	◎	第6回および第7回センター会議で検討・報告
3. グローバルエンジニア育成センター 学生の学習意識向上と自主的学習のサポート	・学生の英語学習ウェブサイトの提供と運営	◎	Podcast をアップデートし充実を図った
	・オンライン交流などのイベントを通じた学生の学習意欲向上へのとり組み	◎	カンボジア国環境省の方の講演会を2/6に開催 2年生と留学生の交流会を2/9に開催

(2) 次年度への提言

- ・ English Boot Camp 開催などの国際交流イベントを、国際寮を活用するなど一層の推進が求められる。
- ・ 本校留学生に対して、チューターを活用するなど、交流や支援を深める必要がある。
- ・ コロナ後の国際交流の活性化として、タイ・香港・NAIT との交流等を推進させる必要がある。。

2-9 男女共同参画推進室

令和4年度 各委員会の重点項目への活動計画

委員会	担当	重点項目
男女共同参画推進室	男女共同参画 推進室長	1. 教育活動全般を通じた男女共同参画の推進 2. 男女共同参画の意識啓発 3. 女性教職員に対する労働環境支援

1. 教育活動を通じた男女共同参画の推進
 - ・在学生のキャリア支援のための施策実施
 - ・女子中学生の入学支援施策実施
 - ・在学生へのアンケートによる環境整備希望調査の実施
2. 男女共同参画の意識啓発
 - ・ダイバーシティ関連講演会の実施
 - ・学会等の学生向け、教職員向けダイバーシティ関連イベントの案内
 - ・男女共同参画関連 web site の充実
3. 女性教職員に対する労働環境支援
 - ・女性教職員就業支援 インターンシップ制度の実施
 - ・教職員アンケート (1. のアンケートに準ずる)

令和4年度 各委員会の重点項目への取組結果報告

委 員 会	担 当	重 点 項 目
男女共同参画推進室	男女共同参画 推進室長	1. 教育活動を通じた男女共同参画の推進 2. 男女共同参画の意識啓発 3. 女性教職員に対する労働環境支援

1. 教育活動を通じた男女共同参画の推進

- ・在学生のキャリア支援のための施策検討

→ 各系において、本校 OG 等を招いたキャリアセミナーを開催した。在学生在が卒業生からワークライフバランスや、実際の業務内容について学ぶ機会を提供できた。IE 系、MR 系 2023 年 1 月 11 日、CE 系 2023 年 1 月 19 日に実施

- ・女子中学生の入学支援施策検討

→ 女子中学生向けのリーフレットを、在学生の協力を得て県下の 28 校に配布した。3 年生全員に配布が可能な枚数を学生に持参してもらい配布依頼をした。配布先の中学校から概ね好評を得た。配布協力してくれた学生から、どのような方法が良いかも事後アンケートで意見収集した。

- ・在学生へのアンケートによる環境整備希望調査の実施

→ 5 月に学生アンケートを実施し、推進室の活動のうち重要と考えるものについて選択してもらったほか、自由記述で必要な設備、対応等について意見を募った。自由記述の内容について関連の委員会にそれぞれ情報を共有し、対応を依頼した。

2. 男女共同参画の意識啓発

- ・ダイバーシティ関連講演会の実施

→ 本校客員准教授の藤澤潔氏に依頼し、ダイバーシティ&インクルージョンのテーマで令和 5 年 3 月 6 日に講演会を実施した。校内から 67 名の聴講があり、事後のアンケートには 50 名が回答し、多くのコメントも寄せられた。

- ・学会等の学生向け、教職員向けダイバーシティ関連イベントの案内

→ 機構などから寄せられるダイバーシティ関連イベントの案内を総務より校内メール、教職員メールで随時案内した。学生向けには学生課から学生メールで案内した。

- ・男女共同参画関連 web site の充実

→ 本校 web site に男女共同参画推進室のページを開設されており学内教職員、一般向けにも必要な情報が入手できる構成となっている。本年度の実施イベントについて、キャリアセミナーおよび学生向けダイバーシティ関連講演会の実施内容及び学生アンケート結果を掲載した。

- ・他高専における取組に関する情報収集、研修

→ 2023 年 2 月に第 2 ブロックの男女共同参画関連会議に室長ほか 4 名の委員が出席した。

3. 女性教職員に対する労働環境支援

- ・女性教職員就業支援 インターンシップ制度の準備

→ 本年度もコロナのため実施できなかったため、内容を改組に合わせ修正し、令和 4 年度に学校 web サイトに案内した。本年度もコロナ禍において積極的な大学等への働きかけは行わなかった。

- ・教職員アンケート

→ Teams form を用いて全教員を対象に実施する。例年年度末の 3 月に実施し、4 月からの活動内容に反映させることとしている。令和 4 年 3 月の実施では 45 件の回答があり 12 件の自由記述での意見が寄せられた。

- ・その他

→ R3 に引き続き、教職員に対する環境支援の一環として、祝日、休日の業務日における校内での一時保育を実施した。2022 年 11 月 3 日（秋のキャンパスツアー、祝日）および 2023 年 2 月 12 日（学力選抜試験、日曜日）の日程を対象にのべ 6 名の幼児・児童の預け入れがあった。

令和4年度 各委員会の重点項目への取組結果の点検

男女共同参画推進室において提出された重点項目への取組結果報告を基に点検を行い評価し、次年度への提言を示す。評価は、◎、○、△、×の4段階で行う。

1. 男女共同参画推進室

(1) 取組結果報告に基づく評価

重点項目	活動等計画	評価	根拠・確認事項
1. 教育活動を通じた男女共同参画の推進	・在学生のキャリア支援のための施策検討	◎	・第2回男女共同参画推進室会議報告資料 No.2(R4.5.17) ・第10回男女共同参画推進室会議(R5.2.7)
	・女子中学生の入学支援施策検討	◎	・第3回男女共同参画推進室会議(R4.6.21) ・第5回男女共同参画推進室会議(R4.8.30) ・第8回男女共同参画推進室会議資料 No.1(R4.11.29)
	・在学生へのアンケートによる環境整備希望調査の実施	◎	・第3回男女共同参画推進室会議(R4.7.26)
2. 男女共同参画の意識啓発	・ダイバーシティ関連講演会の実施	◎	・第3回男女共同参画推進室会議(R4.6.21) ・第3回男女共同参画推進室会議資料 No.4(R4.6.25) ・R5.3.6 FD研修会実施 ・第6回男女共同参画推進室会議資料 No.2(R4.9.30)
	・学会等の学生向け、教職員向けダイバーシティ関連イベントの案内	◎	・学生メール、校内メールにて随時
	・男女共同参画関連 web site の充実	◎	・第1回男女共同参画推進室会議資料 No.4(R4.4.12)
3. 女性教職員に対する労働環境支援	・女性教職員就業支援 インターンシップ制度の準備	○	・第1回男女共同参画推進室会議資料 No.3(R4.4.12) 第2回男女共同参画推進室会議資料 No.1(R4.5.17) ・第5回男女共同参画推進室会議(R4.8.30)
	・教職員アンケート	◎	・第1回男女共同参画推進室会議資料 No.4(R4.4.12) ・第10回男女共同参画推進室会議(R5.2.7)

(2) 次年度への提言

- ・女子中学生に向けた学内情報公開やアンケート結果の公開など、websiteへの情報掲載が精力的に行われていた。また女性教職員就業支援については、昨年度に引き続き休日の業務日における一時保育の実施が積極的に行われていた。次年度は、インターンシップや今年度までコロナ禍で控えていた大学等への働きかけが必要である。

2-10 進路支援室

令和4年度 各委員会の重点項目への活動計画

委員会	担当	重点項目
進路支援室	進路支援室長	1. 各種講演会の実施 2. 進路担当教員とキャリアコーディネーターとが連携した進路支援 3. 進路決定情報の収集および分析

1. 各種講演会の実施

- ・低学年向けの講演会の実施
- ・4年生向けの講演会の実施
- ・専攻科生向けの講演会の実施

2. 進路担当教員とキャリアコーディネーターとが連携した進路支援

- ・進路セミナーを通じた進路支援
- ・応募書類作成支援および面接対策

3. 進路決定情報の収集および分析

- ・進学希望者および就職希望者の合格・不合格情報の収集および分析

令和4年度 各委員会の重点項目への取組結果報告

委 員 会	担 当	重 点 項 目
進路支援室	進路支援室長	1. 各種講演会の実施 2. 進路担当教員とキャリアコーディネーターとが連携した進路支援 3. 進路決定情報の収集および分析

1. 各種講演会の実施

- ・低学年向けの講演会の実施
 - 【実施内容】1年生進路ガイダンスの実施（1/10、5年生2名）
 - 3年生進路セミナーの実施（11/9、キャリアコーディネーター）
- ・4年生向けの講演会の実施
 - 【実施内容】4年生進路ガイダンスの実施（10/5、人材・広告企業担当者）
 - 4年生進路セミナーの実施（12/3・10、キャリアコーディネーター）
 - 4年生進学講演会の実施（12/14・21、大学等入試広報担当教員）
 - 4年生卒業生講演会の実施（1/12、本校卒業生等）
- ・専攻科生向けの講演会の実施
 - 【実施内容】専攻科進路セミナーの実施（8/10、キャリアコーディネーター）
 - 専攻科大学院説明会の実施（2/9、大学入試広報担当教員）
 - （大学院説明会は本科5年生にも周知し、参加があった）

2. 進路担当教員とキャリアコーディネーターとが連携した進路支援

- ・進路セミナーを通じた進路支援
 - 【実施内容】3年生進路セミナーの実施（11/9、再掲）
 - 4年生進路セミナーの実施（12/3・10、再掲）
 - 専攻科進路セミナーの実施（8/10、再掲）
- ・応募書類作成支援および面接対策
 - 【実施内容】進路担当教員やキャリアコーディネーター等による応募書類の作成支援、模擬面接練習の実施、進路相談の実施

3. 進路決定情報の収集および分析

- ・進学希望者および就職希望者の合格・不合格情報の収集および分析
 - 【実施内容】進路決定状況の集約と運営会議における報告
 - 進路支援室と学級担任、専攻長との情報共有

令和4年度 各委員会の重点項目への取組結果の点検

進路支援室において提出された重点項目への取組結果報告を基に点検を行い評価し、次年度への提言を示す。評価は、◎、○、△、×の4段階で行う。

(1) 取組結果報告に基づく評価

重点項目	活動等計画	評価	根拠・確認事項
1. 各種講演会の実施	・低学年向けの講演会の実施	○	・第1回議題4「学事暦」資料4-1-3 ・1年生進路ガイダンス実施要項
	・4年生向けの講演会の実施	○	・第1回議題4「学事暦」資料4-1-2、4-1-4、4-1-5、4-1-6
	・専攻科生向けの講演会の実施	○	・第1回議題4「学事暦」資料4-1-1 ・第10回専攻科運営委員会報告4資料3
2. 進路担当教員とキャリアコーディネーターとが連携した進路支援	・進路セミナーを通じた進路支援	◎	・第1回議題4「学事暦」資料4-1-1、4-1-3、4-1-4
	・応募書類作成支援および面接対策	◎	・第1回議題1「相談件数」資料1-2
3. 進路決定情報の収集および分析	・進学希望者および就職希望者の合格・不合格情報の収集および分析	◎	・第12回運営会議報告3「専攻科・進路支援室報告」 ・グループウェアを利用した進路決定状況の情報共有

(2) 次年度への提言

各種後援会の実施・実施要項はあるが、取り組みの報告の形ではない。実施報告やアンケートなどで効果などの検証が可能な資料の提示を検討してほしい。

低学年向けの進路講演会（5年生が担当）は、1年生対象に、1月に実施されているが、1年生の系が決まる前（たとえば、前期終了時の特編授業など）に実施すること検討してほしい。

進路支援室の開催が年に一度だけで、しかも年度の終わり頃になっている。定期的な適切な開催と情報共有があったほうがよいと思われる。また、年度最後に取りまとめの会議を検討してほしい。

2-11 教育改善委員会

令和4年度 各委員会の重点項目への活動計画

委員会	担当	重点項目
教育改善委員会	委員長	1. 各種委員会の活動状況の点検 2. 授業改善システムの実施と評価・点検 3. FD研修会の企画・開催と評価 4. エビデンス収集・保管

1. 各種委員会の活動状況の点検
 - ・委員会の活動重点項目の確認
 - ・活動結果の把握および点検
2. 授業改善システムの実施と評価・点検
 - ・授業改善システムの実施
 - ・授業改善システムの点検、評価
3. FD研修会の企画・開催と評価
 - ・FD研修会の企画と実施
 - ・FD研修会の実施後点検、評価
4. エビデンス収集・保管
 - ・エビデンス収集・保管の実施

令和4年度 各委員会の重点項目への取組結果報告

委員会	担当	重点項目
教育改善委員会	委員長	1. 各種委員会の活動状況の点検 2. 授業改善システムの実施と評価・点検 3. FD研修会の企画・開催と評価 4. エビデンス収集・保管

3つの重点項目について、以下のように活動を実施した。

1. 各種委員会の活動状況の点検
 - ・ 活動結果の把握および点検は、9月および年末にフォローを行い、2月中旬までに状況把握および教育改善委員会でのチェックができるように対応した。
2. 授業改善システムの実施と評価・点検
 - ・ 授業改善システムに基づく点検を9月に実施した。なお、学年末到達度試験のレベル確認作業のフォローを失念し、3月になってしまった部局もあった。
3. FD研修会の企画・開催と評価
 - ・ FD研修会の企画と実施は、関連委員会と連携して、3件の研修会を企画・実施した。
 - ・ 教務委員会等との連携での実施を行ったが、計画通りの実施ができなかった。教育改善委員会が主導的に対応したほうが良い。
4. エビデンス収集・保管
 - ・ エビデンス収集・保管を定期試験後に実施した。

令和4年度 各委員会の重点項目への取組結果の点検

教育改善委員会において提出された重点項目への取組結果報告を基に点検を行い評価し、次年度への提言を示す。評価は、◎、○、△、×の4段階で行う。

1. 教育改善委員会

(1) 取組結果報告に基づく評価

3つの重点項目に対して各部門で活動した結果を以下のように評価する。

重点項目	活動等計画	評価	根拠・確認事項
1. 各種委員会の活動状況の点検	活動結果の把握および点検は、9月および年末にフォローを行い、2月中旬までに状況把握および教育改善委員会でのチェックができるように対応した。	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・校内メール 6月7日（依頼） 9月16日（フォロー） 1月6日（6/7スレッド） 2月27日（6/7スレッド）
2. 授業改善システムの実施と評価・点検	授業改善システムに基づく点検を9月に実施した。なお、学年末到達度試験のレベル確認作業のフォローを失念し、3月になってしまった部局もあった。	○	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度第3回教育改善委員会議事概要 議題1および2
3. FD研修会の企画・開催と評価	FD研修会の企画と実施は、関連委員会と連携して、3件の研修会を企画・実施した。	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度第2回教育改善委員会議事概要 議題1 ・令和4年度第3回教育改善委員会議事概要 報告1 ・令和4年度第4回教育改善委員会議事概要 報告1 ・令和4年度第6回教育改善委員会議事概要 報告1
	教務委員会等との連携での実施を行ったが、計画通りの実施ができなかった。教育改善委員会が主導的に対応したほうが良い。	△	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度第3回教育改善委員会議事概要 報告1 ・令和4年度第4回教育改善委員会議事概要 報告1 ・令和4年度第6回教育改善委員会議事概要 報告1

<p>4. エビデンス収集・保管</p>	<p>エビデンス収集・保管を定期試験後に実施した。</p>	<p>◎</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度第2回教育改善委員会議事概要 議題2 ・令和4年度第5回教育改善委員会議事概要 議題1
----------------------	-------------------------------	----------	--

(2) 次年度への提言

- ・タイムリーな点検作業の実施が必要。
- ・実効性の高い点検システムへの改善を進めてほしい。

3. 令和4年度における各種点検報告

3-1 学習・教育目標の達成度に関する調査報告書の点検

令和4年度 学習・教育目標の達成度自己評価調査票は教務委員会によりアンケートを実施し、集計結果が教務委員会および専攻科運営委員会で報告された。

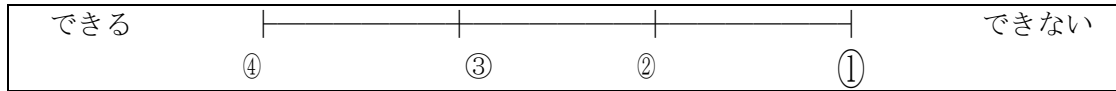
本科5年へのアンケート調査

設問

質問

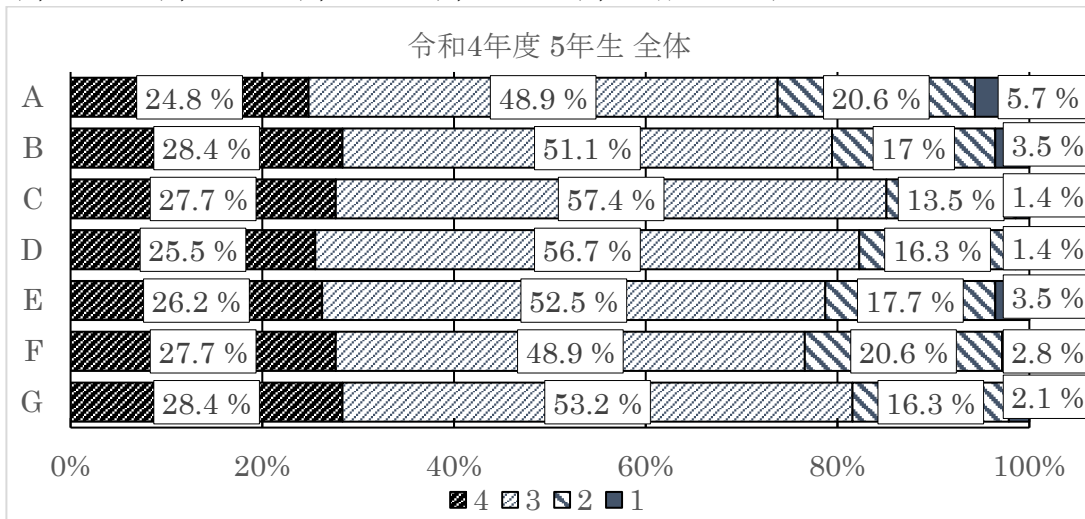
種類	学習・教育目標
A	世界の政治，経済，産業や文化を理解し，その中で自分自身が社会に貢献できる役割が何かを討論し，多面的に物事を考え，行動できますか？
B	自然環境や社会の問題に関心を持ち，技術者としての役割と責任について考えを述べることができますか？
C	機械，電気電子，情報または土木の工学分野に必要な数学，自然科学の知識を有し，情報技術に関する基礎知識を習得して活用できますか？
D	基盤となる工学分野およびその基礎となる科学，技術の知識と技能を習得して必要とされる技術上の問題に活用できますか？
E	科学，技術および情報の知識，基盤となる工学分野で習得した知識，さらに技術者としての実践的な知識や技能を活用して，自ら問題を発見し解決できますか？
F	具体的なテーマについて論理的な記述と説明および討論ができますか？
G	習得した工学分野の知識を基に，課題の達成に向けて自ら問題を発見し，それに対処するための業務を自主的・継続的かつ組織的に遂行できますか？

選択肢

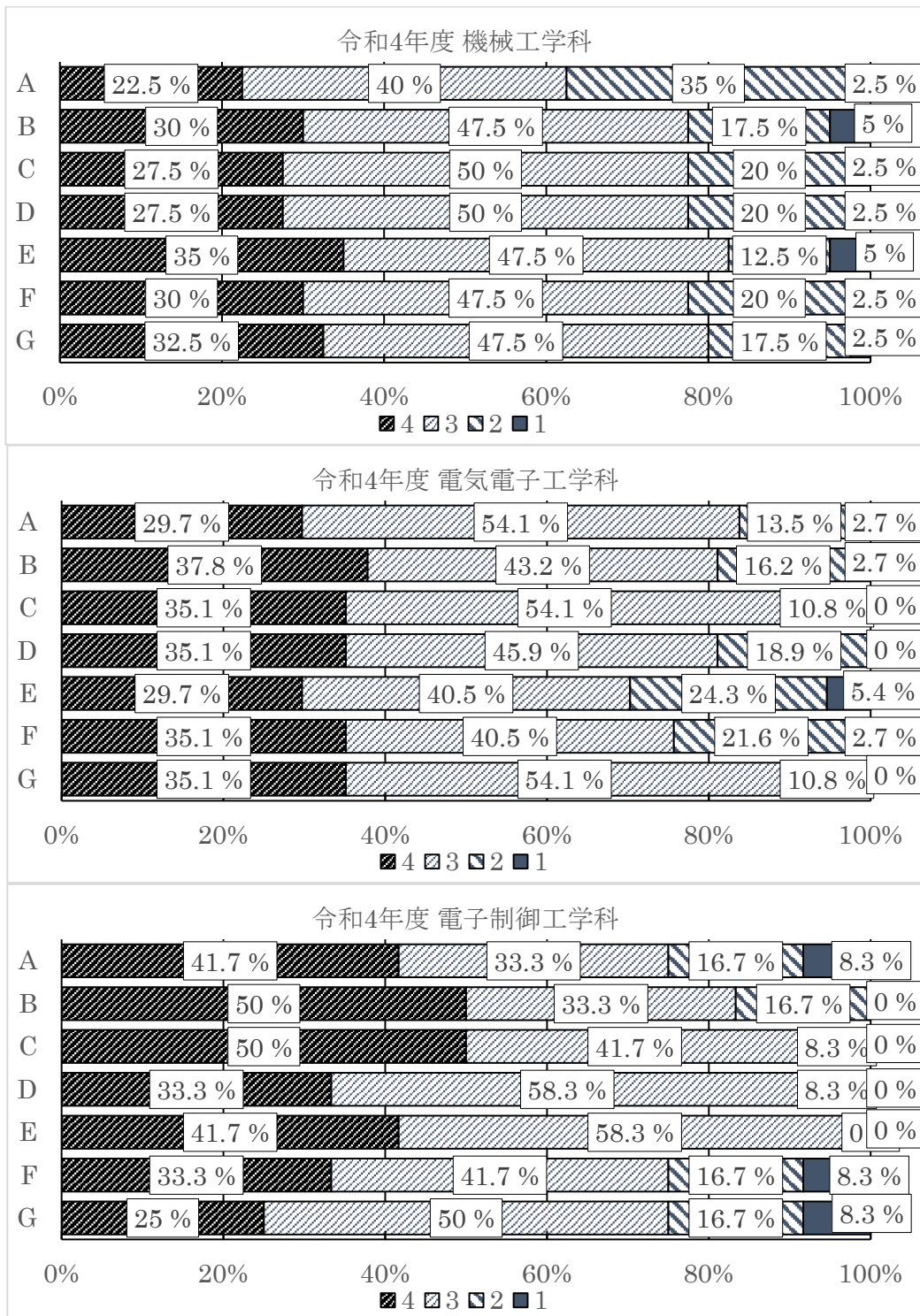


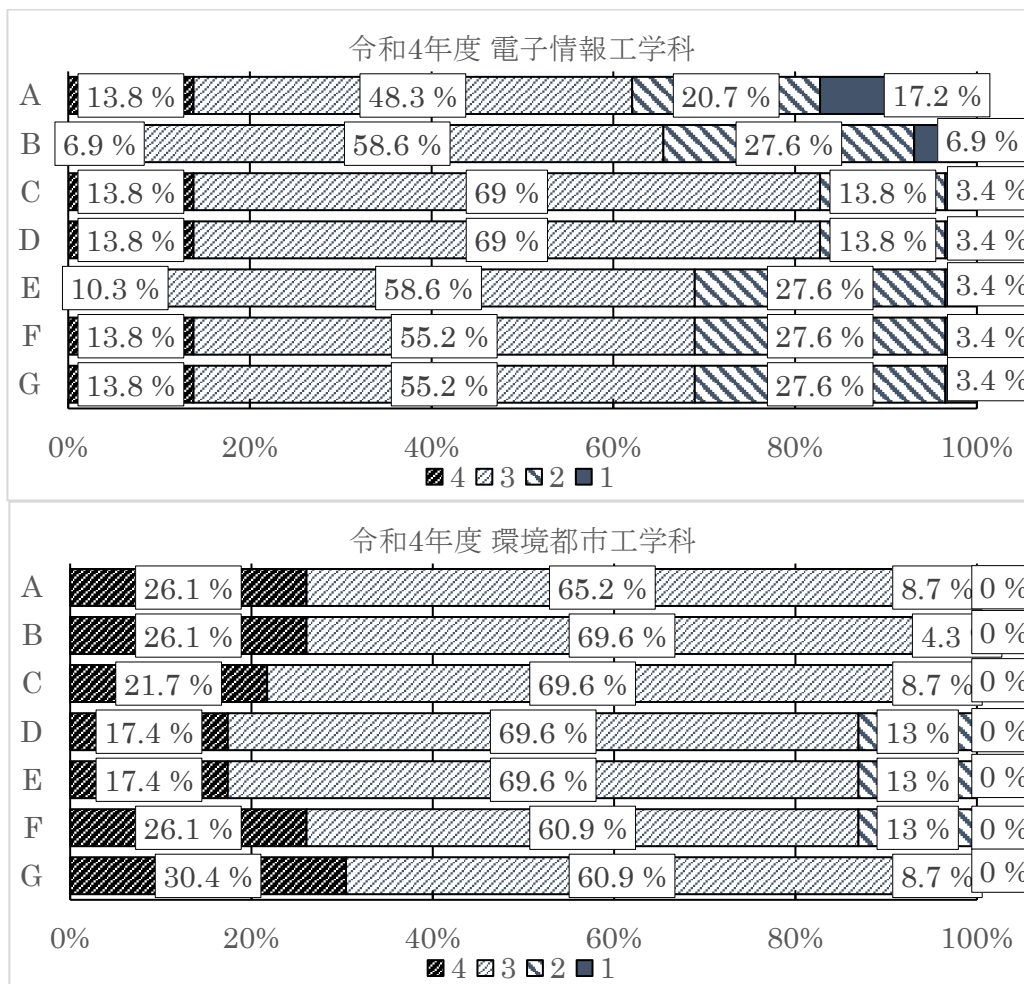
本科5年の集計結果

M : 40名, E : 37名, S : 12名, J : 29名, C : 23名, 全体 : 141名



学科ごとの集計結果





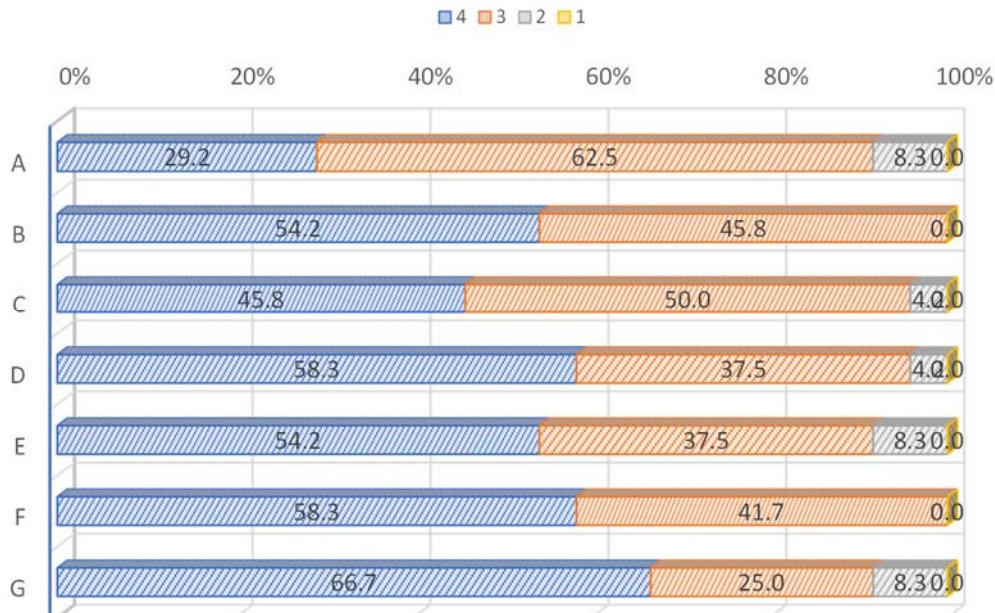
【分析】

- ・令和4年度の5年生は、学習教育目標のA～Gの全てにおいて、回答学生の7割に近い学生が3以上のスコアを付けた。前年に比べ約20ポイント下回った結果となった。
- ・昨年はC・D・Gにおいて、89.5%の学生が3以上のスコアであったのに対し、約83%と6.5ポイント下回る状況となった。
- ・C・D・Gは工学の基礎への理解と応用力を含む学習・教育目標であり、教育の達成度として一定の評価をすることができると思われる。
- ・各科の傾向としてみられるのが、環境都市工学科は自己評価が高く、機械工学科と電子情報工学科では低くみる学生が多い傾向である。これは昨年の傾向とは合致しているとはいえ、クラス単位での傾向と考えるべきであり、前提とする回答学生数を増加させる必要があると思われる。

専攻科 2 年の集計結果

ループリック形式による学習・教育目標の達成度評価確認表 学生個人用
生産環境システム・電気情報システム 専攻 学籍番号 氏名

学習・教育目標	合格			不合格
	優秀 (すばらしい)	良 (よい)	可 (さらに努力を要する)	不可 (不十分)
	基本的に期待されるレベルを超えている	ここまで到達することが望まれるレベル	期待した基礎レベルに達している	期待した基礎レベルに達していません 不合格
A	世界の政治、経済、産業や文化を理解し、その中で自分自身が社会に貢献できる役割が何かを討議し、多面的に物事を考え、行動できる素養を持つ。	世界の政治、経済、産業や文化を十分に理解しており、自分の考えを述べることができ、多面的に物事を考え行動できる	世界の政治、経済、産業や文化を十分に理解しており、多面的に物事を考え行動できる	世界の政治、経済、産業や文化を理解しておらず、多面的に物事を考え行動できない
B	自然環境や社会の問題に関心を持ち、技術者としての役割と責任について考えを述べる素養を持つ。(技術者倫理)	自然環境や社会の問題に強い関心を持ち、技術者としての役割と責任について自らの考えを十分に述べるができる	自然環境や社会の問題に関心を持ち、技術者としての役割と責任について自らの考えを述べるができる	自然環境や社会の問題に関心がなく、技術者としての役割と責任について考えを述べるができない
C	機械、電気電子、情報または土木の工学分野(「基盤となる工学分野」)に必要な数学、自然科学の知識を有し、情報技術に関する基礎知識を習得して活用できる。	基盤となる工学分野に必要な数学、自然科学の知識を十分に有し、応用力もあり、情報技術に関する基礎知識を習得して活用できる	基盤となる工学分野に必要な数学、自然科学の知識を有し、情報技術に関する基礎知識を習得して活用できる	基盤となる工学分野に必要な数学、自然科学の知識が不十分で、情報技術に関する基礎知識を習得して活用できない
D	基盤となる工学分野およびその基礎となる科学、技術の知識と技能を習得して必要とされる技術上の問題に活用できる。	基盤となる工学分野およびその基礎となる科学、技術の知識と技能を十分に習得しており、必要とされる技術上の問題に活用や応用ができる	基盤となる工学分野およびその基礎となる科学、技術の知識と技能を十分に習得しており、必要とされる技術上の問題に活用できる	基盤となる工学分野およびその基礎となる科学、技術の知識と技能を習得して必要とされる技術上の問題に活用できない
E	科学、技術および情報の知識、基盤となる工学分野で習得した知識、さらに技術者としての実践的な知識や技能を活用して、自ら問題を発見し解決する能力を養う。	科学、技術および情報の知識、基盤となる工学分野で習得した知識、さらに技術者としての実践的な知識や技能を活用して、自ら問題を発見し、主体的に解決することができる	科学、技術および情報の知識、基盤となる工学分野で習得した知識、さらに技術者としての実践的な知識や技能を活用して、自ら問題を発見し解決することができる	科学、技術および情報の知識、基盤となる工学分野で習得した知識、さらに技術者としての実践的な知識や技能を活用して、自ら問題を発見し解決する過程を知っていない
F	具体的なテーマについて論理的な記述と説明および討議できる能力を身につける。	具体的なテーマについて、複数の視点から論理的な記述と説明および討議ができる	具体的なテーマについて、ある視点を基に論理的な記述と説明および討議ができる	具体的なテーマについて論理的な記述と説明および討議ができない
G	習得した工学分野の知識を基に、課題の達成に向けて自ら問題を発見し、それに対処するための業務を自主的・継続的かつ組織的に遂行する能力を身につける。	習得した工学分野の知識を基に、課題の達成に向けて自ら問題を発見し、それに対処するための業務を自主的・継続的かつ組織的に自ら積極的に、計画的に遂行できる	習得した工学分野の知識を基に、課題の達成に向けて自ら問題を発見し、それに対処するための業務を自主的・継続的かつ組織的に遂行できる	習得した工学分野の知識を基に、課題の達成に向けて自ら問題を発見し、それに対処するための業務を自主的・継続的かつ組織的に遂行することができない。



学習・教育目標の達成度評価の集計結果 (令和 4 年度、回答数：25 名)

【分析】

昨年度に比べて評価 4 の学生が全体的に増えているものの、評価 2 の学生も目標 E, G で増えている。COVID-19 の影響で実習に大きな影響を受けた昨年度に対して、対面で実施できたものが増えたという環境改善によるものと思われるが、一方で意識を積極的なものに移行できない学生もあるのではと危惧される。

3-2 学生との意見交換会に関する点検

新型コロナウイルス感染症の蔓延のため、昨年度は行われなかった学生会と学校側との意見交換会が、2月6日(月)に行われた(実施については第7回および第8回学生支援委員会議事録にて確認)。2月10日には専攻科生と専攻科長および担当教員との意見交換会が実施された。

付録3には学生より学校への意見要望と、学校側の回答を示す。

貴重な学生と学校側の意見交換の機会であり、執行会議だけではなく運営会議や工学科系での周知が必要と思われる。

3-3. 令和4（2022）年度参与会の報告書の点検と出された改善点の整理

令和5（2023）年2月14日（火）に第19回長野高専参与会が実施され、その概要が報告書「第19回 長野工業高等専門学校参与会議事概要」にまとめられている。この報告書の内容に基づき、本校が今後取り組むべき課題は何か、以下に報告する。

1. 参与会の概要

(1) 出席者

- ・参与会のメンバー → 9名
- ・本校関係者 → 校長他 13名(内 オブザーバー 7名)

(2) テーマ → 「本校で作成した自己点検・評価」

(3) 協議題

- ・自己点検・評価表の評価方法

(4) 議事内容

参与会会長である天野良彦信州大学工学部長から、これまでの参与会と違い、外部評価について、各参与の方々から忌憚のない意見等を伺いたいとのあいさつがあった。

その後、参与会設置要項第7条第1項の規定により天野良彦会長が議長となり、議事が進行された。上記の協議題について本校担当者より配布資料に基づいた説明があり、その後質疑応答が行われ、参与会のメンバーよりいくつかの貴重な提言をいただいた。

2. 今後の課題

参与会の質問・意見や要望を基にして、今後本校が取り組むべき課題を整理した。

- (1) 年度計画の見直し方法などの検討。
- (2) FDの効果の計り方の検討。
- (3) 学生のパソコンの中にあるデータの管理・チェック体制・監視の検討。
- (4) 大項目の整理と見直しの検討。
- (5) 広報の方法と発信方法の検討。
- (6) 校内見学や授業参観など高専に来る機会の提供に関する検討。
- (7) 外部評価を含めた評価方法に関する検討。
- (8) 高専バスのあり方などに関する検討。

なお、長野高専ホームページ 外部評価報告

<http://www.nagano-nct.ac.jp/guide/out/index.php>

を参照されたい。

3. 令和4（2022）年度の参与会からの要望等

令和4（2022）年度の第19回長野高専参与会が令和5（2023）年2月14日(火)に開催され以下の要望等を頂いた。

- (1) 年度計画を立てて1年に一回の見直しだと、CA まで行かない。年度途中での中間評価が必要である。参与会は年一回であるから、その下の階層は、年数回評価を行う必要がある。
- (2) もっと定量的な評価が必要である。
- (3) 学生が DP・CP に合うように、一定のレベルが確保される内部質保証が大切である。学びの履歴書を作り就職するときにそれをもって企業に説明するよう文科省で考えているようである。
- (4) FD の効果をどう計るか、評価手法を非常に効率的なものにしたいが難しい。しかししなければならない。
- (5) 学生のパソコンの中にあるデータ（学び利用・個人両方）管理・チェック体制・監視が必要である。個人と公の情報セキュリティ管理は重要である。
- (6) 大項目4は、学びの質保証と被るところが多い、項目をもう少し整理できないか。
- (7) 成績評価が4、進級判定が5と矛盾がある。評価が曖昧である。項目整備と合わせ観点も整理してほしい。
- (8) 義務教育で理科・科学・ITに興味を持たせるスーパーサイエンスプログラムをやりたいので、協力してほしい。
- (9) 理科好きを増やしたい。特に女性の活躍できる理系へ進む女性を増やしたい。
- (10) 中学卒業前後の子供がいる卒業生に対して学校説明会（ホームカミングデー）の開催をして

- ほしい。
- (11) 学生の質が高いことは魅力であり、発信方法を考えて、高専の魅力を伝えて子供たちを集める。
 - (12) 将来をを考えて高専の強みとしての、研究の方向づけやビジョンを示す。今の延長線ではなく地球環境も含めて変わる方向に対して長野高専はこういった技術でリーダーシップを取ることで産学連携したいと示す。
 - (13) 担当者に評価を任せるのではなく、経営層の中で全体を見通して議論を深めることが必要である。このままだと形骸化され、評価すること自体が目的になってしまう。
 - (14) 県も高専と研究面で一緒にやっていきたい。
 - (15) 高専が得意としている分野で、小中学校サイドが必要としているところへ関わりを持っていきアピールをする。高専学生が持っている質を外に向けて発信し、高専の PR につなげてほしい。
 - (16) 参与会以外に、校内見学、授業参観など高専に来る機会を提供してほしい。
 - (17) 各年度で重点項目を定めて、その項目を毎年外部評価で行う。何年かですべての項目が回るようにする。
 - (18) 高専バスに広告を付けたり、授業のビデオを流しバスに乗る学生は得だと思わせるなど利用者の増加と収益をあげること考えてほしい。

3-4 実施済研修会の効果の点検およびその改善

令和4年度は3回のFD研修会を実施した。

(1) 第1回 「本校における学生相談の実態と対策」

スクールカウンセラー 青沼恵美 氏

令和4年11月9日(水) 16:10~16:35 第1会議室 (Microsoft Teams による配信)

出席者数 58名 (Teams による参加者 43名含む)

いじめ対策を進めるうえで必要となる、いじめ防止基本法の理解、組織的な対応の必要性、重大事態を防ぐための措置、について講演された。一人ひとりの学生が心地よく過ごせる教室・学校を作ること、早期発見・初期対応が大切であるなどが開設され、有意義な研修であった。

(2) 第2回 「高専教育の質保証 重点項目について」

教務主事 濱口直樹 氏

令和5年3月14日(火) 14:30~16:00 100番教室 出席者数 52名

3ポリシーの見直しや教学マネジメント事業、アセスメントの作成など、高専教育の質保証のための仕掛けについて講演が行われた。質保証重点項目としての、ポートフォリオ教育、実験スキル計測、分野横断的能力の育成、データに裏付けされた教育改善、ピアサポーター育成、学生情報の集約および共有の各実施について解説された。これらについて、MCCとの関連や本校で実施されている取り組みについても認識されるよう構成された研修であった。

(3) 第3回 「情報の格付けと取扱い」

事務部長 亀井耕治 氏

令和5年3月29日(水) 16:00~16:15 100番教室 出席者数 60名

情報の格付けと情報の利用について講演された。機密性3情報、機密性2甲情報、機密性2乙情報、の要機密情報とこれらの取り扱いにおいて遵守すべき事項について解説がなされた。要保護情報の管理と持ち出しについて丁寧な解説が行われ、機微な情報に触れる教職員で認識を共有する研修となった。

(4) まとめ

本年度は3回のFD研修会をハイブリッド形式および対面にて実施した。第1回、第3回は短時間での実施であったが、それぞれ重要な内容であり、定期的な実施は必要であると思われる。アンケートの結果については、付録に掲載する。

4. 令和4年度 FD 研修会実施報告

4-1 令和4年度第1回 FD 研修会

令和4年11月17日

令和4年度第1回 FD 研修会実施報告書

1. 日程他

- 主 催：学校いじめ対策委員会 教育改善委員会
- 日 時：令和4年11月9日（水）16:10～16:35
- 場 所：第1会議室（Microsoft Teams による配信）
- 講 師：スクールカウンセラー 青沼 恵美 氏
- 題 目：本校における学生相談の実態と対策
- 出席者：約58名（Teamsによる参加者43名含む）
※出席者に、後日この研修会の録画を視聴した者を含まない。

2. 概要

下記の講演があり、今後の本校の学生指導、いじめ対策を進める上で有用な内容であった。

1)いじめ防止対策基本法の理解

- ・いじめの定義→ある行為により児童等が心身の苦痛を感じているもの
- ・行為が1度だけでも、またいじめる側の悪意の有無にかかわらず、苦痛を感じればいじめとなる。
- ・以前の基準と異なり、仲間はずれ、無視、陰口もいじめとなる。

2)いじめには組織的な対策が必要

- ・学級担任等が抱え込まず、「いじめ対策組織」で迅速かつ的確に対応
- ・日常的な児童生徒の観察、定期的な面談・アンケートにより早期発見に努力
- ・早期発見初期対応とともに未然防止が必要

3)重大事態を防ぐために

- ・教職員は、児童生徒から相談を受け、いじめの事実があると疑われるときは、校内の「学校いじめ対策組織」への通報等の適切な措置をとる必要がある。
- ・重大事態とは
 - いじめにより生命、心身又は財産に重大な被害が生じた疑いがあるとき
（例：児童生徒が自殺を凶った場合、身体に重大な傷害を負った場合等）
 - いじめにより相当の期間学校を欠席することを余儀なくされている疑いがあるとき（「相当の期間」とは年間30日を目安。）
- ・教師が介入することによっていじめは改善する。

4)まとめ

- ・大切なのは、一人ひとりの学生が心地よく過ごせる教室・学校をつくること
- ・早期発見・初期対応が大事であるが、その前に未然防止につながる対応を！

4-2. 令和4年度第2回FD研修会

令和5年3月24日

令和4年度第2回FD研修会実施報告書

1. 日程他

主 催：長野工業高等専門学校 教育改善委員会
日 時：令和5年3月14日（火）14:30～16:00
場 所：100番教室
講 師：教務主事 濱口 直樹
題 目：「高専教育の質保証 重点項目について」
出席者： 52名

2. 概要

講演は、本校の現状を理解し、教育改善にかかる課題について理解を深める上で有意義な内容であった。

① ポートフォリオ教育の実施

東京学芸大学教授によるポートフォリオの例を紹介、OneNote を利用した実践例などを例示し、学生の指導への活用を進めてほしい。

② 実験スキル計測の実施

実験スキルシート実践例を示した。このシートの授業での活用について、今後教務委員会で確認をすすめたい。

③ 分野横断的能力の育成の実施

必ずしもこれらの能力に特化した授業科目を設定する必要はなく、開講されているすべての科目やその他の教育活動等を通じて、学生がこれらの能力を身に付けて卒業することを基本としている。今後は、各科目にも分野横断的能力の育成を取り入れた授業設計を検討してほしい。

④ データに裏付けされた教育改善の実施

教学IRに基づいた教学マネジメントに統合されたため重点項目としては動いていないと説明。

⑤ ピアサポーター育成の実施

本校で実施したTAによる校内学習塾の現状を説明。学生の学力向上に寄与している。

また、ピアサポートの活動を行った学生の体験が本人の能力を向上させることがある。ピアサポート活動を積極的に行うよう学生を指導することについて提案。

⑥ 学生情報の集約および共有の実施

学生の出欠だけでなく「好調」「不調」などのデータも教員間で共有することより学生の変化を速やかに把握できるシステムを導入することについて説明。

教務システムに加えて学生の動態を把握するシステムと複数入力することになる点が改善できないか、教員が入力する時間が足りない、入力のためのデバイスの充実が望まれるという意見有。

その他質問等

- ・内部質保証の定義がわかりにくい
- ・今後の質保証に対する取組について何か具体的なものはあるか

4-3. 令和4年度第3回FD研修会

令和5年3月31日

令和4年度第3回FD研修会実施報告

1. 日程他

主 催：長野工業高等専門学校 教育改善委員会
日 時：令和5年3月29日（水）16:00～16:15
場 所：100番教室
講 師：事務部長 亀井 耕治
題 目：「情報の格付けと取扱い」
出席者： 60名

2. 概要

講演は、情報の格付けの基本的な事項を概説し、本校の現状を理解しつつ、情報セキュリティにかかる課題について理解を深める上で有意義な内容であった。

- ・ 情報セキュリティと情報の格付け
情報セキュリティを向上させるために対策を講じ、その情報の格付けに応じた制限等を行うことが必要→セキュリティポリシーを規定
- ・ 格付けの3つの指標を理解する
→機密性・・・許可されている者のみが情報にアクセスできる
→完全性・・・アクセスする情報が正確な状態で完全である
→可用性・・・許可されている者がいつでも容易にアクセスできる
- ・ 機密性・完全性・可用性についての格付けの定義例
内閣サイバーセキュリティセンターサイバーセキュリティ戦略本部『政府機関等の情報セキュリティ対策のための統一基準』により定められている。
- ・ 要保護情報とは
それぞれ格付けされた情報の内「要機密情報」「要保全情報」「要安定情報」と定義されているものを指す。
- ・ 教職員が情報を取り扱う際のポイント
→情報の利用は、業務上必要な範囲に限定すること
→情報の取扱いに関する機構（本校）のルールを知って、守ること
→格付や取扱制限が不明なら、上司や同僚に相談、確認すること
→要保護情報を校外に持ち出す場合は、機構（本校）で決められた手続きを取ること（盗難・紛失にも注意）

以上

5. 令和5年度の活動に向けた各種委員会等への提言

令和4年度の各種委員会の活動状況の点検結果、学生との意見交換会、外部評価からの改善内容に関する意見をもとに、各種委員会への提言を以下に示す。

1. 教務委員会への提言

(1) 校内学習塾

ある一定の効果があるものの、特定学生においては、欠席率が56%と多く、本来対策を必要としている学生に対して有効であると言い切れないため、改善が必要と思われる。(例えば、学生間の学び合いを絡め「TAによるメンター制度」を成績不振の学生に対して行うことで、遅延なく理解できる体制にする等)

(2) 授業公開アンケート

参加教員が少ない真の原因を究明し、実施方法の見直しが必要と思われる。

(3) ポートフォリオ教育

ポートフォリオは学習状況やキャリア形成を見通したり振り返ったりしながら、学生の変容や成長を自己評価できるよう工夫されたキャリアパスポートである。この記録をもとに教員が対話的にかかわることによって、学生の成長を促し、個性を伸ばすなどの指導へ繋げていただきたい。

(4) 系の選択方法の整備

希望する系以外となった学生の追跡調査を行い、十分なフォローを検討いただきたい。同時に、副専攻の選択で再びチャンスがあることも十分に伝達していくこともお願いしたい。

(5) 人間力UP教育の検証

1年生と4年生に対する分野横断的能力セルフチェック結果を確認することはなされているが、改善に向けたフィードバックの仕方を考えていく必要がある。

(6) 学科間連携、専攻科との連携の強化

連携にもいろいろな連携があるため、具体的な連携の在り方を定義して頂きたい。

2. 学生支援委員会への提言

(1) 問題行動の発生は皆無ではないため、問題行動の未然防止は、継続して未然に防止するための活動を、試行錯誤して行っていく必要がある。

(2) 新型コロナウイルス感染症の対応では、都度できる限りの対策を行ってきたと思われる。来年度からはいろいろな規制も緩和・廃止される方向であるが、有益と思われた対策等はマニュアル化し、次の感染症に備えることが必要と思われる。

3. 寮務委員会への提言

(1) コロナ対応で縮小した寮生活活動を次年度以降どのような元に戻すか準備が重要と思われる。

(2) コロナ対応の個室化が寮生活態度の悪化への影響があると思われる。寮務委員会と寮生会による教育寮としての取り組みが今後の対応が重要と考える。

(3) 桜風寮の国際交流などによる有効活用と学外への発信が重要となる。

4. 専攻科運営委員会への提言

(1) 教員への研究業績積上げ依頼は毎年行われているにも関わらず、個票の総数は大きく変化していない。個票の総数を増やすためには、研究業績の積上げが不可欠であり、研究業績の積み上げの支援や研究主事と連携をするなど、抜本的な改善が必要である。個表増加を目的とした教員への働きかけ、准教授以上への昇任教員への個表申請の働きかけも、研究業績の積上げがベースになるもので、教員への研究業績の積上げ依頼とセットで抜本的に見直す必要がある。

5. 図書館への提言

(1) ブックハンティングやビブリオバトルの実施について議事録等記録を残し、改善に資することが求められる。

(2) 図書館の紹介や利用方法については新入生に対し、図書館主導で時間を取り説明することが良いと思われる。

(3) 学生向けの授業や卒研での電子ジャーナル利用促進や周知が求められる。

6. 広報企画室への提言

- (1) 部門の活動が高専 PR・入試倍率の維持・学生の確保につなげる方法の検討が求められる。
- (2) CMS の入れ替えおよび Web サイトのリニューアルが急務である。

7. 教育支援センターへの提言

- (1) 教育支援センターが、情報教育センターと技術教育センターそれぞれに戻る体制になるため、本年度の情報も含めた引継ぎが求められる。

8. グローバル教育推進センターへの提言

- (1) English Boot Camp 開催などの国際交流イベントを、国際寮を活用するなど一層の推進が求められる。
- (2) 本校留学生に対して、チューターを活用するなど、交流や支援を深める必要がある。
- (3) コロナ後の国際交流の活性化として、タイ・香港・NAIT との交流等を推進させる必要がある。

9. 男女共同参画推進室への提言

- (1) 女性教職員就業支援について、インターンシップや今年度までコロナ禍で控えていた大学等への働きかけが必要である。

10. 進路支援室への提言

- (1) 各種後援会の実施・実施要項はあるが、取り組みの報告の形ではない。実施報告やアンケートなどで効果などの検証が可能な資料の提示を検討してほしい。
- (2) 低学年向けの進路講演会（5 年生が担当）は、1 年生対象に、1 月に実施されているが、1 年生の系が決まる前（たとえば、前期終了時の特編授業など）に実施すること検討してほしい。
- (3) 進路支援室の開催が年に一度だけで、しかも年度の終わり頃になっている。定期的な適切な開催と情報共有があったほうがよいと思われる。また、年度最後に取りまとめの会議を検討してほしい。

11. 教育改善委員会への提言

- (1) タイムリーな点検作業の実施が必要。
- (2) 実効性の高い点検システムへの改善を進めてほしい。

付録

付録 1 令和4年度専攻科学習・教育目標の達成度評価の確認報告

学習・教育目標の達成度自己評価調査票の集計結果

2022.3.11 機械工学科 北山

設問

質問

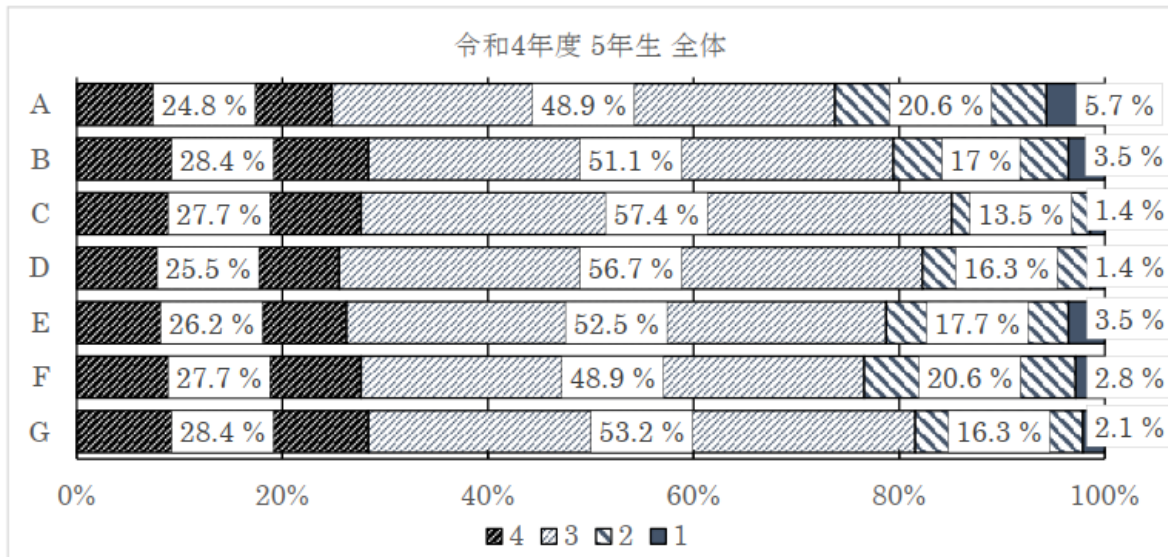
種類	学習・教育目標
A	世界の政治，経済，産業や文化を理解し，その中で自分自身が社会に貢献できる役割が何かを討論し，多面的に物事を考え，行動できますか？
B	自然環境や社会の問題に関心を持ち，技術者としての役割と責任について考えを述べることができますか？
C	機械，電気電子，情報または土木の工学分野に必要な数学，自然科学の知識を有し，情報技術に関する基礎知識を習得して活用できますか？
D	基盤となる工学分野およびその基礎となる科学，技術の知識と技能を習得して必要とされる技術上の問題に活用できますか？
E	科学，技術および情報の知識，基盤となる工学分野で習得した知識，さらに技術者としての実践的な知識や技能を活用して，自ら問題を発見し解決できますか？
F	具体的なテーマについて論理的な記述と説明および討論ができますか？
G	習得した工学分野の知識を基に，課題の達成に向けて自ら問題を発見し，それに対処するための業務を自主的・継続的かつ組織的に遂行できますか？

選択肢

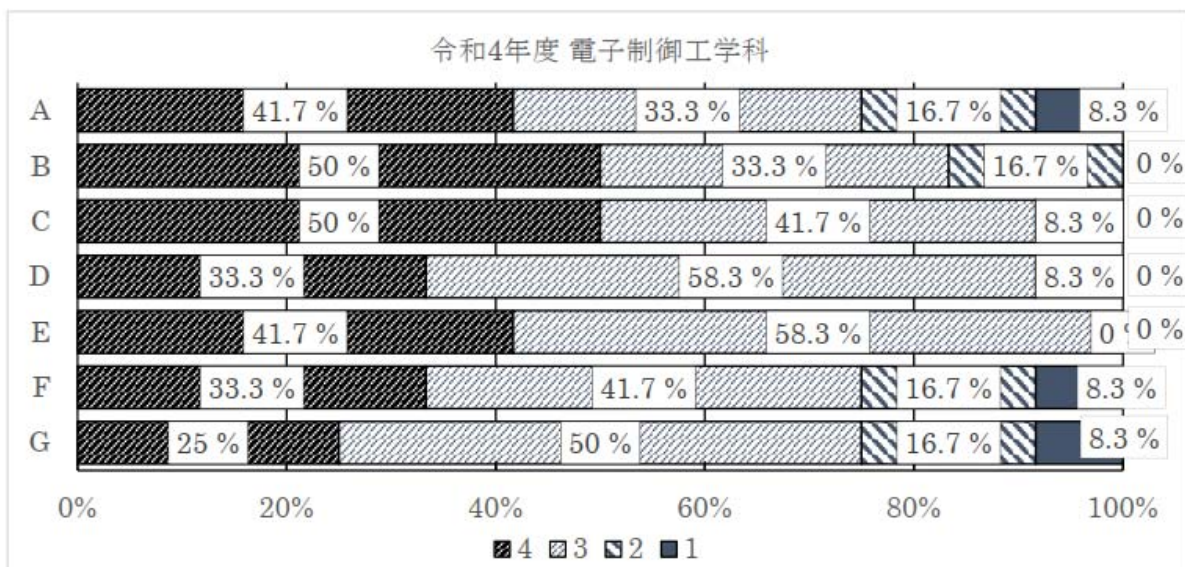
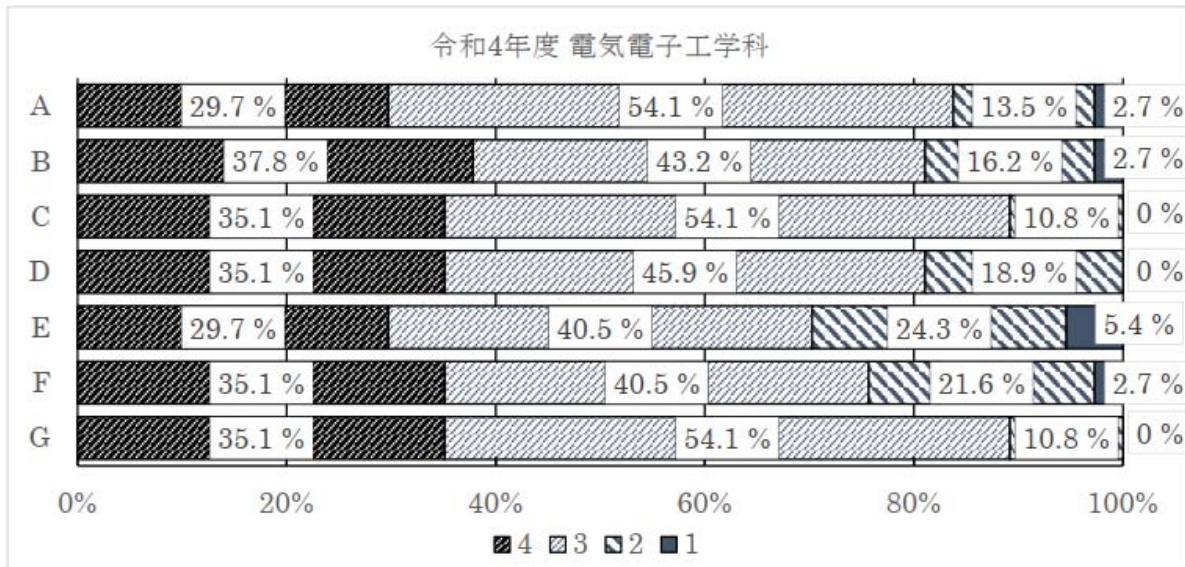
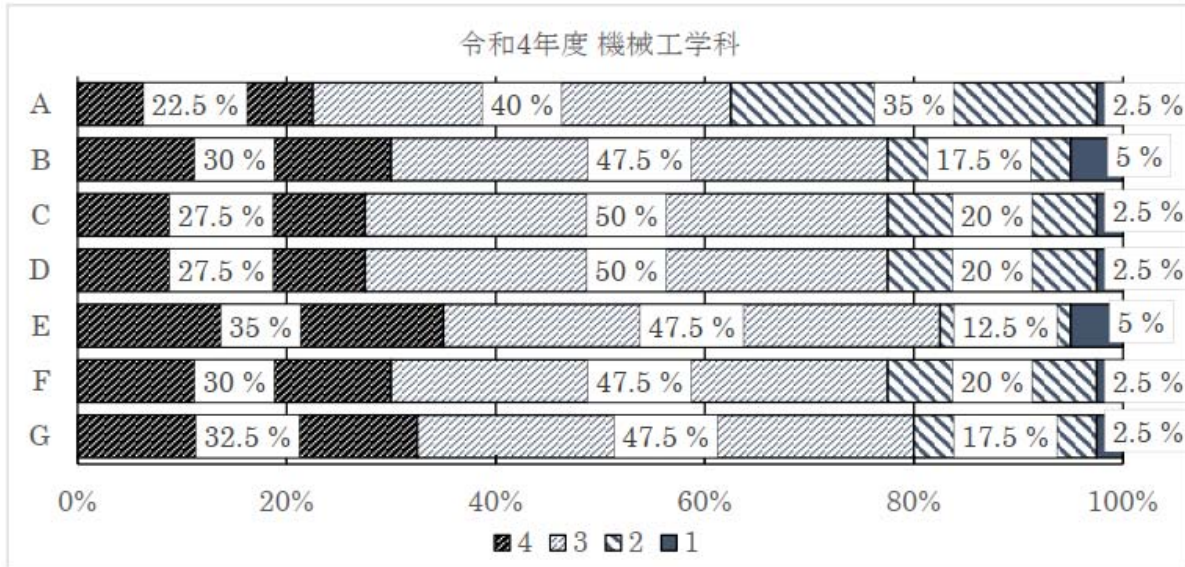
できる	④	③	②	①	できない
-----	---	---	---	---	------

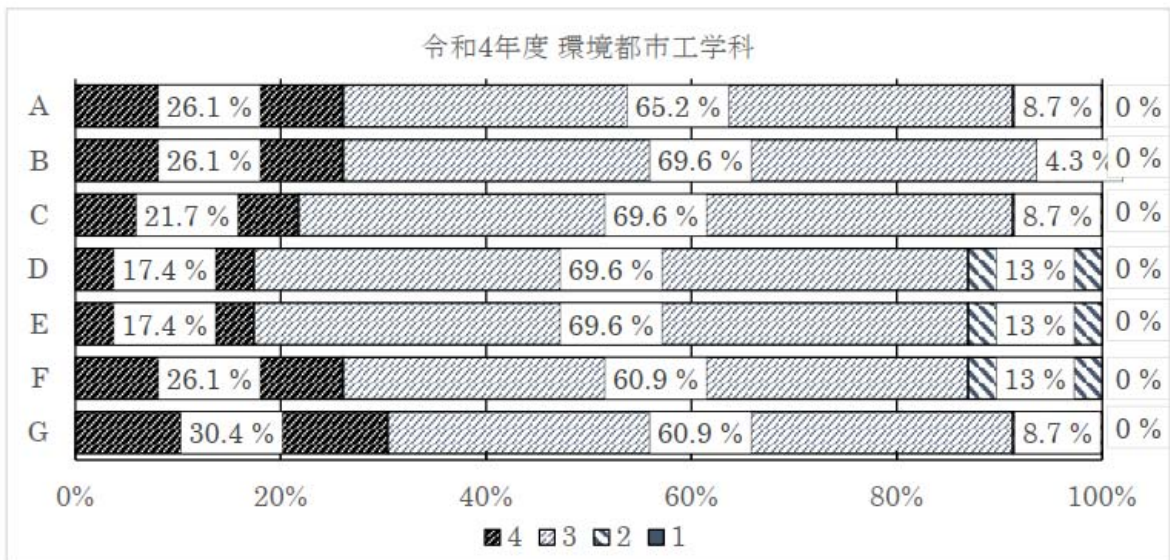
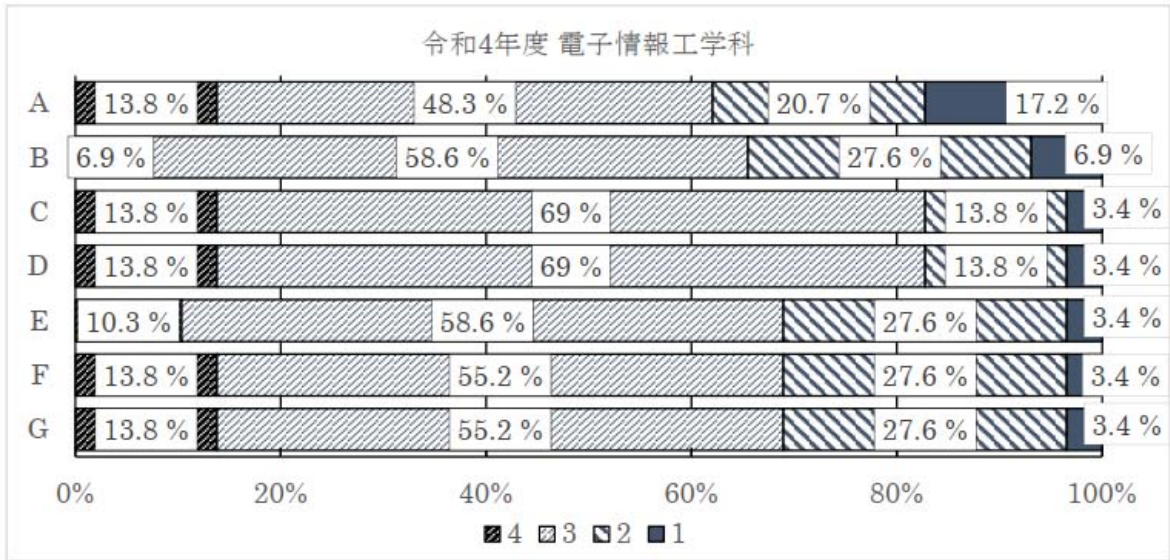
全体の集計結果

M : 40名, E : 37名, S : 12名, J : 29名, C : 23名, 全体 : 141名



学科ごとの集計結果





令和4年度専攻科学習・教育目標の達成度評価の確認報告

専攻科運営委員会

令和4年度に修了予定の専攻科2年生を対象に、ルーブリック形式による学習・教育目標の達成度評価を実施した結果について報告する。

1. 実施期間および対象者

実施日時：令和5年1月31日（火）～2月10日（金）

対象者：生産環境システム専攻16名、電気情報システム専攻10名 計26名

調査方法：表1「ルーブリック形式による学習・教育目標の達成度評価確認表学生個人用」を配布して、回答していただいた。

回答者数：25名（回答率96.2%）

表1 ルーブリック形式による学習・教育目標の達成度評価確認表 学生個人用
生産環境システム・電気情報システム 専攻 学籍番号 氏名

学習・教育目標	合格			不合格
	優秀（すばらしい）	良（よい）	可（さらに努力を要する）	不可（不十分）
	基本的に期待されるレベルを超えている	ここまで到達することが望まれるレベル	期待した基礎レベルに達している	期待した基礎レベルに達しておらず不合格
A	世界の政治、経済、産業や文化を理解し、その中で自分自身が社会に貢献できる役割が何かを討論し、多面的に物事を考え、行動できる素養を持つ。	世界の政治、経済、産業や文化を十分に理解しており、自分の考えを述べることができ、多面的に物事を考え行動できる	世界の政治、経済、産業や文化を十分に理解しており、多面的に物事を考え行動できる	世界の政治、経済、産業や文化を理解しておらず、多面的に物事を考え行動できない
B	自然環境や社会の問題に関心を持ち、技術者としての役割と責任について考えを述べる素養を持つ。（技術者倫理）	自然環境や社会の問題に関心を持ち、技術者としての役割と責任について自らの考えを十分に述べることができる	自然環境や社会の問題に関心を持ち、技術者としての役割と責任について考えを述べる素養がある	自然環境や社会の問題に関心がなく、技術者としての役割と責任について考えを述べることができない
C	機械、電気電子、情報または土木の工学分野（「基盤となる工学分野」）に必要な数学、自然科学の知識を有し、情報技術に関する基礎知識を習得して活用できる。	基盤となる工学分野に必要な数学、自然科学の知識を十分に有し、応用力もあり、情報技術に関する基礎知識を習得して活用できる	基盤となる工学分野に必要な数学、自然科学の知識を有し、情報技術に関する基礎知識を習得して活用できる	基盤となる工学分野に必要な数学、自然科学の知識が不十分で、情報技術に関する基礎知識を習得して活用できない
D	基盤となる工学分野およびその基礎となる科学、技術の知識と技能を習得して必要とされる技術上の問題に活用できる。	基盤となる工学分野およびその基礎となる科学、技術の知識と技能を十分に習得しており、必要とされる技術上の問題に活用や応用ができる	基盤となる工学分野およびその基礎となる科学、技術の知識と技能を習得して必要とされる技術上の問題に活用できる	基盤となる工学分野およびその基礎となる科学、技術の知識と技能を習得しておらず、必要とされる技術上の問題に活用できない
E	科学、技術および情報の知識、基盤となる工学分野で習得した知識、さらに技術者としての実践的な知識や技能を活用して、自ら問題を発見し解決する能力を養う。	科学、技術および情報の知識、基盤となる工学分野で習得した知識、さらに技術者としての実践的な知識や技能を活用して、自ら問題を発見し、主体的に解決することができる	科学、技術および情報の知識、基盤となる工学分野で習得した知識、さらに技術者としての実践的な知識や技能を活用して、自ら問題を発見し解決する過程を知っている	科学、技術および情報の知識、基盤となる工学分野で習得した知識、さらに技術者としての実践的な知識や技能を活用して、自ら問題を発見し解決する能力がない
F	具体的なテーマについて論理的な記述と説明および討論できる能力を身につける。	具体的なテーマについて、複数の視点から論理的な記述と説明および討論ができる	具体的なテーマについて、ある視点を基に論理的な記述と説明および討論ができる	具体的なテーマについて論理的な記述と説明および討論ができない
G	習得した工学分野の知識を基に、課題の達成に向けて自ら問題を発見し、それに対処するための業務を自主的・継続的かつ組織的に遂行する能力を身につける。	習得した工学分野の知識を基に、課題の達成に向けて自ら問題を発見し、それに対処するための業務を自主的・継続的かつ組織的に自ら積極的に、計画的に遂行できる	習得した工学分野の知識を基に、課題の達成に向けて自ら問題を発見し、それに対処するための業務を自主的・継続的かつ組織的に自ら積極的に遂行できる	習得した工学分野の知識を基に、課題の達成に向けて自ら問題を発見し、それに対処するための業務を自主的・継続的かつ組織的に遂行することができない。

2. 集計結果

図1に調査結果を示した。対象者26名中、25名から回答があった。調査数が少ないことから、専攻ごとに分けずに集計した。優秀（すばらしい）を4、良（よい）を3、可（さらに努力を要する）を2、不可（不十分）を1として集計した。参考として、図2に昨年度の調査結果を示した。

令和4年度の専攻科2年生は、学習・教育目標のA～Gの全てにおいて9割の学生が3（良・よい）以上の達成度であったと回答があった。昨年度の結果と比較して、学習・教育目標EとFについて4と回答した学生がそれぞれ58.3%（昨年度37.5%）、66.7%（昨年度41.7%）と20%以上増加した。昨年度の2年生は1年次の学外実習期間途中で中断する学生があったが、本年度の2年生は最後まで実施できたため、達成度が高かったと考えられる。

今後、更なる学習意欲と達成度向上のため、研究環境を充実させるとともに、時代のニーズに合った科目の増加が望まれる。

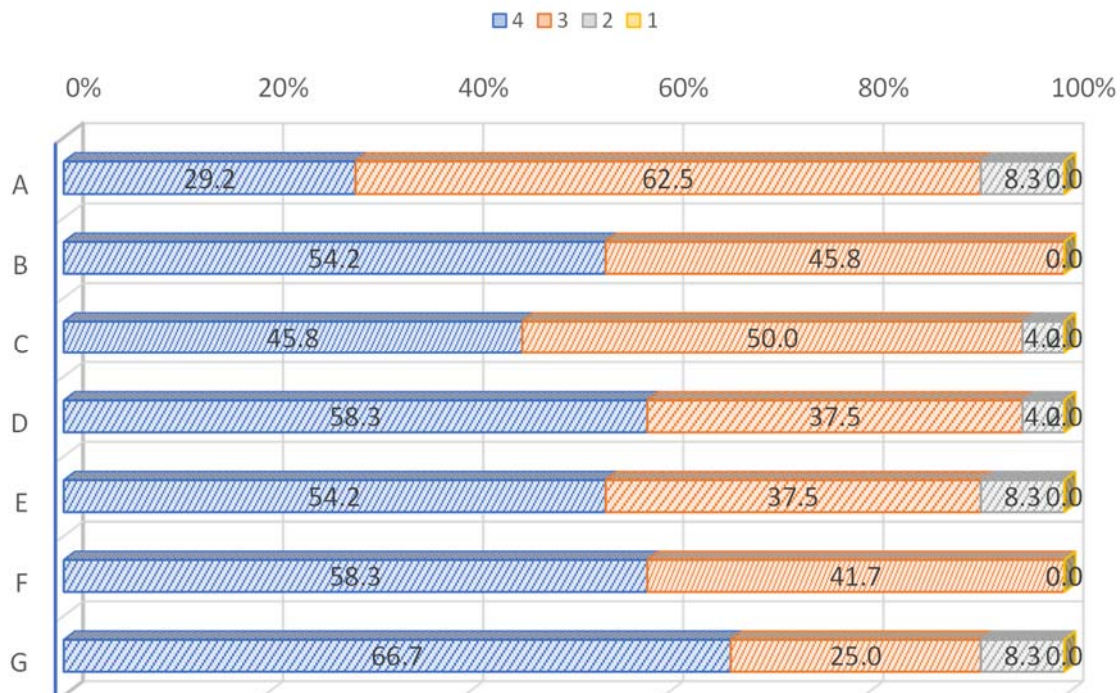


図1 学習・教育目標の達成度評価の集計結果（令和4年度、回答数：25名）

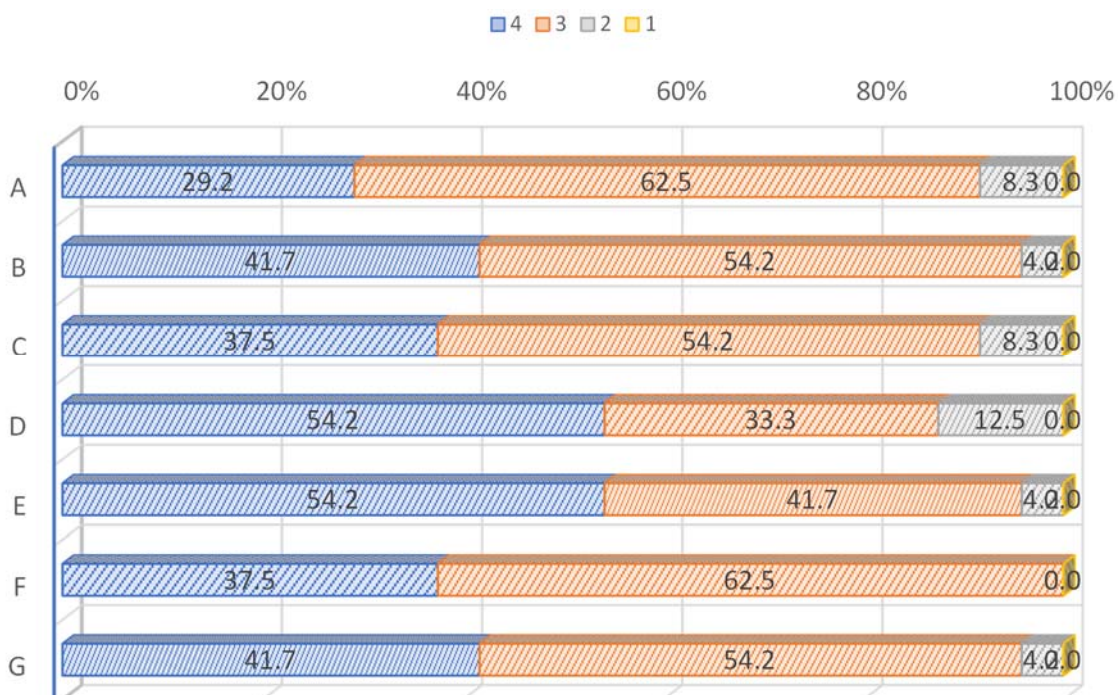


図2 学習・教育目標の達成度評価の集計結果（令和3年度、回答数：24名）

付録3 令和4年度学生との意見交換会 議事録

1. 本科生と学校との意見交換会(2023年2月6日)

令和4年度学生会

場所：第一会議室 時間：14:30～16:00

文責：学生会長 3J 山岸翔梧、書記係長 3J 小林南乃花

会長：現在学生会では無記名式で意見を募っているため一部不適切な質問がある。意見を言うという点において、匿名ではあまり好ましくない。そのため次の意見交換会からは記名式で行おうと考えている。

学生主事：質問の種類が多岐に渡っていて、質問が多い部門があるため調節してほしい。手持ちの資料でできるだけ答えていきたい。また、写真や音声のフィードバックはどうするのか。

会長：春のときの意見交流会では学生会のウェブサイトにて公開していた。しかしホームページの運営ができていないため、PDF等にしてQ&Aの形で休み中にフィードバックしたい。学生主事：掘り下げなければ答えられない質問があり、無記名だと確認のしようがない。また、何人分の意見であるか分かったほうが答えやすい。

・第二体育館に女子トイレと更衣室をつけてほしい。部活の時に一体まで行くのが大変で、着替える時器具庫で着替えるのが嫌です。学校が女子を増やそうとしているなら作るべきかと思います。
学生主事：体育科として問題だと思っている。男女共用トイレになっていて、女子が使いにくい。学校にも働きかけているが、予算の関係上あまり進んでいない。しかし問題としては認識している。
補足：女子の部活同士でかち合ってしまうトイレが混み合ってしまうといった、具体的な状況での要望をしたほうが効果的だと思う。また第2体育館でトイレを作るとなると器具庫を潰したり、男子用のシャワー室をなくしたり、男子トイレを縮小しなければならない。そのため譲歩が理想的だと考えている。どちらにしても不満は出てくることは了承しておいてほしい。(施設係)

・体育館横の駐輪場が利用者数に比べて狭く、昼頃の時間になると通路にまで自転車が停まっており、通れなくなってしまう。
学生主事：体育館の北側の駐輪場は仮設のもので、廃止になる予定。そのため図書館まわりを拡張していて、今年度末にもう少し広げる。そんなにも長く使うつもりがなかった造りというのが分かる状況になっている。
補足(学生係)：改修中に駐輪場が足りないため、一時的に体育館の北側の駐輪場を設置した。本来であれば建物として安全に使うことはできないため認められないが、数が不足しているため今まで使われてきた。そのため順次図書館側の方を広げてはいるが、場所が限られていて屋根付きの駐輪場の整理が厳しい。学生のほうにお願いしているのは、詰めて止めた上でとどのくらい必要か教えてほしい。屋根がない駐輪場として提供することも考えている。体育館側を廃止し、なんとか図書館側の方に移していきたい。しかし体育館側のほうを廃止してもまた使う人がいると良くないため、学生会などと協力しながら見回りをしなければならない。

・連絡が間際なことが多いので、早めに計画的に連絡してほしい。
教務主事：最近の傾向で緊急を要する連絡が多いため間際になってしまうと感じている。実際にどういった連絡が遅いと感じているのか。
学生会：コロナに関係しない連絡(学事歴など)において、学生からはもう少し早く出してほしいという感じがする。

教務主事：昨年度よりも学事歴や時間割などの連絡を早くするという意識をしている。

・試験前にレポートを集めたりしないでほしい。テストの前にイベントなどの予定を詰め込まないでほしい。
教務主事：試験前のイベントについてはコロナが関係している。急な休校に備えて通常よりも前倒しで終業式などを行っているため、試験期間が前にずれている。そのためその調整とイベントの決定のタイミングがずれてしまっている。来年度は修正し以前と同じような日程に改善していきたい。レポートについては締め切りがテストに近いのが大変だと感じていると思う。成績処理のギリギリのタイミングであるためそうになってしまう。計画的にやってほしい。

・テスト後の 1 週間、普通の授業になってしまったのを、また特別編成授業に戻してほしい。
教務主事：急いでテストを返す特別編成授業よりも、テストを受けた後のまとめという点で重要と考えている。またコロナ対策だけでなく、追試験を行っている。来年度に向けて検討していきたい。

・学校の先生方の学生に対する呼び方について要望がある。
長野高専の先生方は、男子学生の呼び方を「～君」、女子学生の呼び方を「～さん」としている。しかし、その呼び方では LGBT の学生への配慮が欠如していることは明らかで、近年の動きに後れを取っている学校だな、と出欠をとるたび常々感じており失望している。先生方の理解があり、進んでいる学校では性別に関係なく「～さん」と呼んでいる学校があるのも事実である。なので、長野高専の先生方にもぜひ、性別に関係なく同じ呼び方をしてもらいたいものである。

教務主事：今後そのように対応していこうと考えている。

・学食および購買でスマホ決済や電子決済に対応してほしい学生係：
4 月に業者が変わり、導入する方向で調整している。

・課題探究の時間が有意義ではないと感じる。他のために使った方がいいと思う
教務主事：今年度新たに工学科に課題探究を導入した。相談やレポートの書き方を教えるといった時間として設定した。当初よりも余裕のある時間割で、レポートも少なかった。校内学習塾を改良した有意義な課題探究を検討していきたい。学習ができる場所としてもう少し計画していきたい。

・体育館のコンセントが破損しており、使用に難があるので修理していただきたい。
学生主事：コンセントに刺さっているときにボールが当たっても大丈夫なように、サポートをするなどの方法を検討している。
補足（施設係）：プラグが飛び出した分よりも何かほかのものを飛び出させ、ボールがそれ以上いかなないようにする方法を考えている。また延長コードで折れるタイプのを差し込み、そこから電源をとる方法もある。準備をしているため、もう少し待ってほしい。壊れたらすぐに伝えてほしい。

・教室では、モバイル通信の速度が非常に遅くなってしまい、画像の送信などにかかなりの時間がかかってしまう。改善してほしい。
施設係：学校の Wi-Fi であるならばセンターの範囲内であるが、各自の携帯電話ならば学校側としては対処が難しい。

・スマホを除く複数台のデバイスを校内 LAN に接続できるようにしてほしい。
施設係：最大速度が 1 GB という制限があり、10GB にしてほしいという交渉はしている。しかし端末が多すぎると使いにくくなってしまうため、1 人 1 台という環境が一番使いやすいと考えている。

・部活動所有の PC 等の学内 LAN への接続をしてほしい。
施設係：顧問の先生を通して学校側に申請してほしい。検討して許可を出す。

・学校 Wi-Fi の改善・強化をしてほしい。Teams 使っていると不具合が出たり、接続が切れたりする。
施設係：どんな場面で不具合が生じているかの情報があると対処できる。

・昨年度開設した学生会 HP がなぜ中止しなくてはいけないのか。明確な理由をお聞かせ願いたい。
総務主事：現在長野高専では公式として学校のホームページのみとなっており、そのほかのものは一切認めていない。公式でなくとも、長野高専の名前を使う必要があるため内容を精査しなければならず、それが非常に難しい。SNS についても同様としていて、基本的に認められない。SNS においてはなりすましやアカウントの削除などの管理が行えなくなる可能性が懸念される。長野高専のドメインを使うのが安全であり好ましい。

・冷房の温度をもう少し下げられるようにしてほしい。
施設係：文科省の基準では教室内の望ましい体感温度が 17 から 28 度とされている。27 度に設定していたが、コロナウイルスの関係で換気を行うため現在は 26 度で運用している。下げすぎる

と嫌がる学生がいるため、個別で設定することも可能であるため温度設定は検討していきたい。誰もいないにもかかわらず冷房、暖房がつけっぱなしであったり、暖房を入れているのに教室の扉が開けっ放しだったりするため学生にも協力してもらいたい。

・体罰を行っている教師がいるため、対処してほしい。

校長（代理：学生主事）：具体的な話が聞きたい。学生主事、担任の先生、保健室の先生、学生相談室などに話をしに来てもらいたい。あってはならないことなので早急に対応したい。

・購買専用の〇〇円分の商品券とかあればいいと思う。友達誕生日プレゼントなどに渡したい。

学生係：新しい業者に意見を出していきたい。

・学食でフェアメニューの時などに食器が汚いことがあるので、しっかりと洗うようにしてほしい。

学生係：業者に伝えておく。

・バイク用の駐輪場を増やして欲しい。文化祭の時に臨時駐輪場を設置できるのだから、場所はあると思う。

学生係：申請して許可が下りた学生のもののみであるため、来年度の数をみて検討していきたい。申請を継続する学生は年度初めに申請を出していたため、年度末に申請を出せるように対応していただくようお願いしている。

・学生課の PC に施設の使用場所を記入すると思うが、記入したあとで誰かが変更出来るためシステムの改善をした方が良いと思う。

学生係：実際の事案があれば学生課に言ってほしい。

・体育館横の駐輪場は夜になるとライトが少ないので暗く、見えづらくなってしまふ。学生係：今年度末で廃止する。

・国際寮を建設するにあたって、合宿施設を取り壊したかと思ひます。そのため、国際寮を合宿施設の代わりとして使用できるようにしてほしいです。

寮務主事：国際寮について、国際交流で使用するため合宿などでの利用は想定していない。補足（学生係）：飾っておくための施設ではないためいろいろな提案を受けていきたい。（学生係）

・留学生に力を入れすぎて、在校生（特に男性）を忘れた学校運営が行われているように思へます。国際寮を建てるお金があるのであれば、男子寮を直すために使用してほしい。

寮務主事：後日返答

・グラウンドの方も草刈りしてほしい。

学生係：体育の授業や部活動などで学生にも協力してもらふ必要がある。外部に外注するのは難しい。

・Mathematica と WolframAlpha pro を office365 のように学校でサブスクライブして欲しい。

総務主事：使用人数が少ないため難しいと考えている。

・購買が営業時間でも閉まっていることがあるので、「変動あり」と記載するか時間通りに営業してほしい。

学生係：将来的には無人レジを用いるということを視野に入れている。

・2、3 年生でスケート実習があると思いますが、なぜスケートなのですか。スキーではダメなのですか。

学生主事：令和元年まではスキー、スノーボード実習だった。海外研修に行く予定だったため予算を確保するために廃止となった。今の1年生からカリキュラムが変わっており、4年時に選択の集中講義でウィンタースポーツという授業を取れるようになっている。

2. 専攻科科生との意見交換会(2023年2月10日)

2023.2.14

令和4年度専攻科生との意見交換会 実施報告

専攻科運営委員会

1. 開催日時および会場

開催日時：令和5年2月10日（金）9:30～10:30

会場：図書館2階 視聴覚室

参加者：渡辺 誠一 専攻科長、芦田 和毅 電気情報システム専攻長、轟 直希 委員、
専攻科1・2年生 33名 計 36名

2. アンケート集計結果の紹介

実施期間：1月16日（月）～1月27日（金）

回答結果：別紙の通り（最終版）

3. 意見交換の概要

①特別研究について

- ・（アンケート集計結果から）コメント：研究施設・設備の不足については、指導教員に相談してほしい。

②施設および設備について

- ・（アンケート自由意見から）回答：セキュリティーの関係で校外から校内LANに接続できない。
- ・ 意見：講義室2になぜヒーターが5台あるのか？講義のときにブレーカーが落ちた。
回答：講義室1および3のも置いている。コンセントは1教室20Aしか使えないので注意。

③講義について

- ・（アンケート自由意見から）回答：講義科目について新規科目のアイデア、機能デザインに関する意見があったら個別に伝えてほしい。
- ・（アンケート自由意見から）回答：機能デザインの実施時期については、2年前期だと進路の時期と重なりやりにくくなるため後期にしている。

④進路について

- ・（アンケート自由意見から）回答：専攻科は大学に準じて公欠の制度は設けていない。もし欠席する場合には担当教員に相談してほしい。
- ・（アンケート集計結果から）回答：進路と学外実習が時期的に重なる点については、学外実習を9月から実施できるようにしたため、年内で終了した学生が増えて改善できつつある。
- ・（アンケート自由意見から）回答：情報系の企業は自由応募が多く、高専キャリアサポートシステムよりリクナビやマイナビの方が多く情報が掲載されている。併用して就活すると良い。

⑤遠隔授業について

特になし

⑥学習教育目標の認知状況について

特になし

⑦専攻科修了後の進路の満足度について（2年生のみ）

- ・（アンケート集計結果から）コメント：2年生全員が満足していると回答していただいたことは専攻科として非常に嬉しい。

⑧専攻科に対する要望・その他

☆施設について

- ・（アンケートから）回答：校内にカードキーで出入りできる仕組みはカードキーが導入されている施設やフロアで既に対応済であるが、そのような設備が整っていない場所は厳しい。
- ・（アンケートから）回答：中庭に日除けが設置された。
- ・（アンケートから）回答：今まで2階共用室に電子レンジがあったが、今年度電子情報工学科5年生の卒研スペースになったため置けなかった。来年度は元に戻る予定。
- ・（アンケートから）回答：C科棟横（技術教育センター管理室前）の自販機がコールド商品のみ販売している件については、来年度の食堂を運営する業者に意見を伝えたい。C科棟はオープンスペースになっているので寒いかもしれない。
- ・

☆専攻科のカリキュラムや本科との関わりについて

- ・（アンケートから）回答：本科への情報発信として連携教育プログラムについては、12/21（水）4年生進学講演会の後に3名から問い合わせがあり、個別に説明した。
- ・（アンケートから）回答：後輩へのアドバイスできる機会（TAなど）を増やしてほしいという建設的な意見をいただいた。来年度から始まる本科生「エンジニアリングデザイン入門」などで協力してほしい。

☆学外実習について

- ・（アンケートから）回答：学外実習期間中の収入不足を補うため、学校から金銭的な援助をするのは厳しい。

☆その他

- ・（アンケートから）回答：学食で提供される食事の値段については、来年度の食堂を運営する業者に意見を伝えたい。
- ・来年度から、専攻の区分「電気電子工学」を希望する学生の研究室選びの範囲が広がる。もし研究室の変更を希望する場合には相談してほしい。

以上
(文責 渡辺誠一)

令和4年度

学生の満足度に関する
アンケート調査実施結果

令和5年2月3日実施

国立長野高専
教育改善委員会

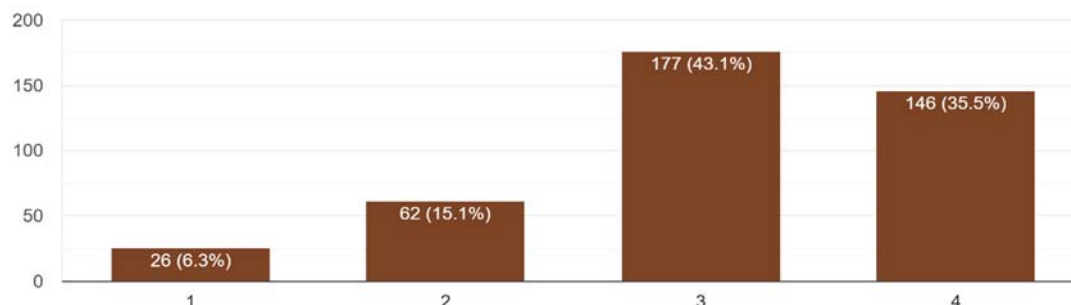
長野高専の満足度調査(2022年度)のまとめ

*全学生(本科及び専攻科計 1050名)に対する回答数 411件

1. 学習について

本年度、学習を十分に行えましたか？

411件の回答



※左から「行えなかった～行えた」の度数 1～4

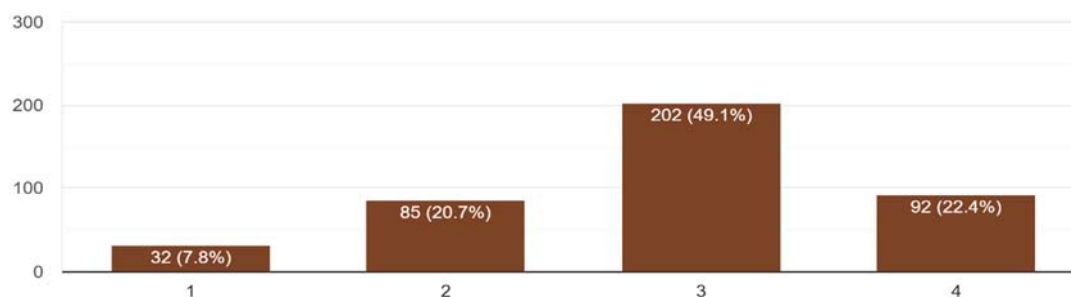
上記質問への主な回答記述

- ・学生会役員・工嶺祭実行委員で忙しく、思うように勉強時間を作れなかった。
- ・基礎英語に加えて日常会話で使う英語を身につけたい
- ・選択科目をもう少し多く取っておけば良かった
- ・レポートが終わらず、通常の学習がしにくかった。
- ・部活で忙しかったのもあるが、時間を効率的に使えなかった。
- ・もっとテスト前から勉強を始めれば良かった
- ・入学したては勉強の方法が分からなくて困っていたがやっと慣れてきた。
- ・1つの教科に集中しすぎて、他の教科が疎かになってしまっていた。
- ・課題があるとそちらへの意識で勉強に本腰が入らない

2. ICT環境について

本校のICT環境について満足していますか？

411件の回答



※左から「不満足～満足」の度数 1～4

上記質問への主な回答記述

- ・情報教育センターのPCが弱い。授業でCADをやっていると落ちる。スペック不足を感じる。
- ・情報教育センターキーボードの反応が悪すぎて使用に難がある。
- ・研究室で使っているPCが時代遅れで全く使い物にならない。
- ・工場などのPCの性能が悪い
- ・また端末室の端末の中には起動の遅い個体があるプロジェクターの解像度をどうにかしてほしい

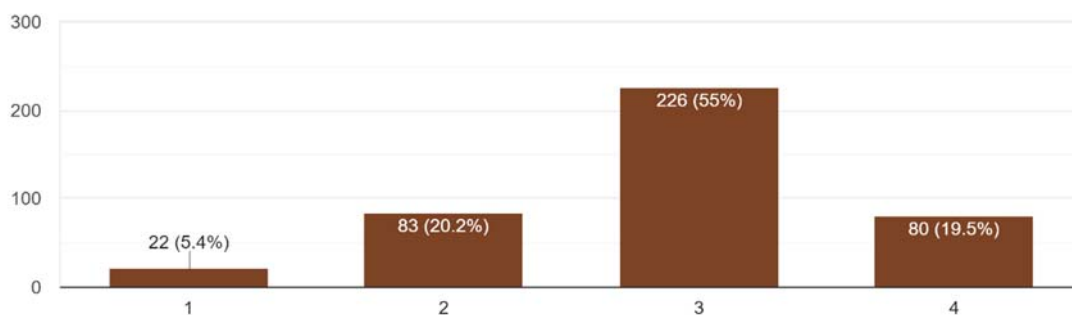
(HDMI 接続できるようにしてほしい)"

- ・昨年度に比べて、PC 起動時、校内無線 LAN に接続するのに時間がかかります。
- ・学校の方針としてオンライン化や ICT 利用を勧めるのであれば、それに適応できる環境や備品の整備をお願いします。"
- ・授業録画の配信は今後も行ってもらいたい。授業についていきやすくなります。

3. 自主的学習の支援について

自主的学習を支援する体制について満足していますか？

411 件の回答



※左から「不満足～満足」の度数 1～4

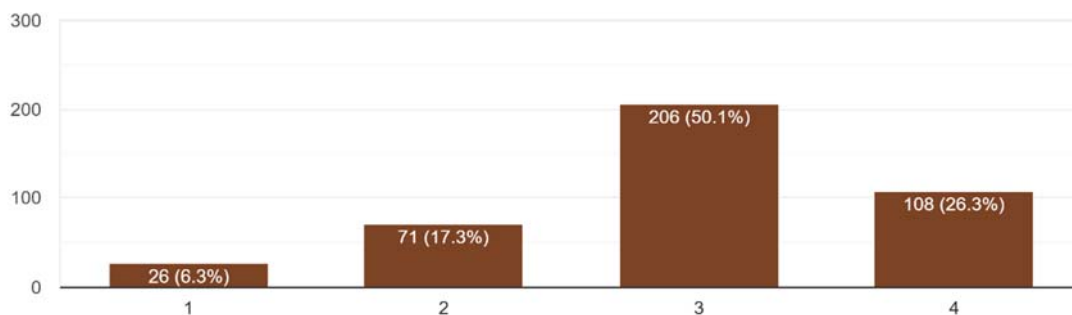
上記質問への主な回答記述

- ・エアコン 17 時につかえなくなるのは早い
- ・図書館の勉強スペースの壁アリの机を増やして欲しい
- ・図書館使ったことないけど使っている人は便利そう。
- ・図書館以外にも勉強できる場所が欲しい
- ・低学年からでも早い段階から編入対策を始められるシステムやグループがあると良い
- ・学修単位と言いつつ全然指導がない
- ・図書館を使える機会が年々縮小されている。テスト前は愚か普通の日でも休館や時短営業されてしまい自主学習できる状態ではない。
- ・図書館がとても良いことに最近気づいた。
- ・課題を減らしてください。自主学習を行う精神的余裕は持てません。
- ・図書館の開館時間が長く、大変助かる

4. 生活や経済面に係わる指導について

生活や経済面に係わる指導に満足していますか？

411 件の回答



※左から「不満足～満足」の度数 1～4

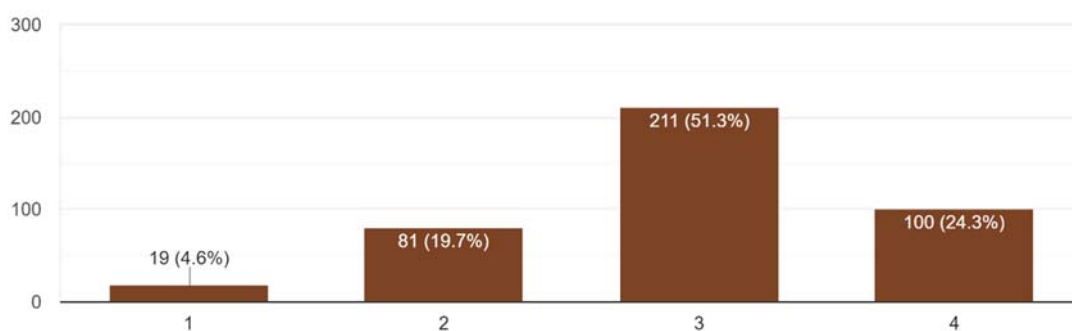
上記質問への主な回答記述

- ・指導されたことが無いかなと思います
- ・奨学金の説明があいまい。
- ・周りに病んでる人が多くて可哀想
- ・生活や経済面に関する問題は無いが指導されている感覚もない
- ・アルバイトを1から3年生も長期休暇以外でも許可して欲しいです。
- ・高学年に関してはアルバイトに際した申請はいら無いと思います。大学生と同じ年齢です。

5. キャリア教育の体制について

キャリア教育の体制について満足していますか？

411件の回答



※左から「不満足～満足」の度数1～4

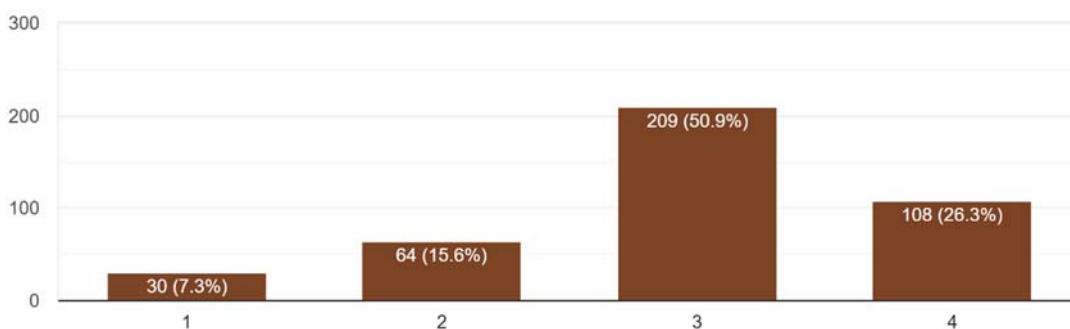
上記質問への主な回答記述

- ・学校主催の企業説明会をもっと盛んに開催してほしい
- ・キャリアコーディネーターさんとの進路相談が可能な日を増やしてほしい
- ・先輩の話が聞けて良かったです
- ・かなり放任よりな気がするもう少しアドバイス等あればよかった"
- ・担任が学生の進路に興味になさそう
- ・先生方が経験した事についての話は面白いし参考になる
- ・進路について何が必要なのかももう少し早めに教えて欲しかった
- ・3年でももう少し具体的な説明があってもよいのではないかと思う。
- ・将来的なことも為になるが、先生方の昔話も面白いし、参考になるのでそういう話も聞きたい。
- ・もう少し低学年の学生に現実を見せた方が良いと思う

6. 不安に対する相談や助言などを行う体制について

さまざまな不安に対する相談や助言などを行う体制について満足していますか？

411件の回答



※左から「不満～満足」の度数1～4

上記質問への主な回答記述

- ・少し行きにくい感じがする
- ・担任が、相談しても自分で調べろとしか言わない
- ・多分利用していない
- ・親身になってくれる。
- ・話しやすい教員がおおい
- ・担任の先生が友達を救ってくれてるので、尊敬します。大感謝です
- ・あらゆる事に関して何も伝えてくれない事が多いので、不安になることがある
- ・教員によって対応が変わることがあるので、ある程度の基準が欲しい。

7. その他（自由記述）

- ・年間行事が溜まりすぎている。特に後期期末のテストは予定が詰まりすぎて時間が無く、十分な勉強時間が確保できなかった
- ・4Sが寒すぎます。教室の気温によってエアコンの設定温度を変えて管理して欲しいです。
- ・電子制御工学科の保有する PC が古すぎて、授業で使っていてとても不便である。学生課の貸し出していた PC などに変えていただきたい。
- ・担任の先生が、必要書類を配り忘れていたりすることがあるので、配布物の配布は徹底して欲しい
- ・創造工学についてです。冷静に考えてほしいのですが、これまで学校では一切制御について教わってこなかったのに、創造工学では当たり前のように制御係があるのが疑問です。僕たちは E 科ではないので電気・制御系に対して苦手意識があります。はんだごてすらいじったことがない様な学生にいきなり電気工学のような座学をされても余計に苦手意識が増します。面白くないのでどの学生も単位のための勉強になってしまいます。どうせやるなら電気系の基本グッズ見たいなものを買って実際に回路作って学んだ方がいいなと思いました。
- ・冬に北長野駅からシャトルバスを運行してください
- ・四年の選択科目について説明が特にない状態で言われたので戸惑った。その後、担任の先生が説明資料を作ってくださり不安はなくなった。
- ・特別編成授業に戻してほしい 14 回で試験だと学生も先生も大変 15 回目の授業はほぼテスト返しのみで、もったいないと感じる成績締め切りが早いので課題が一気に来て全て倒れてしまう。先生がかわいそうです追試があると、終業式の日にとまとめることになるから特別編成授業で効率よくテストを返して追試をした方が良くと思う。先生がかわいそうです"
- ・とある教員の方にメールを送信したらその方が返信を BCC で他の先生にも流していることがありました。これは倫理的にいいことなのでしょう。
- ・ほぼすべての教員たちの教え方が本当に下手すぎる。それに関しては大変不満足。見直した方がよい。加えて、LGBTの方への配慮についても甚だ疑問である。もう公立小中学校や高校、さらには大学までも、全員「さん呼び」が当たり前である。しかし本校は一向に改善の兆しが見えない。そ

れだけ本校の教員たちはとても意識が低いことが明白である。こちらも今の時代、見直した方がよいのではないか？

- 授業ではない場面で、留学生などと交流し実践的、自主的に英語を使える機会を設けてほしいです。
- 本当に 1 回、寮食を食べてみたいです。お願いします 寮の中とかどーなってるのかも、気になるのでお願いします 寮食だけは、本当に食べてみたいです。1 年生の時からずっとおもってます。
- 全科目の課題の総量と成績の相関性とか知りたいですね。評定を付ける上での教員の事情以外の、テスト前や直後に課題を出させる意味が知りたいです。
- 製図の模型製作においてスチレンボードの代金を学生から直接徴収していたが、学校の金で支払ってほしいと思った。

以上

付録5 第16回長野工業高等専門学校参与会概要

第19回長野工業高等専門学校参与会議事概要

日時 令和5年2月14日(火) 10:00~12:00

場所 長野工業高等専門学校 第一会議室

出席者

参与：天野良彦参与(会長)、丸山陽一参与、倉島浩参与、池田明参与、渡辺雅義参与、平林靖久参与、小河原敏男参与(副会長)、高橋健也参与、柳見沢宏参与

本校：江崎尚和(校長)、濱口直樹(副校長(教務主事))、児玉英樹(副校長(学生主事))、松下英次(副校長(寮務主事))、渡辺誠一(副校長(専攻科長))、古川万寿夫(副校長(総務主事))/第三者評価対応委員会委員長)、小野伸幸(副校長(研究主事))、亀井耕治(副校長(事務部長))、春日貴志(工学科情報エレクトロニクス系長)、中山英俊(工学科機械ロボティクス系長)、酒井美月(工学科都市デザイン系長/男女共同参画推進室長)、富永和元(工学科リベラルアーツ教員院長)、板屋智之(学生相談室長)

<陪席> 楡井雅巳(教育改善委員会委員長)、鈴木宏(入試広報室長)、森田智士(総務課長)、中嶋広隆(学生課長)、三尾敦(技術支援部技術長)、金井隆英(総務課課長補佐(総務担当))、伊藤奈津奈(総務課総務係長)

1. 開会 総務課長
2. 会長・副会長紹介 総務課長
3. 自己紹介(各参与・長野高専出席者)
4. 校長あいさつ

本参与会は本校の教育研究、学校運営全般に関わることについて、外部の有識者の意見を本校の改革・改善につなげていくことを目的としている。

今年度の参与会は本校で作成した自己点検・評価について意見をいただきたい。

今年度、このようなテーマを選んだ理由は、学校教育法で義務づけられている機関別認証評価において指摘があったためである。

自己点検・評価の内容は、「教育の質保証」「教育環境」「学生支援」「教育カリキュラム」「入試」「研究」「地域貢献」「学校運営」と非常に幅広い内容になっている。議論が絞りにくいところもあるが、評価項目、評価の結果も含めて、忌憚のない意見をいただきたい。

5. 配付資料確認

6. 議事

天野会長から、これまでの参与会と違い、外部評価について、各参与の方々から忌憚のない意見等を伺いたいとのあいさつがあった。

以下、参与会設置要項第7条第1項の規定により天野会長が議長となり、議事が進行された。

- (1) 自己点検・評価表の評価方法

古川副校長から、「資料No.2 自己点検・評価の方法」に基づき、自己点検・評価の方法について説明が行われた。

- (2) 自己点検・評価の説明

引き続き、配付資料に基づき、長野高専担当者から自己点検・評価の説明があった。その後、大項目毎に質疑応答が行われた。

大項目1：教育の内容質保証(発表者：総務主事)

古川副校長：ディスプレイの表示になりますけれども、大項目1番は教育の内部質保証ということで、番号1、番号2、それから次のスライドになります。番号3と分かれています。番号1は点検改善システムの整備・実施がされていて、結果が公表されているかという観点なんです。それが自己評価は5点になっております。それから、番号2、これは学校の構成員とか外部の方から意見を聞いて学校の改善に生かしているかという項目ですが、これは自己評価が3になります。それから次のスライドですが、番号3、3つのポリシーとなっています。これは入学者募集の方針、それからカリキュラムの方針、それから卒業認定の方針、方針とポリシーと書いてありますが、3つのポリシーが設定されていて、公表して見直しを行っているかということについては、これは自己評価5といたしております。この3つの中から、今日は、最初の番号1番のところ、点検改善システムについて中央のスクリーンで詳しく御説明させていた

できます。中央のスクリーンを御覧ください。番号の1番は自己点検・評価になりますが、点検改善システムがルール化されて整備されていて、定期的を実施していて、結果をちゃんと公表しているかという項目になりますが、これは自己評価5といたしておきまして、点検改善システムのこの6項を実施しております。下から御説明しますが、6番の学生への支援体制点検システムということで、これは授業アンケートですとか、満足度調査をして改善に生かしていて、そういったものを使いながら5番の授業改善システムということで、こちらのオレンジ色のところ、ここでPDCAサイクルを回して各教員が授業改善を行っています。そして、4番目のところ、これは各委員会の重点項目の点検システムということで、こちらの青いところになります。各委員会で年度計画とか目標を立てまして、それを実際の教育活動を行ってPDCAサイクルを回しているという点検システムになります。それから、2番、3番ですけれども、これは年度計画ですとか、3つの方針、これは先ほどの3ポリシーとっているものですが、これらを執行会議でプランニングをした上で、各委員会でそれを実施して、その結果を教育改善委員会に戻してチェックをして、また執行会議に戻すというPDCAサイクルで回しています。それから一番上、これは一番外枠の上位の点検システムになりますが、自己点検・評価項目による点検システムということで、これは本日実施しているものですが、執行会議でプランニングをしまして、それを学校全体で実行してみてもそれを自己評価した上で、参与会で外部評価をした上で、また学校へフィードバックいただいて、学校で執行会議でまたそれを学校の中へフィードバックしていく、こういったような点検システムをつくって実施しております。以上が大項目の1番になります。何か御質問がありましたらお願いいたします。

天野参与：ありませんでしょうか。

池田参与：定期的というのは、どのくらいの定期なんですか。これ、年度計画が参与会の場合は年に1回なのかなと。その他の定期的にというのは、どんな周期でおやりになられて、1年に1回だとPDCAは回せないのではないのでしょうか。

古川副校長：基本的に、5番と6番、ここは授業改善の部分ですので、これは年に2回ほど授業アンケートを行っております。それで回しています。それ以上のところ、4、3、2、1のところは、これは1年に1回になっております。

天野参与：よろしいですか。

池田参与：1年に1回だとPDPAになっちゃうんじゃないかな。だから、年度計画を立てて1年に1回見直して次の年度計画になっちゃうんですね。というふうで、CAは回らないんじゃないのでしょうかということです。

古川副校長：分かりました。途中で中間評価、いろいろなことを行ったほうがよろしいという意味合いですね。

池田参与：そのほうがいいんじゃないのでしょうか。

古川副校長：ありがとうございます。

平林参与：今のお話の延長ですけれども、これは階層がみんな違うものだから、最後のところのPDCAは多分1回でいいと思うんですけれども、参与会送りは1回しかないわけだから、でも、その下の階層は回数を増やさないと次に回らないと思います。

古川副校長：2番より下のところですね。

平林参与：それともう一点、前提ですけれども、十二分というのと十分によってどう違うんですか。5と4。

古川副校長：5と4の違いですね。

平林参与：十二分と十分と、それで実施しているが3ですよね。5の評価は十二分という位置づけなんですよ。

古川副校長：5はそうですね。十二分ですね。

平林参与：そこの意味合いを教えてください。十二分に実施している、十分に実施している、実施している、5、4、3と、これ、非常に曖昧な言い方なものですから、評価のしようがない。もっと定量的な評価が必要じゃないかなと思う。そこを御説明いただきたい。

古川副校長：分かりました。評価というのをどうやってつけるかというので議論がいろいろあって、なかなか難しかったんですけれども、十二分というのは一応、点検を実施しているかどうかという観点でつけました。きちんとこういうシステムが出来上がっていて、きちんと実施しているであれば、十二分ということで考えました。十分というのは、十分、十二分と同じなんですけれども、なかなか難しいところなんですけれども、また来年度、その辺よく検討していきたいと思います。

柳見沢参与：お願いします。この後、この質疑応答、意見交換というのを大項目ごとにこういう形でやっていくというようなことで進行されるんですか。

古川副校長：はい。そうです。大項目ごとに3分程度質問になります。

柳見沢参与：分かりました。全体を通して、評価3というのが8か所あるんですよ。ここの教育の内部質の保証が、アンケートが15%ですよ。このことが非常に気になるんですよ。今回の結果ですから、これをどうするかということになるかと思うんですが、15%というのはあまりにも回答率としては低過ぎて、評価の対象にならないんじゃないかとも思うんですが、こちら辺はどういう原因なり、考えられることがあるのか、現時点で教えてもらいたいですね。

古川副校長：番号の2番のところで、ここに回収率15%とあるんですが、これは実は卒業生、修了生に対して郵送で送って、それで回答をお願いしたものなんですが、そのため、郵送で送っているので回答率が低かったということになります。うちの在學生であれば、アンケートを取って何日までにし出してねということと言えるんですが、なかなか卒業生ですので、それができなくて15%という数字になっています。

柳見沢参与：失礼しました。これは学生の評価ということですか？教員ではないんですか。

古川副校長：教員ではないです。卒業生と修了生になっています。これ、今ここにあげてあるものですね。

柳見沢参与：そうすると、ここに示された自己評価・点検というのは学生の評価ということで判断してよろしいですか。

古川副校長：番号の2番ですよ。これは学生も含んでいます。学生と、それから卒業生とか、それから学校の外部の方、そういった意見を収集してということで、取りあえず今ここには卒業生と修了生しか書いていないんですけども、あと企業も書いておりますけれども、そのほか在校生に対しては満足度調査などしております。

柳見沢参与：分かりました。そうすると、点検項目の1と2、これも全て学生の評価ということなんでしょうか。要するに、自己評価しているのは、学生の評価に対して、今評価を求められているのか、それとも教員の方の評価で判断している資料なのか。先ほど外部評価ということもあったんですけども、誰を対象にして評価し、まとめてきたのかということが分からないものですから。

古川副校長：学校の運営、教育の運営の仕方に対する評価になりますので、こちらの表にまとめてある評価になりますね。

柳見沢参与：そうすると、その運営というものが、学生がそれを把握しながら評価するということが可能なのか。私は、これ、高専に勤務される方の、教員の質を見るための評価なんじゃないかと思ったんですよ。そうしないと、この内容から学生がこれを見て評価してくださいと出すのは、どういうアンケートを取られたか分からないんですが、そこが見えなかったものですか。

古川副校長：これは学校全体の運営で、教員の質もありますし、それから学校の施設ですとか学校の運営方針、運営の仕方とか、それから我々の授業の仕方とか、その辺の評価になります。

柳見沢参与：ですから、何か評価するときの、誰を対象に評価するかというと、それは項目をやりきちっとそれに対応するようなものを求めないと、なかなか学生と教員との立場で、同じアンケート基準、または評価基準で評価するというのは実情を見ることは難しいんじゃないかと思うんですけども。これ、高専機構からこういう形でやってくれという指示で出ている内容というか、形式なんですか。

古川副校長：そうです。最初の点検項目、高専機構から来ている、高専認証評価の点検の内容がありまして、それを基にしてつくられた点検項目になります。

柳見沢参与：それで、学生も同じものを評価しているとやってきているということなんですか。

古川副校長：ここには基本的に学生の評価はなくて、学生が学校でどんなふうに満足しているとか、学生が授業に対してどういうふうに思っているとかということ吸い上げて、我々がそれを授業の改善に生かしているかどうかという観点の評価です。

柳見沢参与：そうすると、学生にやった評価というのはまた別のものがあって、その回答率が15%だという判断ですか。

古川副校長：この15%は学生ではなく卒業生、修了生に対して、学校でやってきた教育、教わってきたことが社会で生かされているとか、社会に出て自分が高専を卒業してどんなふうに学校で学んだことが生かされているとか、そういったようなことを聞いたものになります。番号2番のここに書いてあるものは。

柳見沢参与：学生さんにどういう評価というか、どういうものを求めたかということが分からないので何とも言えないんですけども、いずれにしろ15%というのは低過ぎるなという感想を持ったものですから。ありがとうございました。

古川副校長：ありがとうございました。

天野参与：ありがとうございます。内部質保証は非常に文科省でも今求められているもので、一番は多分学生がDP・CP等に合うように、一定レベルが確保されているかどうかというところが多分内部質保証の一番大事なところで、そのためにいろいろな項目があるのかなと思っています。多分学びの履歴書みたいなものがあって、例えば、就職するときそれぞれの人それぞれを持って企業へ自分の学びはこうであったということを出せるというようなことを文科省で多分今出せという話になってきていて、私どものところも今それに対応しているんですが、なかなかこれが難しい問題ではあるかなと思います。この大項目1のところではよろしいでしょうか。項目が幾つかありますので、項目を進ませていただいて、また全体のところで議論をさせていただければと思います。それでは、次の項目をよろしいでしょうか。

大項目2：組織及び教員・教育支援者（発表者：教務主事）

濱口副校長：次の項目、大項目2につきまして、教務主事、濱口から御報告させていただきます。まず、小項目でいうと4から7までになります。こちらを説明させていただきます。まず、4ですが、教育活動を展開する上で必要な運営体制が適切に整備され、機能しているかという項目になります。こちらについては評価4ということで点検をさせていただいております。5番目の教員等の配置になります。準学士課程、専攻科課程において、一般及び専門の教員並びに教育支援者が適切に配置されているかということにつきましては評価4とさせていただきます。こちらは後ほど大きな画面で説明させていただきます。6番目、教員の評価についてです。教員の採用や承認に関する基準があり、適切な運用がされており、教員の教育・研究活動に対して定期的な評価が行われているかという項目になります。こちらについては自己評価を4とさせていただきます。7番目がFD活動、FD・SD活動が実施され、改善等に結びついているかということで、こちらにつきましては自己評価を3とさせていただきます。この3の理由としましては、支援等の具体的な評価手法、こちらが定まっていないという自己評価ということで、教育及びその支援等の具体的な評価手法について今後検討していくという改善点をまず挙げさせていただきます。では、5番に戻りまして、教員等の配置となります。大きな画面で、こちらには教員の配置ということで教職員数を挙げさせていただきます。こちらは準学士課程において、本科のほうですが、一般及び専門の教員を各科目担当者として配置、必要に応じて技術支援部より技術職員を配置しているということになります。技術支援部、一番下の合計の上にございますが、15名ということになっております。括弧内は女性数ということになっております。こちらも御覧いただければと思います。専攻科課程においては、生産環境システム専攻に機械工学、電気電子工学、土木工学を専門とする教員、電気情報システム専攻には電気電子工学を専門とする教員を配置しているという形になっております。こちらの自己評価については4ということで、今後も、令和4年度に学科再編を行っております。このカリキュラムに従い、学科再編による変更点を確認しながら今後も適切に配置していくという予定としております。大項目2の説明については以上となります。御質問等ありましたらよろしくお願いたします。

天野参与：いかがでしょうか。私から1点、この教員の組織というのは、あくまでもこの課程に張りついていて、専攻科というのはまた別というか兼任という形で考えたらよろしいでしょうか。

濱口副校長：そうですね。専攻科にも適切に兼任の形になります。

天野参与：分かりました。何か皆さんからございますでしょうか。もう一点、FDのところは3ということで、このFDが、私どものところもなかなか難しい問題だなと思っております。FDはもちろんいろいろなことをやっているんですけども、その効果をどうはかるかというのは非常に難しいところだなと私も思っております。そこら辺の評価手法というのは非常に効率的なものがあるかどうかというのは難しいけれども、何らかのものはしなければいけないというのも確かかなと私も思っておりますけれども、ぜひ御検討をよろしくお願いいたします。

濱口副校長：ありがとうございます。

天野参与：ほかはよろしいでしょうか。そうしましたら、また全体でありましたらお願いします。では、3番目の項目に移らせていただきます。

大項目3：学習環境及び学生支援（発表者：総務主事、教務主事、学生主事）

古川副校長：では、大項目3、学習環境及び学生支援ということで御説明いたしますが、この大項目3は番号がたくさんありまして、3名の担当者からそれぞれ分割させて御説明させていただきます。まず、私は番号8、9、10についてになります。番号8は、施設とか設備の整備・活用がきちんとした安全とか衛生管理の下行われているかどうかということで、これは自己評価4。それから、番号9、これは、ICT環境が適切な情報セキュリティ管理の下で整備されて活用されているかということで、これは自己評価4。番号10は、図書類の収集とか整備・活用、これ

がきちんとなされているかということで、自己評価4とさせていただきます。この中で番号9のICT環境とか情報セキュリティのところについて中央のスクリーンで説明させていただきます。まず、ICT環境について、学生に対する満足度のアンケート調査を令和3年度に行っております。その中の設問の2番に、本校のICT環境について満足していますかという設問がありまして、それに対する回答はこちらです。やや満足と満足、これを合計すると約80%の学生が回答しておりまして、ほぼ満足される環境になっているんだなと考えています。ただ、一方で、不満、やや不満を合計すると約20%になりますが、不満もないわけではないと。その設問の自由記述のところ挙げていただいたのがこれらなんですけど、ネットワーク環境の通信が不安定とか、それから、学校の無線LANにタブレット端末をつなぎたいとかいろいろな要望があります。それから、教室のプロジェクターが暗いとか、そういったものがありますが、ネットワーク環境に関しては、通信速度に関しては今年度夏に整備いたしました。それから、教室のプロジェクターについては、また予算がつき次第、順次明るいものに変えていっております。それから、セキュリティですけれども、パスワードポリシーの遵守とか多要素認証の実施とかウイルス対策ソフトなどを使ってセキュリティを強化しております。それから、ネットワーク接続は申請許可制、それからこういったセキュアが、これはIEEE802.1X認証というセキュアなネットワーク環境も使っております。それから、学校の集合してやるパソコンを整備して、絶えず新しいものに公費で更新していくというのはなかなか難しいところがありまして、令和3年度からBYODのPC、学生にノートパソコンを購入していただいて、その学生所有のPCで授業を受けていただくということを始めました。これによって費用負担がかかるんですけども、新しい情報環境を使いながら学生が授業を受けていくことができるようになってきています。以上で終わります。何か御質問ありましたらよろしくお願いたします。

天野参与：いかがでしょうか。

池田参与：学習に使うためのパソコンだとかそういうのを各個人が使えるんですけども、それは学ぶために使うのと、個人で使う場合がありますよね。個人で使うものもどの程度個人に守るのか。そこにあるデータというのはどなたかチェックして、好ましくない情報なんかがあったらまずいよ、というのも言うのかどうか。その辺に、学生が学ぶために使う、そうでない別な目的で使う、ここを皆さんはどういうふうに監視というのか見るのか、そこで何かが起きたらその情報ってどんな扱いをされるのか、その辺をお伺いしたい。

古川副校長：例えば、学生が自分のスマホでSNSを使っていたりとか、スマホでいろいろなウェブを見たり、いろいろなところに情報発信したいという部分の話になりますかね。

池田参与：例えば未成年の学生がお酒を飲んでいる写真が出たとしたらどうされますか？

古川副校長：その場合は、学校で把握した場合には、本人に事情聴取して、その内容によって学校の……。

池田参与：ですから、把握するには周期的に監視されるということですか。

古川副校長：監視はしていません。学校として……。

池田参与：しないと、何が入っていてもいいんですね。

古川副校長：よくはないんですが。

池田参与：とんでもないものが載っていても全然見ないわけだから、使うことができるわけですよね。

古川副校長：学校としてのウェブとかそこには一切学生は情報を載せられません。

池田参与：そういう記憶する部分がないんですか。例えば、学生が実験した実験データを入れておくところがありますよと。これを別の目的で使って、どなたも見られないとすると、不正アクセスからいくと、何に使われているか分からないですよ。大丈夫ですか。

古川副校長：学校としては、そういったものはウェブに置くようなことはしてなくて、基本的にグーグルドライブとか、マイクロソフトのワンドライブのようなものですが、それを学生が使っている形ですね。

池田参与：個人のメモリに勝手に入れなさいよという形になっているということですか。

古川副校長：そうです。

池田参与：分かりました。

天野参与：ほか、いかがでしょうか。情報セキュリティの問題は非常に大学も大きくて、個人管理の問題と公的なもの、しかも研究データとかいろいろな公的なものをどうやって保存していくかというのは、今大変な問題になっていまして。

池田参与：高いものは難しいですよ。

天野参与：そうですね。非常にこれは悩ましい問題だと思います。ほかはいかがでしょう。よろしいでしょうか。なければ次の項目に移らせていただきます。

濱口副校長：それでは、11から13番まで、大項目3、学習環境及び学生支援の部分の前半になりますが、再び教務主事、濱口から御説明させていただきます。11番につきましては、新入生、留学生、編入生に対して、履修や施設、設備等に関するガイダンスを実施しているかという点検項目となります。こちらにつきましては、それぞれ実施しているという自己評価4となっております。様々な変更点を含めて、適切にガイダンスの実施を継続していくということにしております。12番、後ほど説明させていただきますが、学生の自主的学習を進める上での相談・助言等を行う体制が整備され、機能しているかという項目になります。13番は、特別な支援が必要と考えられる学生への学習支援及び生活支援等が行われているかという点検項目となります。こちらにつきましては、入学前の調査、保健調査票による保護者からの申出等をはじめとして、それぞれ特別な支援の確認、必要な学生の確認を行って進めております。自己評価としては4とさせていただきます。今後も学生一人一人の状況に応じて支援を行っていくということで継続をしていきたいと考えております。それでは、12番に戻りまして、学習環境及び学習支援のところの学生の自主的学習を進める上での相談・助言等の体制になります。こちらにつきましては、準学士課程においては学級担任制により学生の相談、助言を行っています。学級担任制をしておりますが、非常に学生に近い立場ということで、学級担任業務ガイドというものをつくりまして、こちらを参考資料に学生に対して担任を中心に学年団というまとまりであったり、または学科単位の相談に対して教員の中での相談体制も進めていただきながら学生一人一人に対応しているということになります。また、メール目安箱等、学生の意見や苦情を受けるシステムというのが構築されていて、対応は遅延なく行われているということを確認しております。また、専攻科課程については、専攻長及び専攻科長が相談、助言を行っています。専攻長というのは準学士課程でいうと、学級担任に当たる専攻科の教員ということになります。今後も学級担任ガイドブックの確認、見直しを継続して進めて、学校としての体制、学生に周知する仕組みを今後も検討して進めていくということにしております。私からの説明は以上です。御質問等ありましたらお願いいたします。

天野参与：いかがでしょうか。お願いします。

小河原参与：今のメール目安箱とか学生の意見や苦情というのがあるんですけども、これは大体年に何件くらいあるんでしょうかというのと、それと、その下の13番の入学前に保健調査票による保護者から云々の入学時の支援可能な体制を整えているということがあるんですが、これも全体の今の学生の中で何人でも何%いいんですけども、どのくらいおられるんでしょう。

濱口副校長：まず、後半の部分の御質問についてですけども、入学前に保健調査票によって、例えば、入学式の前に相談を希望するとか、入学式の日には保護者の方が見えたときに保健室で相談を希望するとか、そういうところ、まず、保健調査票を入学書類と共に郵送していただくんですけども、そこに記述があったときに学校から電話で連絡を入れまして、そういうことを必要でしょうかというような話をしたりしております。毎年10件程度ぐらいだと把握をしております。後半についてはそのような形になります。また、メール目安箱の件数についてですけども、21年度、昨年度は21件、今年度については14件ということで対応をしているというところになります。

小河原参与：ありがとうございます。

天野参与：ほかはいかがですか。

渡辺参与：伺いたいんですが、コロナ禍でやっとな経済が上向き始めたんですが、学生の相談の件数というのはどんな推移で来ているんですかね。

濱口副校長：それにつきましては学生相談室長からお願いします。

板屋学生相談室長：学生相談室長の板屋と申します。よろしく申し上げます。まずは、本年度の学生相談室の件数が、学生及び保護者からの相談を全部含めまして、これは先週末までで310件です。そのうち学生の相談が230件です。昨年度は大体200弱、その前の年がコロナで学校が途中でオンライン授業とかがありました件でかなり少ない年もあったんですけども、大体200を超えております。学生自身の相談が200を超えております。以上です。

渡辺参与：あわせて伺いたいんですが、この大項目3のその2にあるいじめの関係とか、こういう類いの相談が多いんですか。

板屋学生相談室長：いじめに関しては、もしあった場合にはいじめ対策委員会がありまして、そこで話し合うこととなりますが、いじめに関しても、いじめアンケートは大体、嫌な思いをしたかどうかという確認は年4回やっております、実際いじめアンケートは詳しくは前期後期1回ずつやっております、今年度は多少未然防止というところでいじめに発展する前に対処していて、実際にいじめが起こったというのは今年度は実はそれで議論したことはありません。昨年度は1件ありました。

渡辺参与：ありがとうございます。こういうことで相談が多いという傾向みたいなものというのはいかがでしょうか。

板屋学生相談室長：相談内容ですけれども、勉学不振とか、あとはメンタルの、いろいろメンタルが落ちるといいますが、あとは家族との関係ですか、そういうところが主な相談内容となっております。

渡辺参与：ありがとうございます。

天野参与：よろしいでしょうか。まだ項目がたくさん残っているので、次に進ませていただきたいと思っております。

濱口副校長：ありがとうございました。

児玉副校長：よろしくお願いたします。学生主事の児玉といいます。本校には学生支援委員会という組織がございまして、次に挙げます4本柱をメインとして業務を遂行しております。1つ目が、就職や進学に対する進路指導、それから問題行動などに対する生活指導が2つ目、3つ目は奨学金ですとか授業料免除などの学生生活の支援、4つ目として学生会活動とか文化祭ですとか、あるいは課外活動などの支援を行っております。こちら、今メインでお示ししていますスライド、同じものを手元にも資料があると思われませんが、本日はその中で特に4つ目に挙げました課外活動支援について報告させていただきます。テーマは課外活動に対する支援が適切に機能しているかと書かせていただきました。まず、根拠資料に今までも出てきていますが、マニュアルですとかガイドラインですとか、たくさん登場してきますので、長野高専の教員は教科書がないと動けないのかと感じられる向きもあるかもしれません。電気科ですとかあるいは機械科、特に専門学科の先生方は大学の博士課程を出て研究機関に勤めた後に本校に着任されたり、企業に複数年お勤めになってから本校に来られたりする方もいらっしゃいますので、冒頭で申し上げた学生支援委員会、私どもが担当しております業務に関しては、経験が不足する場合もございまして、支援が不十分で学生の不利益とならないようマニュアルですとかガイドラインなどを作成して業務を進めております。スライドを見ていただいて、左側、支援体制の3項目に書いてございます令和4年の3月に長野市の北部地域で活動を展開されております3つの総合型スポーツクラブ、北部スポーツクラブ連合と包括連携協定を結ぶことができました。スポーツクラブの会員に長野高専の体育施設が空いている時間帯にその場所をお使いいただいたり、逆に長野高専の課外活動をスポーツクラブのスタッフに指導いただいたり、ウィン・ウィンの関係が構築できればと考えております。また、卒業生中心に外部指導者として登録いただきまして、技術指導などサポートをしていただいております。令和4年度に関しては17の団体や24人の外部指導者から支援や指導をいただきました。続いて、スライドの右側ですが、御覧ください。中学の部活動が令和5年度から3年間で地域に移行されるというニュースをお聞きになられていると思います。高専の課外活動に関しても例外ではございまして、支援の質が低下しないようにしつつ、業務負担の軽減を模索しております。令和2年の秋から課外活動指導員と呼んでおりますが、非常勤職員を2名雇用しまして、土日など休日の課外活動に関してはその団体の顧問が登校し、見守り等の指導を行わなくても大会やコンテストに向けた活動を行えるようにしました。さらに、令和4年の春からは、ちょうど1年たとうとしておりますが、平日の放課後、17時以降の勤務時間外に関しても、課外活動指導員が緊急時対応を行えるよう指導員の数を増員して対応しております。また、団体の名前は一覧表に書かれているが、実際の活動が充実していない団体、いわゆる幽霊部員と申しましょうか、幽霊団体に関しては整理を行えるようにスライドに書いてございますが、団体活動の継続に関する許可基準を定めまして、年度末に審査を行い、評価の低い団体に関しては解散ですとか降格などの指導が行われるようにいたしました。団体の数の最近の増減に関してはスライドに書かれたとおりでございます。以上で説明を終わります。

天野参与：御質問、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。それでは、まだありますので、次の項目に移らせていただきます。

大項目4：準学士課程の教育課程・教育方法・学習成果（教務主事）

濱口副校長：それでは、再び、三度ですが、濱口から説明をさせていただきます。大きなA3の資料7ページ分の4ページということになりますが、こちら全て18から27の中から主には19と20について説明をさせていただきます。18につきまして、点検項目はカリキュラムポリシーに基づき、教育課程が体系的に編成されているかということで、自己評価は4、学科再編のカリキュラムについて、さらに整理を進めていくということにしております。飛ばしまして、21番のカリキュラムポリシーに沿って適切なシラバスが作成され、活用されているかということで、授業の最初に説明を含めまして、カリキュラムポリシーに沿って到達目標を記したシラバスを策

定して活用しているということですが、再編によって少しウェブシラバスの十分な対応等の部分で点検、整理していかないといけないところが残っているというところで自己評価を3とさせていただいております。成績評価、進級及び卒業判定についてですが、番号22、成績評価、単位認定、卒業認定の基準等が学生等に周知されているかというところで、自己評価は4ということで、こちらは必要に応じて改善を進めていくということで確認をするということにしております。23番、成績評価は適切に行われているかということで、こちら点検どおり、自己評価のとおり、4ということで、点検がより効果的に運用できる体制を検討するとしております。24番、進級判定、卒業認定が適切に行われているかということで、学年末、成績判定会議を開催しまして、資料を作成し、教員会議において確認をしているということで、自己評価を5としております。25番、学習教育の成果ということで、ディプロマポリシーに沿った学習教育の成果が認められるかということで、こちらにつきましては自己評価を4としております。必要に応じた改善を進めることとしています。26番、卒業時の学生及び卒業生、進路先関係者からの意見聴取で、ディプロマポリシーに沿った学習、教育の成果が認められるかということで、自己評価を3としております。こちら、先ほどもお話にございました回答率の改善に向けて、また新設した教学IR室を中心にさらに体制を整えて整備していくということにしております。自己評価は3としております。27は、卒業後の進路状況から判断して学習教育の成果が認められるかということで、進路先等を確認しつつ、自己評価を4とさせていただいております。大きな画面の方ですが、上に戻りまして、19番と20番になります。19番、左側が教育課程には学生の多様なニーズ、学術の発展動向、社会からの要請に対応した科目、創造力・実践力を育む科目、異文化や地域の文化を理解する科目などが配置されているかということで、こちらは自己評価4とさせていただいております。現状、実践的な問題解決型学習、アクティブラーニング、実験実習、卒業研究などにより、課題の発見能力、解決能力及び論理的に表現する能力を育成する授業科目を編成しております。今後、学科再編によって、左側の図にありますが、こちら学科再編の図になります。工学科は1学科となりまして、今後はエンジニアリングデザインという項目のところで、2年生あるいは4年生で、クラス、分野を超えた形の授業というものを設計して進めていくということにしております。こちらは新しい形の、これまでにない学科再編後の科目ということで、計画をして進めるということにしております。また、下の方では、今日、注目されている分野でありますデータサイエンス、あるいはリベラルアーツ教育にも力を入れていくということで、進めるということになっております。今年度1年生、学年末を初めて迎えているということになります。また来年度の1年生、また2年生に進む、工学科の新しい2年生に対しましてもしっかりと教育活動、新しい形の活動をしていくということになります。右側、番号20になります。教育内容に応じた適切な学習指導、途中指導上の工夫がなされているかということで、自己評価を4とさせていただいております。主体的な学習活動に向けた教材の利用や新たなオンライン教材の活用、遠隔授業でも利用できるカメラやPCの設置など様々な工夫を行っているということの現状になっております。少し写真を載せさせていただいておりますが、コロナ禍で新しい教育の手法というものがどの大学や高専でも、また中学校や小学校でも扱われております。こちら、我々も教員としてのいろいろな技を身につけたという部分もあります。これらを例えば家庭学習に利用したり、新しい説明の方法としたいということで、今後も取り入れて進めていくということになるかと思っております。こちらは根拠資料にも挙げさせていただいているんですけども、授業公開のときに教員相互で参加をしているところの教員のコメントの中に実は出たりしているんですけども、こういうところが参考になった、新しい先生方、それぞれが工夫される技というものを教員相互に参加して自分のところでも取り入れるとかというようなことも行っているということになります。私からの説明は以上になります。御質問等よろしく申し上げます。

天野参与：御質問等ありましたらお願いします。私から、ここは多分すごく項目が多くて、学びの質保証のところとかなりかぶるところが多いなと思うんですけども、これはこのままの項目でいいんですかね。もう少し整理ができないのかなというような気はしたので、というところで、自主的なものとならなければいけないんですけども、それともう一点、ディプロマポリシーで質保証というところの中でそれを確保するためのカリキュラムのポリシーとか授業へのひもづけというのが多分これから求められるのかなと思って我々もやっていますけれども、そこら辺は、今、作業はされていますか？

濱口副校長：これまでもディプロマポリシー、今、3ポリシーをしっかりと整理ということで注目されている前の段階から学習面に対する学習教育目標ということで、目標を設置しまして、それと各科目がひもづいているというような状態になっております。これがディプロマポリシーの中の例えば専門科目であったり一般科目であったりというところの理解というものがディプロマポリシーの中に入っているというような形、各科目との対応ができているという形になっています。

天野参与：分かりました。

平林参与：実は23番と24番について確認したいんですが、成績評価が適切に行われているかが評価4で、その評価を基に進級判定等をするわけですよね。これは5なんですよね。というか、これが分かること自体がよく分からないんですね。これは矛盾があると思うんですが、いわゆる成績評価はちゃんと行われていなければ進級判断はできないんじゃないかなど。だから、この項目を分けた意味を、4と5にした、さっき言われたみたいに評価が曖昧過ぎるものだから分からないんですけれども、成績評価をちゃんとしないと進級判定並びに卒業認定が適切に行われているかというところは共通じゃないんですかねと思います。

濱口副校長：ありがとうございます。先ほどの項目の整理というところも関係してくると思います。成績評価が適切に行われているかということで、まず、科目の成績評価についてはシラバスどおりということで、科目担当者による学生の成績の評価ということになります。こちらが正しく行われていることを成績評価履歴、あるいはその根拠となる資料を確認しながらそれを行っているということになります。項目としては、作業としては、そういう形になります。進級判定、卒業認定というところにつきましては、学校全体ということで、判定資料を見て、それを教員会議、成績判定会議、卒業認定会議において認定しているということになります。先ほどの自己評価の上が4で下が5というのは確かに違和感ということもあるかもしれないので、ここは項目の整備というところと併せて観点のところも整理していかないといけないと思いますので、こちらについては再度確認をさせていただきたいと思います。

池田参与：1年次から2年次に行くときに、専攻の選択というのはそれぞれが勝手にできるんですよね。アンバランスが起きちゃうとどうするんだろうなという。

濱口副校長：新しい1年生が12月に希望を取って、そこから調整を行いまして、およそ順番にいくと、情報エレクトロニクス系が2クラス、80人程度、機械ロボティクス系が80人程度、都市デザイン系が40人程度ということで、まず、1年生に周知しまして、希望調査を行うということになります。今回、それ以前に2回予備調査のような形で、年度途中でやっておりまして、最終的に4名の学生に対して第2希望に移動してもらうというような調整となりました。そこにつきましては、担任との面談という形で、機械的な形ではなく、進めたという形になります。

池田参与：辞めちゃう可能性もあるけれども、それはそれでしょうがないねと。

濱口副校長：そうならないように話をさせていただきながら進めていただいて。

池田参与：せっかく高専に入って、こういうところへ行きたいんだと言って入ったんだけど、あとは説得されて残りますか、自分の意思を通しますかという判断を二、三回やりますよと。要するに、入学するときに選んでくるんじゃなくて、2年になるときに選ぶんですよねとおっしゃっているんですよね。

濱口副校長：そうですね。入学の段階でもう既に決めていたという学生も当然いたり、入学のときとは変わってこちらを希望するという学生も結構多い数ありました。入学時には決まっていなかったという学生もいました。いろいろな学生がいて、実際に1年生に入って、それぞれの分野の内容をしっかりと理解した上で変わった、あるいは変わらなかった、それぞれ一定数いて、中学校の段階で選ぶというのは難しいということはあると思います。実際に話を聞いてみると、こっちの分野だということに変わった学生がおりましたので、選択としては、行けなかった子がいるのは我々も残念な部分はあるんですけれども、選択するという部分についてはこれまでよりは情報としては与えられたかなと思っております。

天野参与：よろしいでしょうか。まだまだ項目が残っておりますので、先に進ませていただきたいと思います。それでは、次の項目をお願いします。

大項目5：専攻科課程の教育課程・教育方法・学習成果（専攻科長）

渡辺副校長：よろしく申し上げます。専攻科長をしております渡辺といいます。A3の大きい自己点検・評価の項目の5ページ目のところの資料が専攻科に関連するものになっていまして、項目が28番から37番という項目になっています。それぞれの点検項目、28から37については、先ほど濱口から説明させていただきました準学士課程と同様の項目になっています。本科の場合には卒業という項目を使っていますが、専攻科の場合にはと修了という項目になっております。もしかすると御存じない方もいらっしゃるかもしれませんが、御説明させていただきますと、専攻科は本科5年間の課程を修了した後に2年制の教育課程になります。その2年、ちょうど大学の3年生と4年生の課程が本科の5年の上についておりまして、2年間修了しますと、大学改革支援・学位授与機構から学位が授与される、または、もう一つ、本校は豊橋技術科学大学との連携教育プログラムというのを実施しております。そちらのところとちょうどダブルディグリーといっているのかどうかあれですけれども、ちょうど本校の専攻科と豊橋技術科学大学に同時に入

学いたしまして、同時に入学した学生は豊橋技術科学大学から学士、いわゆる大卒の資格をもらうというような制度になっております。各それぞれ、ちょうど28番、29番が教育課程の編成につきましては、2つとも自己評価4で評価させていただきました。続きまして、30番、31番のところの授業形態、学習指導法につきましても、ともに4で評価させていただいております。続きまして、32番、33番、34番の成績評価、修了判定につきましては、最終的な34番の修了判定については5で評価させていただきました。あとの項目については4で評価させていただきました。特に成績評価の点検というのは、各教員が成績をつけたものをエビデンスという形で提出いたしまして、それを教育改善委員がちゃんとシラバスどおりに評価されているかというのを、ある意味目視的にチェックしていますので、もう少し効率的に検討できるような体制ができないかなというところはあります。最後の項目が35から37番の学習教育の効果につきましても、全て4と呼んで評価させていただきました。今回中心で説明させていただきますのは、37番の学習教育の効果について御説明させていただきます。この表につきましては、過去5年間の専攻科の学位取得状況と進路決定状況になります。平成29年度から昨年度令和3年度までのものになっています。専攻科の1学年の定員が20名になっております。大体学位授与機構から130%以内にしなさいという指導をいただきながら、今27名と、昨年度は27名でした。昨年度からちょうど連携教育プログラムの学生が2名在籍していましたので、27名中25名は大学改革支援・学位授与機構で学士を取得しました。また、2名につきましては豊橋技術科学大学から学士を取得したという形になります。進路状況につきましては、専攻科の特殊なところもあって、就職が大体8割で進学が2割というような状況になっています。昨年度については進路決定率100%という形になっています。そのほかにも、進路決定率は100%と、修了者については100%になっているところなんですけれども、年によって休学とかそういうのが出てきまして、学位取得率が100%になっていないというような年度が出ております。以上です。

天野参与：何か御質問ございますか。特にここはよろしいでしょうか。それでは、次に進ませていただきます。

大項目6：アドミッションポリシーに沿った学生の受け入れ（入試広報室長）

鈴木入試広報室長：アドミッションポリシー、いわゆる受入れ方針に基づいた学生の受入れについて、本科と専攻科について説明させていただきます。入試広報室長の鈴木です。よろしくお願いいたします。専攻科のほう、ここはアドミッションポリシーにのっとったということで、専攻科と本科は同じ項目で評価しております。まず、41番が適切な選抜方法、42番が入学選抜の改善、43番が受験者数増加対策というような形になっております。おのおの評価が4、3、3という形になっています。適切に選抜が行われていますが、42番、改善法が具体的な例がないということと、あと、43番は先ほどの話で130%を超えているということになります。これは専攻科です。本科のほう、2枚戻っていただいて、こっちも適切な選抜方法ということでやっていますが、選抜をしているんですが、改善する余地があるということで3にしております。39番は入学者選抜の方法、ここは先ほどの話にありました教学IR室の新設につきまして、これまでの検証を進めていっているところですので、評価を3にしております。次、40番について詳しく説明したいと思います。40番におきましては、受験者数の増加対策ということで、そちらの大きな画面に示してありますように、本校主催のイベントとして3つ実施しております。1日体験入学として、中学生の3年生を本校に呼びまして、新学科の体験ですとか学校説明会を423名に行いました。その2つ下、秋の説明会というのも行いまして、これも学校説明と授業見学及び施設見学を90名の生徒さんに行っております。真ん中のところのオンライン進学説明会は、これは中学校の先生に対してオンラインで説明会を実施しました。84人の先生に参加しております。下のほうは中学校からの依頼でのもので、まず、直接中学校から本校に依頼がありまして、本校の先生が中学校に直接訪問して中学3年生に対して説明を行うというのが3校ありまして、人数が多くて445名です。あと、個人とかからの申込みがあって学校を見学するというのが7件、あと先輩の話を聞くとかというので本校の学生が中学校に行って、中学3年生を対象にお話をするというのが7件ありました。このような形で行っております。先ほどの説明会の話はウェブで公開しておりまして、そこから見ることもできますし、あとサイエンスツアーという形で出前授業という形で申し込んで高専を多くの小中学生に知ってもらうという機会をつくっております。しかし、受験者数の対策に対してはまだまだ改善する余地がありまして、今年度新しく入試広報室を立ち上げました。入試広報室で新たな手法を始めているところですが、なかなか倍率が上がらないのは事実ですので、もうちょっと中学生に来ていただければと思いますし、あと女子学生の増加も今考えているところです。以上です。

天野参与：何か御質問ございますでしょうか。

丸山参与：長野市です。お疲れさまでございます。いろいろと体験入学ですとか出前授業、公開講座ですとかいろいろやっていただいて本当にありがとうございます。我々も今、義務教育の中で、基本的にはもうちょっと理工系へ進む学生といいますか、生徒を増やしたいと。要するに、理科とか科学とかITとか、そういったものに興味を持たせるようなことをやろうということで、R5年からスーパーサイエンスプログラムみたいな形でやろうとしておりますので、また御協力いろいろとお願ひしたいと思うんですけども、特に今、鈴木先生からそんなに、これだけやられても受験者数が伸び悩んでいる、あるいは女子が少ないということなんですけれども、具体的に数字的にどのぐらいなんですかね。

鈴木入試広報室長：女子学生は、ここ5年間で大体38から42人くらいとか、20%ですね。ずっと横ばいになっております。工学科が1学科になって少し増えるかなと思ったけれども、今年の1年生は38人という、例年どおりということになっています。

丸山参与：分かりました。今も申し上げたとおり、これから初等・中等教育においても理科好きをもっと増やして、特に女子なんですけれども、優秀な子は本当にたくさんいます。ただ、国もそう言っていますけれども、もう少し女性の活躍できる、理系へ進む子をぜひとも増やしていきたいと思っていますので、またいろいろと御協力のほどよろしくお願ひしたいと思います。

鈴木入試広報室長：こちらもよろしくお願ひいたします。

天野参与：ほかはいかがですか。

倉島参与：要望というか、県なんですけれども、他高専の取組としまして、同窓生、卒業生に対してホームカミングデーだったかな、40歳前後、要はお子さんがちょうど中学卒業前後の卒業生に対しまして、学校から案内を出して、学校のまた説明とかそういう活動をされている高専があります。そんなことも検討していただいて、また、入学者数の増加に活用していただければと思いますので、新たな手法ということの中でひとつ御検討いただきたいと思います。

鈴木入試広報室長：ありがとうございます。ぜひ参考にしたいと思います。

天野参与：もう一方、お願ひします。

柳見沢参与：お願ひします。先ほど部活動の支援のところに関わらせてもらっているスポコミなんですけれども、週1回ぐらいは今高専へ来て、活動の場を提供いただいてやっているんですけども、高専の魅力ってすごくあるように感じているんです。生徒の質が非常に高い。これはすごい魅力になると思うんです。だから、何かもう少し発信の仕方をする、高専の魅力が伝わりながら子供たちが集まってくるという状況はきっとあるんだろうと思うんですが、そんな中で、38番のところで、選抜実施の子供の気持ちと何か一致しないで入学しちゃっているところの改善の余地があると評価されて3なんですけれども、これは具体的にどんなようなことでこういうことを感じられているのか、ここら辺をもう少し教えてもらいたいのが一つ。それから、先ほど入試広報室というのはここで言っているIR室という、IRというのがよく分からないんですが、そのことなのかなと思ったんですが、2点を教えていただきたいんですが、お願ひします。

鈴木入試広報室長：アドミッションポリシーというのは科学、数学、理科、英語がよくできる人と、あとは科学に関心を持っている人ということで選抜しているんですけども、必ずそれら全てがついて入学選抜に関わっているかというのは、まだ疑問するところがあります。改善するところがあります。特に学力選抜は単純に成績だけというか、ペーパー試験だけで取っています。推薦の場合は面接とかがあるんですけども、そんなようなところでもうちょっと適切な評価ができるかなということで今考えているところです。そういうことを考えるに当たって追跡調査、入ってきた学生がどのような形で本校の教育を受けているかということで、そういうことを分析する部屋が教学IR室です。分析室みたいなところですね。そういうところで分析をして検証を進めていきながら入試改革とか入学者の人数をたくさんになるようなことを考えているところです。

柳見沢参与：ありがとうございました。

天野参与：よろしいでしょうか。それでは、次の項目、よろしくお願ひします。

大項目7：研究活動の状況（研究主事）

小野副校長：それでは、大項目7番、研究活動の状況ということで私から説明させていただきます。まず、番号の44番ですけども、研究体制と支援体制ということで、特別経費、配分経費等を使いまして研究活動を活性化していただくというような活動をしたり、科学研究費の補助金の申請書の提出、こういうのをやっております。あと、リサーチャーのニューズレターを活用しまして、地域との連携、共同研究の推進ということをやっております。45番と46番、自己評価が3ですが、表のほうは4になっております。4に訂正させていただきたいと思います。研究活動の成果としては、こういうことをやりましたよと、皆さんも一緒に活動しませんかということでシーズ集を発行して、共同研究等に使うような、あるいは地域への我々の研究活動の展開、

こういうことを取り組んでおります。また、研究業績、これはもうどこでもそうなんですけれども、集約しまして、どんな教員がどういう活動しているのか、これを把握しながらより改善していくような取組を進めてございます。46番、研究活動の改善なんですけれども、実は従前、研究支援委員会という形で、研究倫理とか特許とか研究活動の活性化ということを含めてやっておりましたが、本年、研究推進委員会と研究倫理委員会というものに分離しまして、研究活動の推進を担当する部分と、見た目が違う研究倫理に関してはもうちょっと違う組織でやりましょうということで体制を整備させていただきました。大きいスクリーンのほうですけれども、研究活動の状況ということで、これは令和3年度、こちらは令和4年度の12月の時点ですけれども、共同研究、受託研究、受託事業補助金等でどのぐらい外部資金を取ってきているか、どのぐらいの件数の活動をしているかということでございます。前年度と比べまして、ほぼ同等ということで4をつけさせていただいたんですけれども、本来でしたらこれをもっと伸ばすような我々も努力していかなくちゃいけないところであると考えております。あと、科学研究費補助金ですけれども、これも前年度とほぼ同等の件数、あるいは金額となっております。科研の申請書の添削事業で、何名か新たに科研採択になっている場合もございます。こういう事業を今後とも継続して続けて取り組んでいくという考えでおります。私からは以上です。

天野参与：いかがでしょうか。

池田参与：研究活動をやっていく中で、長野高専だから長野県にあるわけですがけれども、長野県の産業だとか、これからの要するに、将来を考えて、こういうところを長野高専の強みとしていこうじゃないかというような研究の方向づけというんですか、ビジョンみたいなのがあったら聞かせていただきたいんですが。

小野副校長：非常に難しい御質問なんですけれども、今、実際長野県の企業と共同研究の件数が恐らく今ここの共同研究30件の中の10件、12、3件だったと思うんですけれども、正確な数字を私は把握していませんでした。こういうものをもっと県内の企業と深めていければなというつながりを、大きなことから始めずに、小さなことからもうつながりをつくりながらうまく進めていきたいと考えております。大きなビジョンとしては、長野高専、これだけ地域とつながっておりますので、そこのところのパイプをうまく生かしながら取り組んでいく体制をこれから考えていきたい、取り組んでいきたいと考えています。

池田参与：そういう方向ですと、今からの延長線上でしかなかなか見えないと思うんですけれども、たまたまちょうどコロナかなんかがあって、これから地球環境も含めて変わらなくちゃいけないんだよね。変わる方向に対して長野高専はこういう技術でリーダーシップを取っていきたいから、産学連携をやるうじゃないかみたいな方向づけをぜひ出していただきたいと思っているんです。お願いします。

小野副校長：ありがとうございます。

天野参与：よろしいでしょうか。そうしましたら、次の項目に進ませていただきます。

大項目8：地域貢献活動等の状況（総務主事）

古川副校長：では、私から大項目の8番、地域貢献活動について御説明いたします。では、A3の資料の7ページを御覧ください。7ページ目の上のほう、8番になりますけれども、小項目の3つに分かれています。まず、1つ目が地域貢献活動の計画ということで、地域貢献活動が適切に定められて、計画的に実施されているか、これについては、定められていて計画的にやっておりますので、自己評価を5としました。それから、次の項目、地域貢献活動の成果ということで、目的に沿った成果が得られているかというところで、これは自己評価を4にしております。それから、次の49番、地域貢献活動の改善というところで、これについてはアンケートでは改善しているので4と評価させていただきました。では、これについて中央スライドで説明させていただきます。まず、地域貢献活動の目的は、蓄積してきた技術開発と研究、こういった成果を地域に還元して、地域の発展に資すること。それから、2番として産業界とか地域公共団体、コミュニティー、ほかの教育機関と連携して社会活動に貢献するということが目的で定められていて、そして、本校では、出前授業とかオンライン工学講座とか産業フェアに出るとか、それから社会人向けのリカレント教育とか、これを年度当初に計画して実施しております。令和3年度には出前授業を21件実施しています。それから、令和2年度は8件でした。ここはちょうどコロナ禍の中でやっています、令和2年度は8件と少なめだったんですが、令和3年度は21件になって増えてきています。それから、オンラインの公開講座は1件、令和3年度に実施しています。それから、産業フェア、これは令和3年度は1件でした。これは長野でしかなかったのが1件だったんですが、今年、令和4年度は長野と佐久と上田と諏訪で産業フェアが開催されましたので、そちらに出て4件やっております。それから、最後のリカレント教育講座、これはテクノセンタ

一で企画、担当者を設けて44講座、これを実施しています。そして、これらの地域貢献活動は、アンケートを取りまして、そのアンケートで改善に生かしているというようなことをしております。以上になります。御質問ありましたらお願いいたします。

天野参与：いかがでしょうか。大変よく頑張っているんじゃないかと思います。取りあえず、次に進ませていただきます。

大項目9：財務及び管理運営と情報公開（事務部長）

亀井副校長：事務部長の亀井でございます。大項目9について御説明をさせていただきます。時間の関係もでございますので、簡単に御説明させていただければと思います。まず、財務関係の50番から52番でございますが、財務関係のところでございますと、まず、適切な収支に係る計画が策定され、関係者に明示されているかということにつきましては、予算配分方針等で適切な収支に係る計画を策定しまして、学内に明示しておるところでございます。適切に予算が配分され、その執行状況の確認が行われているかにつきましては、当初予算配分というものがございまして、コロナ禍で、簡単に申し上げますと、例えば、年度当初、こういった今の御時世でございますので、新型コロナウイルス感染症等の拡大により、今年度の実施がまだ年度当初では不透明なものであったり、まだ予算配分の段階で学内コンセンサスが取れていないもの等につきましては、一旦校長裁量経費に配分をしまして、内容を精査した後、あとは実施が確定した後、校長裁量経費から適宜追加配分という形で行わせていただいております。あと、年度当初に機構本部から配分があるものと年度途中で機構から配分があるものがございまして、年度途中で配分されているものにつきましては、適宜また必要なプログラムに対しまして配分を行っておるところでございます。適切に予算が執行され、その結果が公表されているかにつきましては、法令上、公表が義務づけられている書類等々につきましては、その結果を公表しておるところでございます。こちらが今大項目9のところでは財務関係ということで、これは学校要覧に出させていただいているものでございますが、令和3年度の収入と決算額でございます。こうやって見ていただくと、トータルとして、収入の部が9億5,307万3,000円、支出の部が9億5,004万4,000円ということで、収入額と支出額の差につきましては、寄附金等の外部資金の受入額であったり、翌年度に繰り越す事業もあつたりしますので、そういったところで差が出ておることになります。見ていただきますと、収入の部としまして、運営費交付金であったり、授業料というので、大体これで3割強の部分で、あと入学検定料、雑収入ということが大体それで5割まではいきませんが、あとはここを見ていただきますと、横にもありますけれども、施設整備費がほぼほぼ5割に近い形、それは支出の部でも当然同じように、それは使途が限定されておりますので、施設整備費として配分されたものについては施設整備費として執行しておるところでございます。今年度は、今、建物の改修を行っておりまして、また来年度以降もこういった形で施設整備は使途が限定した形で使わせていただきたいと思っております。続きまして、管理運営の部分でございます。53番、各種委員会、事務組織が適切に役割を分担し、効果的に活動しているかということにつきましては、内部組織規則や各種委員会の規則というものをそのおの制定してございまして、その中で各種委員会であったり、事務組織がそれぞれのミッションを担っておりますので、適切に役割を分担し、効果的に活動しておるところでございます。54番でございます。情報セキュリティーを含む危機管理等の安全管理体制が整備されているかということにつきましては、情報セキュリティーを含むということになっているんですが、長野高専の場合ですと、リスク管理室というのを設けておりまして、今回のコロナ禍でのいろいろな対応、県や市の医療情勢が刻々と変わる中で、そういったところで学校の運営というのをどうするかということリスク管理室で審議、決定をしておる次第でございます。あとサイバーセキュリティーの各種規則というのが、これは一律全国の高専で制定を求められているものでございますので、そちらに沿った形で規則を制定しております。それ以外の危機管理ということになりますと、防災管理マニュアル等々を整備しております。55番でございます。管理運営に関わる職員の資質向上を図るための取組が組織的に行われているかということにつきましては、管理運営に係る資質の向上を図るために、長野高専が自ら研修を実施するというのはなかなか規模的に難しいものでございますので、例えば機構本部が実施するような研修等への参加を積極的に行っておるところでございます。外部資金を積極的に受け入れる取組を行っているか、これは先ほどの研究主事から44番のところでは科研費と、あと企業からの外部資金のお話をさせていただいたところでございますが、そういった場合ですと、外部資金公募の周知や科研費の申請支援ということで、いかに外部からの研究費を獲得できるかということで、添削支援等を実施しておるところでございます。ここには、あと、記載が漏れておりますが、外部資金ということでありましたら、長野高専の教育研究地域貢献活動への支援とか、学生の就学のための支援、あと国際交流の推進のため

の支援ということも目的としまして、長野高専基金というものを設けております。長野高専基金の場合ですと、学生支援事業全般にわたる支援であったり、就学支援事業、これは奨学金や留学支援といった形で基金に一般の方、卒業生の方、また企業の方から御寄附をいただいて、有効的に活用しておるところでございます。57番でございます。外部の教育資源を積極的に活用しているかということでございますが、これは実務訓練というものを通しまして、夏季休業期間中に様々な企業・機関において実務訓練を実施しておるところでございます。これは準学士課程、いわゆる本科での4年制と、専攻科については学外実習で、企業等で540時間の実習を行ったところでございます。あと、演習の中で企業等に勤務する方による講演を実施しておるところでございます。一番最後でございますが、58番、情報公開の部分でございます。情報公開、教育条項について、学校教育施行規則の事項を含むものでございますが、公表されているかという自己点検項目につきましては、今お示ししたとおり、ホームページの教育情報のところで公開をしておるところでございます。こちらにつきましても、最新の情報に更新して継続して公表をしたいと思っております。自己評価につきましては、そういったことで、私が今御説明したところに関しましては全て4ということで自己評価をさせていただきました。説明は以上です。

天野参与：いかがでしょうか。私、1点だけお伺いしたいんですけども、今年、光熱費の増加が私のところでも非常に困っているんですけども、こちらはいかがでしょうか。

亀井副校長：実は、今、高専を取り巻く、高専だけではないんですけども、信州大学でもそうなんです、契約の手法を見直すように言われていまして、いわゆる新電力というところが、競争原理を働かせなさいということで、契約手法を見直すように言われているところで、そのところで、たまたまだったんですけども、うちは入札を1回実施したところではあったんですけど、新電力さんが入ってこなかったということで、従前どおりの中部電力さんからの契約に基づく電気の供給を受けているところでございます。今委員長からもお話がありましたけれども、光熱水料につきまして、光熱水料というか、これはどこの高専、どこの大学も同じような形になっているんですけど、やはり単価の向上というのがございまして、それは今のところは何とか内部の中で省エネ等々を図ることなるべく使用量を抑えてやっていこうということで、実際法人運営はしているところであるんですけども、それでもやはり今回の高騰というのは結構厳しい話で、実際のところ、機構本部が高騰に基づいて、今後、何か差額支援なりをしていただけるのかどうかというのは、今の段階でまだ不透明なところではあるんですけども、そういう形で機構で留保している予備費などを使って、値上げ部分について支援していただければいいなと個人的には思っておりますが、今のところは法人の中の、法人というか、学校の中で何とか捻出を図っているところでございます。簡単ですが、以上です。

天野参与：ありがとうございます。うちも国から補助はあったんですけども、実際には半分ぐらいしか賄えていないので、自助努力せざるを得ないということで、今年は何とかなるんですけども、次年度のほうはもっとリスクが上がると思っております。ほか、よろしいでしょうか。すみません、私の運営がまずく、かなり時間が超過で、総合討論をする時間なんです、予定の時間、あまり時間は残っておりませんが、全体を通して皆さんから何か御質問、御意見がありましたらお願いします。

(3) 質疑応答・意見交換

倉島参与：58の小項目ということで、これは大変なチェック項目だなと思うんですが、私、お話を聞いている中で、組織の適正化とか予算の適正化かどうかという話、これは根本的な話なんですけれども、そんなに人そのものが欲しいからといって増えるわけでもなく、恐らく、私、学校の運営に関してはあまり素人みたいなことを言って申し訳ないんですけども、結局組織の人数とか予算というのはある程度決まってくるという前提でこれが行われていると理解をしております。そういう中で、そこについてどうこうというよりも、これだけのチェック項目を今後転がしていくということになると、今の評価のやり方を教えていただきたいんですけど、これはあくまでこの項目に沿って担当者が自己評価をして、この資料にまとめて出てくるというような趣旨で、何か経営層の中でこういうものを全体を見通して議論を行ったりとかという仕掛けになっているんでしょうか。それがもうこの項目は担当者がお願いといって担当者に投げて自己評価をして吸い上げているだけの、そういう趣旨なのか、そこら辺の今のこの全体の評価の仕方について教えていただきたいなというところはどうでしょうか。

古川副校長：総務担当の私から御説明いたします。これは基本的に担当者の方から評価をつけていただいています。それで我々副校長と校長が属する執行会議のところこの一覧表を上げて、そこで一応議論はしてございます。ただ、細かな、本当に一個一個その会議の中で十分に議論しているかどうかという、それは時間の都合でなかなか難しいところがあります。

倉島参与：ありがとうございます。実は私ども行政も同じような、こういう項目というのがいっぱいあって、どうしても担当者任せになりがちで、我々も工業技術総合センターとかで同じような評価をやったりするんですけども、結構関連の項目があるので、担当者ではなくて皆さんで少し議論を深めることによってより前進できるような項目も幾つかあるなど感じましたので、私ども自戒も含めて、そんなようなことを仕掛けとして何か考えていかないと、人数がこれでオンされる、これだけの仕事もオンされるわけですから、恐らく、放っておくと形骸化されていくというか、評価をすること自体が目的になりがちなものですから、そんなような感想を持ちました。あと、私ども研究という意味では、さっき言った工業技術総合センターというのをぜひ今後の県の成長分野に向かったところで大いに医療機器や航空機や、それこそEVも出てきていて、何とかやって盛り上げていこうということで、県を挙げて少し予算をいただきながらやろうという動きになっております。ぜひ高専さんとも研究という面でぜひ一緒にやってやらせていただきたいと思っておりますので、そんなことをお願いしまして、今日はありがとうございました。

柳見沢参与：先ほども申したんですけれども、高専さんの学生さんの質の高さというのは非常に感じるということなんですけど、私の知っている事例で、長沼小学校でプログラミングのやり取りをされていたというときに、私もたまたまその子供たちの場面に居合わせたんですけれども、非常に子供たちが意欲的にプログラミングをしているんですね。それは高専の学生さんが持っているスキルに対して求める子供たちがうまく関わることができたということだと思うんです。ですから、高専さんが得意としている分野で、しかも学校サイドで必要としているようなところへ関わりを持っていくというようなことをアピールすることが高専の学生の質を外へ向けて発信するいい機会になるんじゃないかなということを思っているんです。非常に学生の持っているスキルをどう売り込むかということが高専のPRにつながるかなということを強く感じています。それからもう一点、今日、私どもで評価を宿題にされたというか、やるようになってはいるわけですが、昨年度もこの評価をどうするかということがオンラインの中で議論され、昨年度は評価は難しいということでやらなくてよかったという経緯があったかと思うんです。今回評価しますけれども、私は、非常に高専に関わる機会があるんですけれども、評価する者として高専へ来れる機会を提供してもらおうということが大事なんじゃないかなというようなことを思うんです。だから、そんなようなことも今後検討いただいて、評価のところへ直接感じ取れる私たちの立場も保障していただけるとありがたいなと、こんなことを思いました。以上です。

古川副校長：ありがとうございます。今のあとの話なんですけれども、高専に来れるような機会というのは参与会以外に見学だとか授業に見に来るというか、そういった機会ということでしょうか。

柳見沢参与：そうです。

古川副校長：ありがとうございます。

天野参与：私から1点よろしいでしょうか。この自己点検・評価は多分内部でやることですから全項目やられていいのかなと思うんですけれども、外部評価に関して、全部網羅するのは短時間で非常に難しいなと思ひまして、各年度で重点項目を定めて、その項目を毎年外部評価でやって、それが何年かで全ての項目に回るというような、そういうことをやられると、我々も分かりやすいのではないかなというところで、特に今年はこれを重点にしたいというような形でやっていただけたらというのは私の提案でございます。

古川副校長：御意見ありがとうございます。私どもも、これを今回用意しながら、内容が盛りだくさんで、無理かなということは認識しておりました。ですので、来年度以降、重点を絞ってやると同時に、こういった評価以外のこと、最近の高専の変わったところとか、そういったトピックスのお話ができるチャンスがないといけないかなと認識しておりますので、来年度以降変えていきたいと思っております。

天野参与：もう時間が来ておりますので。

小河原参与：2点お願いします。まず、1点目、今年からカリキュラムが変わったわけなんですけれども、これから1年から2年に上がるときの学生の退学者数と留年者がおりましたらその数を教えていただきたいのと、例年より多いのか少ないのかということ。それと、もう一つは、財務に関係があるかと思うんですが、今、高専バス、大分苦戦されているとは思いますが、その辺のところでもうちょっと利用者を増やすとか、逆に言えば、技術振興会、池田会長がおられますけれども、そういったところで、スポンサーを集めてきれいなラッピングバスに看板をつけちゃうと見栄えが悪いんですけれども、そんなことで少し収益性を上げてもらうとか、例えば、中にモニターがあると思うので、学生の復習ができるような授業風景を撮っておいて、それを中で学生に流して、バスに乗る学生はちょっと得だよみたいな感じで、そんなことをしていただいて、利用されている学生もおるようなのですぐにはやめるわけには思うんですが、そんなことでもうちょっと利用者を増やす、収益性を上げることも御検討いただきたいと思ひます。これは要望な

ので返事は要らないですけれども、退学者とかその辺だけ数を教えていただければ。

濱口副校長：教務主事の濱口からお答えします。1年生についてということで、1年生につきましては、まだ留年等についてはまだ成績会議がこの後ということになりますので、不明の部分はあるんですけども、カリキュラムが、例えば1年生の学ぶ内容が2年生に上がっている、少しゆとりを持ったカリキュラムにしたところで、私、数学担当なんですけれども、数学に関しては成績は2年に比べてすごく上がっているなという印象がございます。退学者については、実は4月の入学の時点から登校できずという学生が1名だけ、その方向で現在ということになっています。

小河原参与：じゃ、例年多分1、2名程度はいたと思うので、あまり変わらないという。

濱口副校長：そうですね。1年生だとそういうあまり変わらない感じですよ。

小河原参与：ありがとうございます。

亀井副校長：バスの関係でございます。簡単に御説明させていただきますと、去年の段階では、バスを走らせますよというお披露目をしたのが実は合格者説明会のときでしたので、もう寮に入るとか、そういったある程度本人の意向はもうかなり決定している段階でいきなりバスということもありましたので、なかなか利用者数が伸びなかったというのがあるんですが、今年につきましては、夏から何度も志願者、入学希望者に対しましてバスというのをかなりもう見せておりますので、そういった部分では、去年よりは人数が増えるんじゃないかなと期待をしておるところでございます。松本支部等々で行われます講演会にも、私どもで御説明に上がってバスの利用を促進したいなと思っております。また来年はもうちょっといい数字がお伝えできるといいなと思うんですが、やはりバスを走らせるということを最初に言っているところもございまして、先ほどもありましたけれども、なかなか明日からすぐやめますとはなかなか言えないところではあるんですけども、費用対効果も考えて、今後学校の中でも議論していきたいと思っております。貴重な御意見ありがとうございます。

小河原参与：同窓会にお願いするのがなければいいので。

天野参与：そのほか、全体、よろしいでしょうか。ないようですので、それでは、事務局にお返ししたいと思います。

7. 閉会

江崎校長：本日は、2時間程度にわたりまして、本校の教育の質保証、それから教育環境、学生支援、研究並びに地域貢献、あるいは学校運営等に関連した自己点検・評価シート及びその評価の結果につきまして、参与の皆様方から大変貴重な御意見をたくさんいただきまして誠にありがとうございました。心より感謝申し上げます。いただきました御意見は、本校の今後の自己点検・評価体制にしっかりと反映をさせて、高等教育機関としての一層の充実につなげていきたいと思っております。どうか今後とも引き続き皆様方の御支援、それから御協力、そして御指導を賜りますことをお願いいたしまして、大変簡単ではございますが、閉会の御挨拶とさせていただきます。本日はどうもありがとうございました。

以上

付録 6 令和 4 年度教育改善委員会議事概要

令和 4 年度 第 1 回教育改善委員会 議事概要

日 時 令和 4 年 5 月 2 6 日 (木) 16:15～17:00
場 所 第 1 会議室

出席者 楡井 雅巳 鈴木 宏 中島 彩奈 宮崎 忠
中山 英俊 (田中秀登委員代理) 西川 嘉雄 久保田和男
佐久間敏幸 古川万寿夫 学生課長

欠席者 無

議 題

1. 2022 年度教育改善委員会の活動内容(案) 資料 1 : 担当、委員会の活動、カレンダー

- ・今年度の主な活動内容を説明した。
- ・過日実施した R3 年度学生との意見交換会の報告書は学生支援委員会から入手する。
- ・業務分担(案)中に年度計画の担当についての記述が無いので作成することになった。

2. 各種点検・改善システム 資料 2 : 点検、改善システム

- ・システム概略を説明した。
- ・昨年度と同一のシステムで実施することとした。
- ・資料について各自読んでおいてほしいと委員へ依頼した。

3. エビデンス収集について 資料 3 : エビデンス収集について、表紙、エビデンスチェックシート

- ・作業概略を説明した。
- ・非常勤講師からの収集については個人ごとの Google ドライブを作成し保存する予定。
- ・従前からグループウェアに必要なフォルダを作成し保存する方式で実施している。
- ・保存用 SSD を 2 台購入しバックアップ体制が取られている。

4. 2021 年度報告書 資料 4 : 令和 3 年度報告書

- ・報告書の概要を説明した。
- ・報告書に目を通しておいてほしいと委員へ依頼した。

次回開催予定 7 月 28 日 (木) 16:15～第 1 会議室

令和4年度 第2回教育改善委員会
議事概要

日時 令和4年7月28日(木) 16:15~16:45

場所 第1会議室

出席者 楡井 雅巳 中島 彩奈 宮崎 忠 田中 秀登
 西川 嘉雄 久保田和男 佐久間敏幸 古川万寿夫
 学生課長
欠席者 鈴木 宏

議題

1. FD計画について

- ・委員長から以下のようなFD研修会を企画してはどうかと提案があった。
- ・男女共同参画推進室は本年度はFDの形では研修会を行わない意向である。
- ・FD研修について、テーマ提案いただくよう依頼した。

○ 教務委員会：質保証のFD研修

重点6項目（教育IRの概念、ポートフォリオを本科でも導入など）のテーマではどうかという意見有。→教務委員会と相乗り

○ メンタル面での寄り添い・・・カウンセラーかスクールソーシャルワーカー

いじめ対策委員会企画で11月にスクールカウンセラーの講演予定有→相乗り可能性

○ 科研費採択にむけて・・・採択率の高い教員

○ オンライン授業のテクニック・・・民間に依頼？

2. エビデンス収集について

- ・各委員へ担当学科の本年度前期分のチェックシート内容の確認、学科内予定のとりまとめを依頼した。(GW中のR4年度チェックシートを参照するよう指示有)
- ・エビデンス収集期間を協議し9/20(火)~10/14(金)に決定した。
- ・エビデンス未提出者へは夏休み前までに提出するよう委員から依頼する。依頼しても提出しない教員へは委員長から直接依頼を行う。

3. 各委員会の年度重点項目について

資料1

- ・現状の資料を確認した。未提出委員会等へは提出を依頼中。

4. 教育改善システムの実施と評価・点検

- ・8月下旬にR2年度報告を配布、それと同様の形でR3年度分を整理する
- ・R3年度分の整理の依頼は改めて行う。9月下旬にはR3年度報告案をいただく予定。

報告事項

1. 試験問題レベルの保証確認

- ・前期成績入力後、レベル保障確認作業を10月上旬に行う予定。
- ・8月下旬頃、委員へ作業を依頼する。
- ・対象科目はJABEE科目とし、専攻科科目があれば優先する。(4年生以上の科目)
- ・去年の資料を委員へ事務的に共有することになった

2. その他

○教育改善報告書中の参与会のコメントに対応する必要がある件

- ・各自で前回委員会資料(参与会議事概要)を見て各委員会の重点項目と照らし合わせ、学校運営改善に向けた意見等を次回委員会で報告するよう委員へ依頼を行った。

次回開催予定 9月29日(木) 16:15~第1会議室

令和4年度 第3回教育改善委員会
議事概要

日時 令和4年9月30日(金) 16:15~16:45
場所 第1会議室

出席者 榆井 雅巳 鈴木 宏 力丸 彩奈 田中 秀登
 西川 嘉雄 久保田和男 佐久間敏幸 古川万寿夫
 学生課長
欠席者 宮崎 忠

議 題

議事

- 1.令和4年度前期期末達成度評価レベル確認について 資料№1
 - ・資料に基づき前期期末試験問題等のレベル保障確認の依頼を行った。
- 2.令和3年度授業改善システムチェック報告書について
 - ・現在依頼しているこの件について、作成に向け不明点等を照会した。
- 3.教育の実施状況の確認について 資料№2
 - 令和3年度学修単位の学習時間の把握
(現状)特定のレポートを引き合いに相当の自学自習を主張
 - ・調査結果について議論を行った。
 - ・継続審議とした。

報告事項

- 1.FD計画について
学生相談の実態と対策等に係る講習会
日 時 令和4年11月9日(水) 16:10-16:35
開催方法 Teamsによる配信
講 師 スクールカウンセラー 青沼 恵美 氏

他のFD研修会案(教務主事には提案済)

質保証FD:重点6項目
新カリキュラムの状況(R5年度2年科目、1年科目の紹介)
系選択が希望どおりにならなかった学生への対応(校長?)

- ・セキュリティ関連のFDについて関係委員会へ照会中である。
- ・JABEE、機関別認証評価、内部質保証等の研修について実施可能かどうか検討する。

次回開催予定 11月17日(木) 16:15~第1会議室(予定)

令和4年度 第4回教育改善委員会
議事概要

日時 令和4年11月17日(木) 16:15~16:50

場所 第2会議室

出席者 楡井 雅巳 鈴木 宏 力丸 彩奈 田中 秀登
 久保田和男 佐久間敏幸 古川万寿夫

欠席者 宮崎 忠 西川 嘉雄 学生課長

議事

1. 2021年授業改善報告状況

- ・先月依頼した報告書について、未提出学科へ提出を依頼した。

2. 2022年エビデンスのチェック状況

- ・当該学科の本年度チェックシートを11月末を目途に整理してほしい旨委員へ依頼した。
- ・GWにある去年のものを利用して今年分を作成する。
- ・試験問題が去年と同じ問題を使用しているかどうかのチェックについて3科目抽出し調査するよう指示有。

3. FD活動について

- ・データ・セキュリティ関係FDの実施については、総務課と打合せが必要という意見があり、総務主事、総務課長へ検討を依頼することになった。
- ・FDとSDをからめて研修を行ってもよいのではないか。
- ・なるべく早期に実施する必要があるという意見有。

4. SD活動状況

- ・本年度は本校主催で情報セキュリティ研修会が9月12日にオンラインで実施された。
- ・これ以外に技術部で実施しているものの他、機構主催の研修会等の参加についても把握してほしいという意見があり、事務的にまとめることになった。

5. その他

- ・総務主事よりJABEE関係資料作成状況が報告された。来年秋の審査時のエビデンス提出については必要に応じて本委員会でフォローする。

報告事項

1. 第1回FD研修会報告

資料：報告書

日時：令和4年11月9日(水) 16:10~16:35

場所：第1会議室(Microsoft Teamsによる配信)

講師：スクールカウンセラー 青沼 恵美 氏

題目：本校における学生相談の実態と対策

出席者：約58名(Teamsによる参加者43名含む)

- ・出席者については、当日出席者の数であり録画を後日視聴した者については計上されていない旨を説明すべきという意見有。

2. その他

- ・年度計画関係

本委員会の報告が漏れている部分があるという意見があり、当該箇所について総務主事へ改めて報告することとした。

次回開催予定 1月26日(木) 16:15~第1会議室(予定)

令和4年度 第5回教育改善委員会
議事概要

日時 令和5年1月27日(金) 16:15~17:00
場所 第1会議室

出席者 楡井 雅巳 鈴木 宏 力丸 彩奈 西川 嘉雄
久保田和男 佐久間敏幸
中島 隆行(宮崎、田中の代理)

欠席者 宮崎 忠 田中 秀登 古川万寿夫 学生課長

議事

1.試験エビデンスのチェックおよび試験問題レベルチェックについて

- ・以下のスケジュールで行う旨説明があり、承認された。
- ・試験問題類似度の報告フォーマットについて委員長が作成することになった。
- ・試験問題が前年比50%を超えて同じ内容である場合は注意が必要であるという意見有。

(a) 後期中間達成度試験・学年末達成度試験・成績評価履歴

収集：2月20日(月)~3月10日(金) (成績締切2/13, 訂正締切2/22)

チェック：3月13日(月)~3月17日(金)

(b) 再試験・修了試験・成績評価履歴

収集：3月14日(木)~3月22日(水)

チェック：3月23日(木)~3月27日(月)

(c) 試験問題レベルチェック

2月20日(月)~2月24日(金) 事前に科目を整理

2.学生の満足度調査

- ・以下の期間等で調査をおこなう旨説明があり、承認された。

実施期間 令和5年2月3日(金)~2月10日(金) (2/3 発信予定)

回答方法 google フォーム

<https://forms.gle/jRVEEfHSbVyHcDAn6>

3.教育改善報告書目次案

資料1-1、1-2

- ・資料のとおり担当案について説明があり、承認された。
- ・第2回FD研修会については参加者アンケートをとり資料を作成することになった。

4.新任教員への支援体制について

資料2

- ・新任教員からの意見を集約した資料を配布し、支援体制等について議論を行った。
- ・共有ファイルに委員及び事務職員からの意見等について1月中を目途に入力してほしい旨依頼があった。

5.その他

- ・情報セキュリティに関するFD研修会について、教員会議後短時間で行うことは可能であるという意見有。

報告事項

1.第2回FD研修会を以下のとおり実施する件

令和5年3月14日(火) 講師：濱口教務主事

テーマ概要：来年度が完成年度となる質保証重点項目についての説明

2.メール目安箱の状況(1/23 現在)

学生12件、保護者1件、その他1件の意見等が寄せられた。

次回開催予定 3月の委員会開催日は後日調整する。

令和4年度 第6回教育改善委員会
議事概要

日時 令和5年3月24日（金） 10:00～10:50
場所 第2ゼミ室

出席者 榆井 雅巳 鈴木 宏 力丸 彩奈 久保田和男
 佐久間敏幸 古川万寿夫 中島 隆行（田中の代理）
 轟 直希（西川の代理）

欠席者 宮崎 忠 田中 秀登 西川 嘉雄 学生課長

議事

1.試験エビデンスのチェックについて

・年度内完成を目指し、委員各自エビデンスの提出状況を把握し、未提出の場合は督促等するよう指示があった。

2.本年度の活動について

【資料1】令和4年度教育改善委員会の活動内容

- ・本年度活用内容について説明を行った。
- ・委員会等の活動状況の点検については図書館以外は点検結果が提出された。
- ・その他一部実施しなかった部分もあったが、概ね予定どおりの活動を行えた。

3.教育改善報告書作業状況

【資料2】2022年度教育改善報告書担当

- ・各委員の担当部分の点検作業を行ってほしい旨依頼があった
- ・付録についてはそれぞれの議事録をもとに作成してほしいと依頼があった。
- ・学生との意見交換会議事録については事務で学生係へ照会することになった。

4.エビデンス収集、試験同一性チェック状況について

- ・試験同一性チェックが未実施である場合は実施するよう委員へ依頼があった
- ・試験同一性チェックの結果、問題があったときにどう対応するかが重要であるという意見あり。

5.第16回長野工業高等専門学校参与会における指摘事項について

【資料3】付録5 第19回長野工業高等専門学校参与会概要

- ・評価指標が不明瞭であることから、次年度の年度計画において KPI を設定することになった旨の報告。
- ・PDCA をどう回すか、年度計画、自己点検評価、機関別認証評価、JABEE との関わりをどうするかなど不明点があるという意見有。

6. その他

- ・後期の試験問題レベルチェックを実施していない場合は実施してほしいと依頼があった。

最後に来年度に向けて以下の意見があった。

- ・本委員会の業務が多すぎるため整理する必要があるのではないかと。
- ・ベテラン教員を委員にして、忌憚無い意見が言えるようにしたほうがよい。
- ・進級、卒業判定が規則どおりになっていないのではないかと。改善が必要であると。

報告事項

1.第2回FD研修会

3月14日(火) 14:30~16:00 100番教室
演題 「高専教育の質保証 重点項目について」
講師 教務主事 濱口直樹 氏

第3回FD研修会

3月29日(金) 16:00~16:15 100番教室
演題 「情報の格付けと取扱い」
講師 事務部長 亀井耕治 氏

2.学習・教育目標の達成度に関する調査報告書の点検

【資料4】付録1 専攻科学習・教育目標の達成度評価の確認報告

【資料5】付録4 令和4年度学生の満足度調査報告書

3.第16回長野工業高等専門学校参与会概要

4.メール目安箱 投稿数：15、学生：13、保護者：1、その他：1

以上